

REGZA

地上・BS・110度CS
デジタルハイビジョン液晶テレビ
形名 32G9 / 40G9 / 50G9

ルームトウシバ
お客様登録サービス「Room1048」に登録をお願いします!

Room1048は東芝デジタル商品のお客様登録サービス*です。
ご登録いただくと、さまざまなサービスやサポートが受けられます。
※お客様登録は、Web限定のサービスです。

※キャンペーン情報も
こちらをご覧ください。

>>>ご登録はこちらから!<<<<
<http://toshibadirect.jp/room1048/>

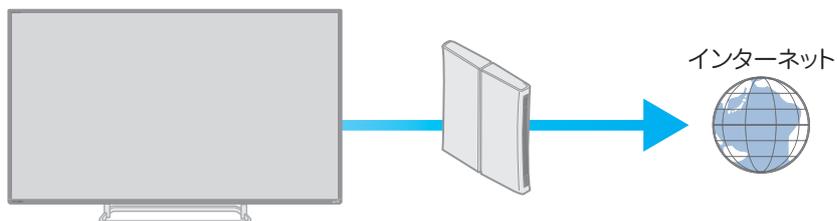
- ：：必ず最初に「安全上のご注意」 をご覧ください。
- ：：映像や音声が出なくなった、操作ができなくなったなどの場合は、「困ったときは」をご覧ください。

このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

本機の特長 ~こんなことができます~

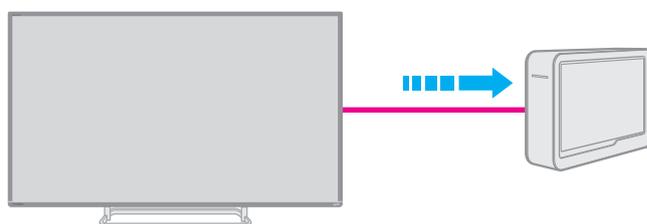
★クラウドサービスを楽しむ → 88～95 ページ

ネットワークを使って番組情報を友人と交換したり、お好みの動画やショッピングを楽しんだりすることができます。



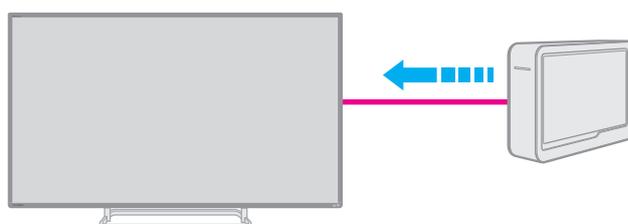
★録画する → 50～62 ページ

市販のUSBハードディスクにデジタル放送の録画・予約ができます。



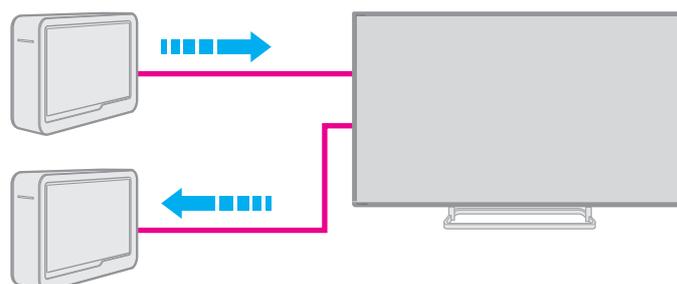
★見る → 63～68 ページ

市販のUSBハードディスクに録画した番組の再生ができます。



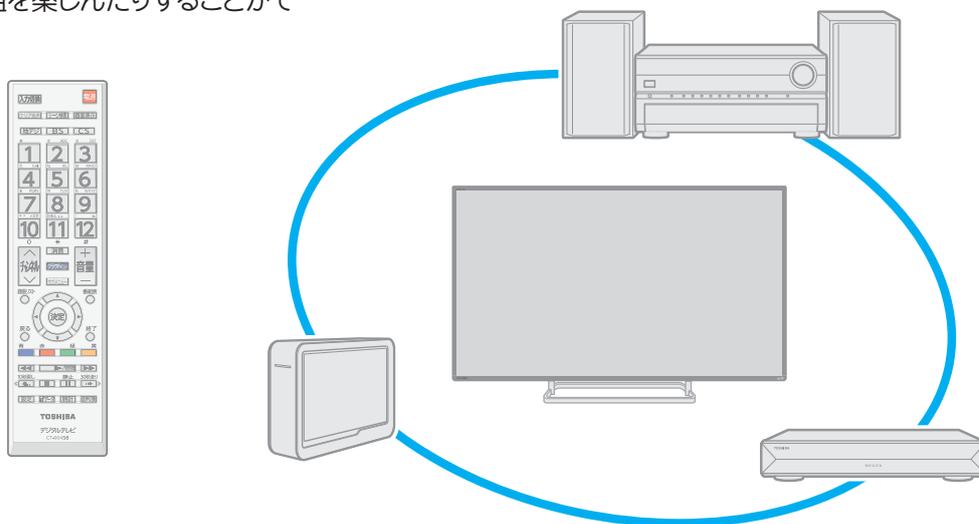
★ムーブ(移動)する → 71 ページ

市販のUSBハードディスクに録画した番組のムーブ(移動)ができます。



接続機器の映像・音声を楽しむ(レグザリンク)

HDMI連動機器を本機のリモコンで操作したり、接続機器の録画番組を楽しんだりすることができます。



アートクロック、アートアラーム機能 48

- リモコンの 時計 を押してアートクロックを表示できます。アートアラーム機能では、設定した日時にアートクロックでお知らせをしたり、オフタイマーの設定をしたりできます。

例：アートクロック



多彩な映像メニュー

- 周囲の明るさと見ている映像に合わせて、常に見やすい画質で表示される「おまかせ」のほかに、周囲の環境や映像に合わせて選択できる「あざやか」、「標準」、「ライブプロ」、「映画プロ」、「ゲーム」、「PC」などの多彩な映像メニューが用意されています。 96
- お好みに合わせて調整することもできます。 96 ~ 99

節電機能 46

- 「節電1」、「節電2」の二つの節電モードが用意されています。

もくじ

ご使用の前に

付属品を確認する	8
安全上のご注意	9
使用上のご注意	15
取扱いについて	15
電源プラグをコンセントから抜く際のご注意	15
録画・録音について	15
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき	15
免責事項について	15

各部のなまえ	16
前面	16
背面	16
本体操作ボタンと入出力端子	17
リモコン	18

テレビを見る

準備をする

19

スタンドを取り付ける(32G9)	19
スタンドを取り付ける(40G9、50G9)	20
miniB-CAS(ミニビーカス)カードを 挿入する	21
同梱のminiB-CASカードについて	21
挿入のしかた	21
取り出ししかた	21
テレビを設置する	22
正しい置きかた	22
転倒・落下防止のしかた(32G9)	22
転倒・落下防止のしかた(40G9、50G9)	23
デジタル放送の種類と特徴	24
アンテナを接続する	24
お願いとご注意	24
地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合	25
地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合 (マンションの共聴アンテナなど)	25
録画機器を経由する場合	25
リモコンの準備をする	26
乾電池を入れる	26
リモコンコードについて	26
リモコンの使用範囲について	26
電源を入れる	27
電源コードを接続する(40G9、50G9)	27
電源を入れる	27
電源を「待機」にする／切る	27
お願い…電源プラグの取扱いについて	27
メニュー操作手順の表記について	27
「はじめての設定」をする	28
「はじめての設定」について	28
「はじめての設定」の流れ	28
① 地上デジタルチャンネル～	
③ 映像メニューの設定をする	28
④ ネットワークサービス利用設定	28
「はじめての設定」をやり直すとき	29
地デジ難視対策衛星放送を受信するとき	29

テレビを楽しむ

30

テレビ番組を楽しむ	30
リモコンで番組を選ぶ	30
音量を調節する／音を一時的に消す／ 字幕を表示させる	31
本体の「機能切換」ボタンについて	31
操作ガイドについて	32
サブメニューについて	33
番組情報や番組説明を見る	34
番組情報を見る	34
番組説明を見る	34
番組表で番組を探す	35
番組表を使う	35
番組を見ながら他の番組を探す(ミニ番組表)	36
番組表を便利に使う	36
条件を絞って番組を探す	39
データ放送やラジオ放送を楽しむ	41
連動データ放送を楽しむ	41
独立データ放送やラジオ放送を楽しむ	41
外部入力の画面に切り換える	42
文字を入力する	43
便利な機能を使う	44
画面サイズについて	44
画面サイズを切り換える	45
降雨対応放送について	45
他の映像・音声・データを切り換える	45
映像を静止させる	46
節電モードを切り換える	46
声を聞き取りやすくする	47
ヘッドホンで聴く	47
外部スピーカーで聴く	47
アートロック(アートアラーム)を使う	48
アートロックを表示する	48
アートアラームを使う	48
アートアラームの動作について	49
アートアラームを一時的に解除する	49
オフタイマーを使う	49
アートロックを表示しない設定にする	49

録画機器やネットワーク機器の準備をする

録画機器の準備をする 50

- 録画・予約機能について 50
 - 録画できる機器と番組 50
 - 接続・設定と録画前の準備 50
- 録画用USBハードディスクの接続をする ... 51
 - USBハードディスクを接続する 51
- USBハードディスクの設定をする 52
 - USBハードディスクを本機に登録する 52
 - USBハードディスクの設定をする 52
 - 録画に使用する機器を設定する 53

録画機器やネットワーク機器の準備をする 54

- スマートフォンなどで本機を
操作できるようにする 54
 - 本機と端末機器をネットワークに接続する ... 54

録画・予約をする

- 番組を録画する 55
- 番組表で予約する 56
 - メッセージが表示されたとき 56
 - マルチ表示の番組表で予約するとき 56
- 連続ドラマを予約する 57
- 日時を指定して予約をする /
 - 番組を検索して録画・予約をする 58
 - 日時を指定して予約をする 58
 - 番組を検索して録画・予約をする 58

- 録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき ... 59
- 予約の確認・変更・取消しをする 60
- 予約・録画の優先順位と予約の動作について ... 61
 - 予約・録画の優先順位について 61
 - 予約の動作について 61
- おまかせ録画 62
 - おまかせ録画に必要な準備 62
 - おまかせ録画について 62

再生・編集・ムーブをする

再生する 63

- 録画した番組を再生する 63
 - 再生の基本操作とさまざまな再生のしかた ... 63
 - 録画番組の再生中にできるリモコン操作 ... 64
 - 録画番組の情報や番組説明を見る 65
 - 録画番組を修復する 65
 - シーン検索機能について 65
 - タグリストについて 65
- 見たい録画番組を探して再生する 66
- 不要な録画番組を消す /
 - 誤って消さないように保護する 67
 - 一つの録画番組を消す 67
 - 複数の録画番組を消す 67
 - グループ内の録画番組をすべて消す 67

- 自動的に消す(自動削除設定) 67
 - 誤って消さないように保護する 67
- 録画リストのさまざまな機能を使う 68
 - 繰返し再生の設定を変える 68
 - 番組を並べ替える 68
 - ほかの機器を選択する 68
 - 連ドラ予約をする 68
 - 機器の情報を確認する 68
 - ハードディスクの残量を確認する 68

編集・ムーブする 69

- グループ名を変更する 69
- ほかのグループに移動する 70
- 録画番組をムーブ(移動)する 71

接続機器の映像・音声を楽しむ

外部機器を接続する 72

- 外部機器を接続する 72
 - 映像機器接続例 72
 - アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で
聴くとき 73
 - 光デジタル音声端子付のオーディオ機器で
聴くとき 74
 - レグザリンク対応のオーディオ機器で聴くとき ... 74

- 外部入力の機能を設定する 75
 - 入力切替時に画面に表示される機器名を設定する ... 75
 - HDMI入力の画質が自動設定されるようにする ... 75
 - HDMI入力のRGBレンジを設定する 75
 - ビデオ入力の音声入力を設定する 75
- MHL対応機器を操作する 76
 - MHL連動機器の設定をする 76
 - MHL連動機器を操作する 76

接続機器の映像・音声を楽しむ (レグザリンク) 77

レグザリンクについて	77
レグザリンク機能でできること	77
HDMI連動機能について	78
本機のリモコンでHDMI連動機器を操作するための設定をする	79

本機のリモコンで対応機器を操作する	80
機器を操作する	80
本機のリモコンでできるおもな操作	82
オーディオ機器で聴く	83
オーディオ機器のスピーカーで聴く	83
オーディオ機器の音声を設定する	83

インターネットを楽しむ

インターネットに接続する 84

インターネットを利用するための接続をする	84
本機をインターネットに接続したときにできること	84
接続のしかた	84
インターネットを利用するための設定をする	85
IPアドレス設定	85
DNS設定	85
プロキシ設定	85
MACアドレス	85
接続テスト	85
ネットワーク情報	86
ネットワークサービスを利用するための設定をする	86
お知らせ・用語	87

クラウドサービス・ネットワークサービスを楽しむ 88

クラウドサービスとネットワークサービスについて	88
クラウドサービスやネットワークサービスに必要な準備	88
クラウドサービスの基本操作	88

ネットサービスを楽しむ 89

「インターネット」で情報を見る	89
基本操作	89
便利機能を使う	90
その他のネットサービス	95

映像・音声を調整する

映像を調整する 96

お好みの映像メニューを選ぶ	96
お好みの映像に調整する	96
明るさ調整	97
バックライト	97
ユニカラー	97
黒レベル	97
色の濃さ	97
色あい	97
シャープネス	97
詳細調整	98
お好み調整の初期化／映像調整の初期化	99

その他の映像設定	99
----------	----

音声を調整する 100

お好みの音声に調整する	100
高音	100
低音	100
バランス	100
ヘッドホーン／音声出力設定	100
光デジタル音声出力	101
デジタル音声出力タイミング	101
スピーカー設置設定	101
音声調整の初期化	101

調整・設定をする

アンテナを調整する	102
電波の強さ(信号強度)を確認する	102
アンテナを調整する	102
地上デジタルアッテネーター設定を変更する	103
BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する	103
チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき	104
地上デジタルチャンネルを自動で設定する	104

チャンネルをお好みに手動で設定する	105
視聴しないチャンネルをスキップする	106
チャンネル設定を最初の状態に戻すには	106
データ放送の設定をする	107
郵便番号と地域を設定する	107
災害発生時に文字情報を表示させる	107
ルート証明書の番号を確認する	107
データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら	108

視聴できる番組を制限する 109
 制限するために暗証番号を設定する 109
 番組の視聴を制限する 109
 インターネットの利用を制限する 110
 リモコンの設定を変更する 111
 2台のREGZAをそれぞれのリモコンで操作する 111

使わない放送選択ボタンの操作を無効にする ... 111
 お買い上げ時の設定に戻すには
 (設定内容を初期化するには) 112
 設定メニュー 一覧 113

困ったときは

こんな場合は故障ではありません 114

症状で調べる 114

症状に合わせて解決法を調べる 114
 テレビが操作できなくなったとき—テレビを
 リセットする 114
 操作 115
 映像 115
 音声 116
 地上デジタル放送 116
 BS・110度CSデジタル放送 117
 番組表 117
 お知らせアイコン  が消えない 117

録画・再生 118
 レグザリンク機能(HDMI連動) 119
 クラウドサービスやネットワークサービスが
 利用できない 119

エラーメッセージ 121

エラーメッセージが表示されたとき 121
 全般 121
 USBハードディスクに関するエラー表示 122
 東芝レコーダーに録画・予約をするときの
 エラー表示 122
 LAN端子を使った通信に関するエラー表示 123
 インターネットに関するエラー表示 123

その他

ソフトウェアを更新する 124
 ソフトウェアの更新機能について 124
 放送電波で送信されるソフトウェアを
 ダウンロードする 124
 東芝サーバーからダウンロードする 124
 ソフトウェアのバージョンを確認するには 124
 お知らせを見る 125
 miniB-CASカードの情報を確認する 126
 お手入れについて 127
 お手入れの際のご注意 127
 キャビネットと画面のお手入れ 127

Basic Operations 128
 仕様 130
 対応フォーマット 132
 本機で対応しているHDMI入力信号フォーマット 132
 ライセンスおよび商標などについて 133
 アイコン一覧 134
 番組についてのアイコン 134
 お知らせ、予約、その他についてのアイコン 134

資料

東芝デジタルテレビG9で使われる
 ソフトウェアのライセンス情報 135

さくいん 141

この取扱説明書内のマークの見かた

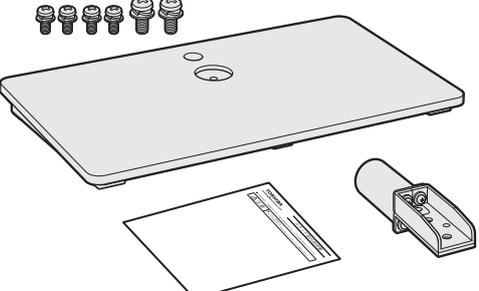
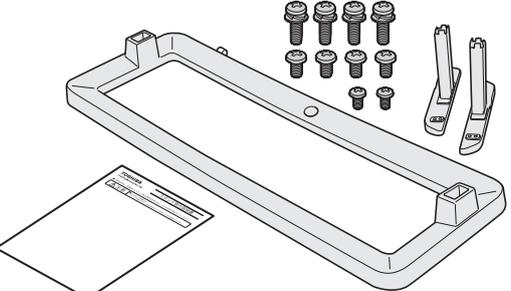
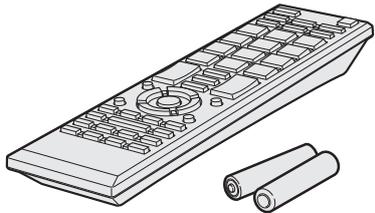
-  機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。
-  用語の説明をしています。(分野によっては、同じ用語を別の意味で使用していることがあります)
-  関連する内容が記載されているページの番号を示しています。

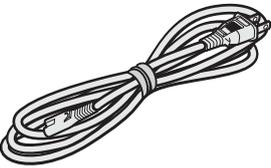
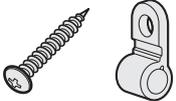
-  取扱上のお願いを記載しています。
-  取扱上のご注意を記載しています。

 ● この取扱説明書は、32G9、40G9、50G9で共用です。記載しているイラストは40G9のもので、他の機種はイメージが多少異なります。

付属品を確認する

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

付属品/名称	付属数
スタンド(32G9) ● テレビ本体に取り付けます。  	1 式 (ネジ6本*)
スタンド(40G9、50G9) ● テレビ本体に取り付けます。  	1 式 (ネジ10本*)
リモコン(CT-90458) 単四形乾電池(R03) 	リモコン 1 個 乾電池 2 個

付属品/名称	付属数
電源コード(40G9、50G9) 	1 本
ネジ、クリップ ● テレビの転倒・落下防止に使用します。  	各 1 個
miniB-CAS (ミニビーカス)カード ● miniB-CASカードはテレビ本体の背面に貼付された袋の中に入っています。テレビ本体に挿入します。 	1 枚
取扱説明書(本書) かんたんガイド ファーストステップガイド 「お客様登録サービス」のチラシ	各 1 部

* 付属のネジは機種によって異なります。

32G9	ネジ (小) : ワッシャー付 M4 小ねじ 長さ 12mm (4 本) ネジ (大) : ワッシャー付 M5 小ねじ 長さ 14mm (2 本)
40G9	ネジ (小) : M3 小ねじ 長さ 6mm (2 本) ネジ (大) : M4 小ねじ 長さ 8mm (4 本) ワッシャー付ネジ : ワッシャー付 M4 ねじ 長さ 12mm (4 本)
50G9	ネジ (小) : M3 小ねじ 長さ 6mm (2 本) ネジ (大) : M4 小ねじ 長さ 8mm (4 本) ワッシャー付ネジ : ワッシャー付 M5 ねじ 長さ 10mm (4 本)

※ 付属品紛失の際は弊社部品をお求めください。

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表示	表示の意味
 警告	“ ^{*1} 取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“ ^{*2} 取扱いを誤った場合、人が軽傷を負うことが想定されるか、または ^{*3} 物的損害の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。

*2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
 禁止	“⊘”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



異常や故障のとき

- 煙が出ている、変なおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災の原因となります。

お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 内部に水や異物がいいたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

- 落したり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

キャビネットが破損したままで取り扱おうと、けがのおそれがあります。

お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

安全上のご注意 つづき

警告

異常や故障のとき つづき

- 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く



プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

- 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する



指示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

- 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない



風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

- ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない



禁止

テレビが落ちて、けがの原因となります。

水平で安定したところに据え付けてください。

テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

- 振動のある場所に置かない



振動禁止

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

- 電源コードのコネクターは、本体のAC IN端子に確実に差し込む(40G9、50G9)



指示

差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。本機を移動したりしたときは、差込部分のゆるみがないかご確認ください。

- 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む



指示

● 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。

● 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。

● 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- 電源コードは、本機の付属品を使用する(40G9、50G9)



指示

付属品以外の電源コードを使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

- 本機に付属されている電源コードを他の機器に使用しない(40G9、50G9)



禁止

他の機器に使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

- 上に物を置いたり、ペットをのせたりしない



上載せ禁止

● 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体、ペットの尿・体毛などが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。

● 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

- 壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する



指示

工事が不完全だと、けがの原因となります。

- 転倒・落下防止の処置をする



指示

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなります。

転倒防止のしかたは **22** をご覧ください。

- miniB-CASカードを乳幼児の手の届く所に置かない



放置禁止

● 誤って飲み込むと窒息またはけがのおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。

● miniB-CASカードは、台紙(説明書)から取り出し、すみやかに本機のminiB-CASカード挿入口に挿入してください。 **21**

警告

使用するとき

■ 修理・改造・分解はしない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 電源コード・電源プラグは、



禁止

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり(熱器具に近づけるなど)しない
- 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない
- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない

火災・感電の原因となります。

■ 異物を入れない



異物挿入禁止

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線および本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない



禁止

感電の原因となります。

■ 包装に使用しているビニール袋でお子様が進んだりしないように注意する



指示

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

お手入れについて

■ ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する



指示

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

安全上のご注意 つづき

⚠ 注意

設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない



禁止

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 通風孔をふさがない



禁止

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 壁に押しつけないでください。(10cm以上の間隔をあける)
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない



禁止

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、



指示

- 包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う

ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、テレビを落としてけがをしたる原因となることがあります。

- 離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および転倒防止をはずす

はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

- 車(キャスター)付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、キャスターの固定を解除し、テレビを支えながら、テレビ台を押す

テレビを押ししたり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。

- 衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う
テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ 車(キャスター)付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する



指示

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。

畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずしないと、

揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

注意

使用するとき

■ テレビ台を使用するときは、



禁止

- 不安定な台を使わない
- 片寄った載せかたをしない
- テレビ台のトビラを開けたままにしない
- 耐荷重が本機の質量より軽いテレビ台を使わない

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない



禁止

タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない



引っ張り禁止

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ テレビやテレビ台にぶら下がったり、上に乗ったりしない



禁止

落ちたり、倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ ヘッドホーンやイヤホーンを使用するときは、音量を上げすぎない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ リモコンに使用している乾電池は、



禁止

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない
- 火や直射日光などの過激な熱にさらさない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ 液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない



禁止

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。もしも、ガラスが割れて液晶(液体)がもれたときは、液晶に触れないでください。

もれた液が目にはいたり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいたり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

安全上のご注意 つづき

⚠ 注意

■ テレビの周囲に薬品、芳香剤、消臭剤、化粧品、洗剤などを置かない



禁止

薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中には、プラスチックに付着すると劣化やひび割れを生じさせるものがあります。(詳しくは、下の「お知らせ」をご覧ください)

テレビのキャビネットやスタンド部分が破損すると、感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などがテレビに付着したときは、すぐにきれいにふき取ってください。

テレビのキャビネットやスタンド部分などにひび割れなどの破損が生じたときは、すぐにお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。



● 本機のキャビネット、スタンドなどにはプラスチックが多く使われています。薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などの中にはプラスチックに付着したままにしておくと、プラスチックの劣化・ひび割れ(ケミカルストレスクラック)の原因となる物もあります。

「ケミカルストレスクラック」とは、製品荷重などの応力が加わっているプラスチック部分に、薬品・芳香剤・消臭剤・化粧品・洗剤などが付着すると、付着物がプラスチック内部に浸透して応力との相互作用でひび割れや破損が発生する現象です。こぼれたこれらの液体などが、製品底面のプラスチック部分と設置台のすき間にしみ込んだ場合でも、放置すると発生することがあります。

お手入れについて

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

感電の原因となることがあります。お手入れのしかたはの「127」をご覧ください。

(電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」「15」をお読みください)

■ 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください



指示

本体の内部にほこりがたまっただまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。

特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 畳の上に置かないでください。金属部が直接畳に触れていると、さびが出たり、畳表に穴があいてしまう可能性があります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 本機の近くにキャッシュカードなどの磁気カードやビデオテープなどを置かないでください。本機から出る磁気の影響でデータや録画内容などが損なわれる可能性があります。
- 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
- 外部入力(HDMI入力1/2、ビデオ入力)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
 - ・ ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
 - ・ 外部機器の音声を直接オーディオ機器に接続して視聴する場合

電源プラグをコンセントから抜く際のご注意

- 電源プラグをコンセントから抜いたり、コンセントの元につながっているブレーカーを落としたりする際は、以下の手順で行ってください。
- 1 本機に接続したUSBハードディスクで録画やムーブをしている場合は終了させる
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」(**60**)の手順で確認してください。
 - 2 録画予約が設定されていないか確認する
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」(**60**)の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。
 - 3 本体の電源ボタンを押して電源を切る
 - 4 電源プラグをコンセントから抜く

録画・録音について

- 本機に接続した機器に録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
- 本機に接続した機器に録画・録音した内容の長期保存は保証できません。あくまでも一時的な保存・再生機能としてご使用ください。
- 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は録画することはできません。また、著作権保護のため、1回だけ録画が許された番組は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。
- あなたが録画・録音したものは、個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外は、著作権法

上、権利者に無断では使用できません。録画・録音したものを個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で楽しむ以外に権利者の許諾なく、複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。以下の行為なども、原則として著作権法上保護された権利を侵害することになりますのでご注意ください。

- 録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。
- 録画した番組をメールやメッセージサービスなどで他人に送る。
- 番組を録画したビデオテープやディスクなどの媒体を営利の目的で、または不特定もしくは多数の人に貸す。

著作権法に違反すると刑事処罰を受ける場合もありますので自己責任のもとでご利用ください。なお、著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」(**112**)で、暗証番号や双方向サービスの情報(住所・氏名、ポイント数などの利用者個人の情報)、ネットワークサービスの登録情報なども含めて、初期化してください。クラウドサービスをお使いのときに、「すべての初期化」を行わずに廃棄・譲渡をした場合、本機とリンクしている機器のカレンダー情報などが漏洩する可能性があります。
- 廃棄時にご注意ください
家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金(リサイクル料金)をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

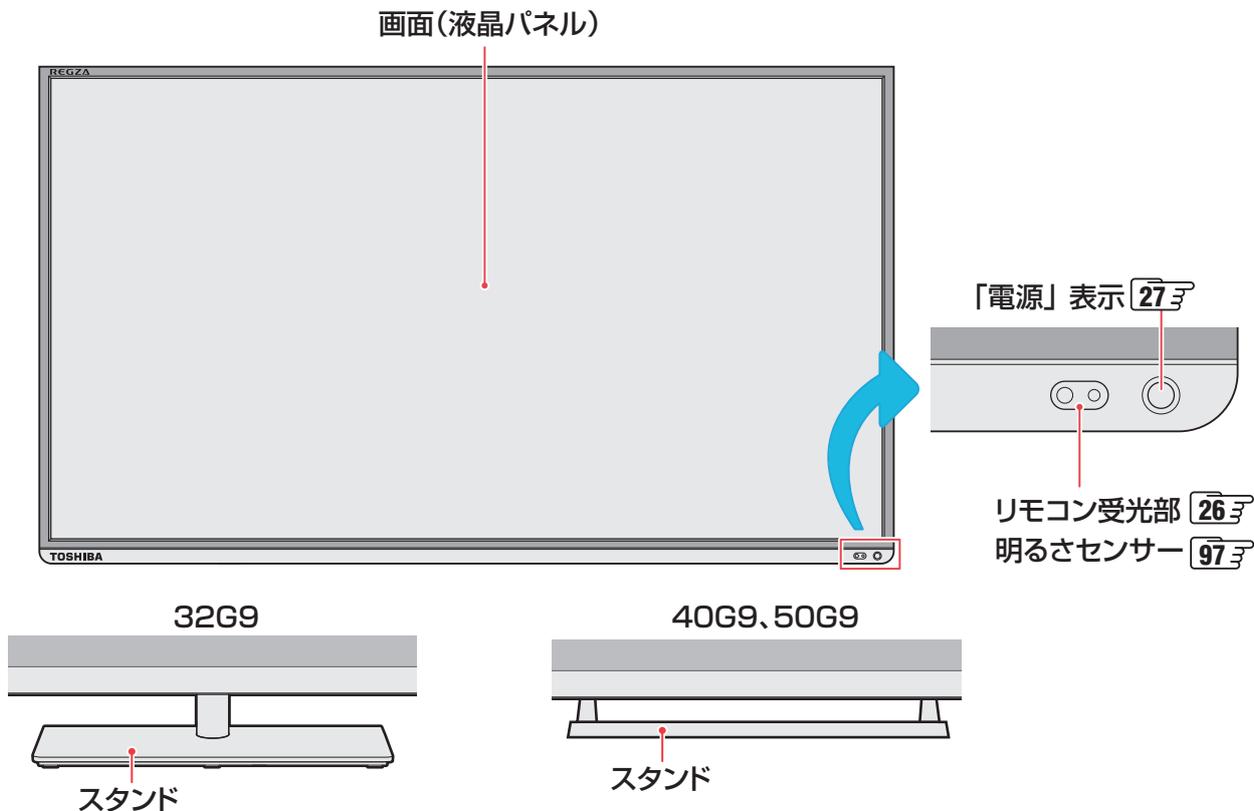
免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機に接続した機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。大切な番組の録画・録音には、本機との組合せによらない録画・録音機器を併用することをおすすめします。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶された利用者の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

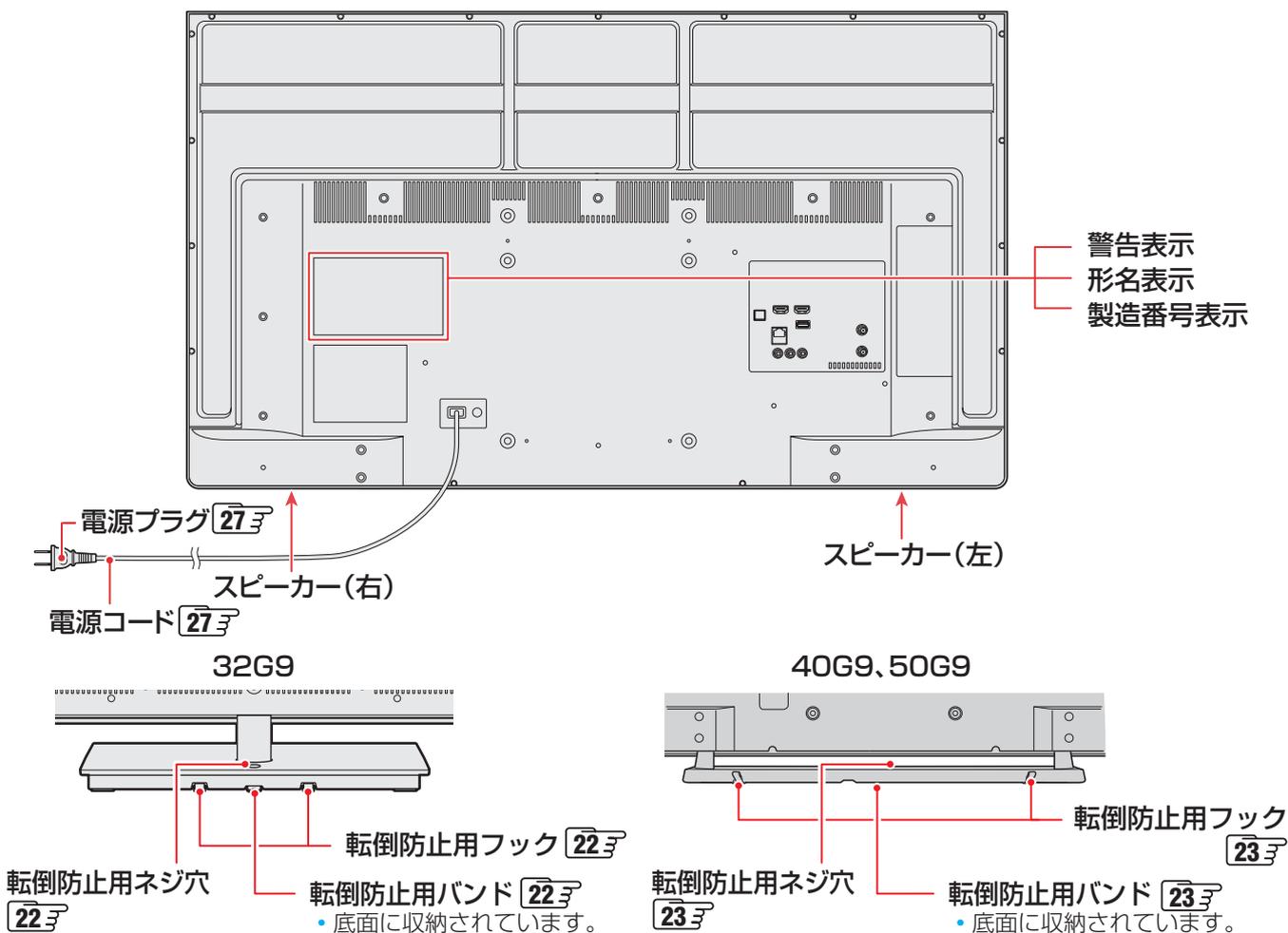
各部のなまえ

- 製品イラストは40G9です。他の機種はイメージが多少異なります。
- 詳しくは  内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

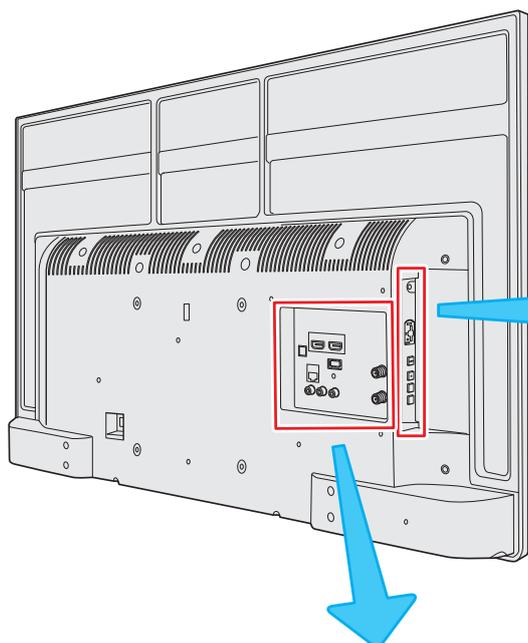
前面



背面



本体操作ボタンと入出力端子



ヘッドホン／音声出力端子 [47]

- ヘッドホンや外部スピーカーで聴くときに、プラグをここに差し込みます。

miniB-CASカード挿入口 [21]

- カバーを開けてminiB-CASカードを挿入します。

電源ボタン [27]

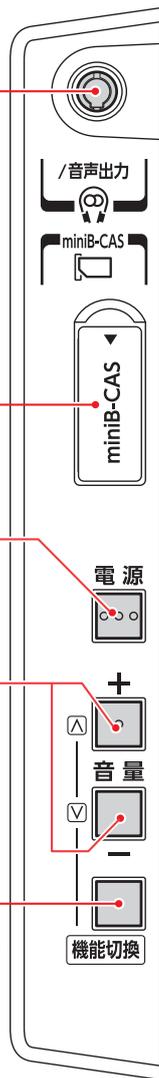
- 電源を「入」、「切」にします。

音量+・-ボタン [31]

- 音量を調節します。
- ※ 通常は音量の調整ボタンですが、「機能切換」ボタンを押すたびに、機能が切り換わります。

機能切換ボタン [31]

- 音量+・-ボタンの機能を切り換えます。



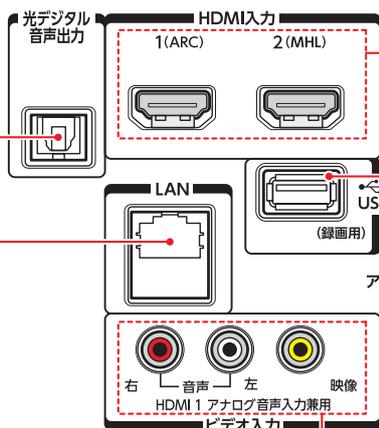
HDMI入力1端子 [72]

HDMI入力2 (MHL対応) 端子 [76]

- 映像機器やHDMI連動対応のオーディオ機器を接続します。
- HDMI入力2端子はMHL機器 (スマートフォンなど) の接続にも対応しています。

光デジタル音声出力端子 [74]

- 光デジタル音声入力端子を備えたオーディオ機器などに接続します。



USB (録画専用) 端子 [51]

- USBハードディスクを接続して録画・再生ができます。

BS・110度CSアンテナ入力端子 [24]

- 衛星放送を視聴する場合にBS・110度CS共用アンテナを接続します。

地上デジタルアンテナ入力端子 [24]

- 地デジ受信用のUHFアンテナを接続します。

LAN端子 [84]

- インターネットに接続します。

ビデオ入力端子 [72]

- 映像機器を接続します。
- 音声入力端子をHDMI入力1のアナログ音声入力端子として使用できます。

各部のなまえ つづき

リモコン

- 本書に記載している操作で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。(ボタンによっては、通常の操作時と機能の異なるものがあります)
- 詳しくは  内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

- 電源を入れる/待機にする…………… **27** ㉟
- 外部入力(HDMI1/ 2、ビデオ入力)機器の画面に切り換える…………… **42** ㉟
- 音声を聞きやすくする…………… **47** ㉟
- 「シーン」検索する…………… **65** ㉟
- 番組名や放送局名、放送時間などを見る…………… **34** ㉟
- 放送の種類を切り換える…………… **30** ㉟
- チャンネルを選ぶ(ワンタッチ選局)…………… **30** ㉟
- 文字を入力する…………… **43** ㉟

- チャンネルを選ぶ(順次選局)…………… **30** ㉟
- 音を消す…………… **31** ㉟
- ネットサービスを起動させる…………… **33** ㉟
- サブメニューを表示させる…………… **80** ㉟
- 音量を調節する…………… **31** ㉟

- 録画リストを表示させる(再生する)…………… **63** ㉟
- 番組表で番組を選ぶ(見る、予約する)…………… **35** ㉟
- メニューから選ぶ、決定する
- メニュー操作で一つ前の画面に戻る
- 操作を終了する

- カラーボタン…………… 多様な用途があります

- 再生、早見早聞再生をする…………… **64** ㉟
- 早送り、早戻し再生をする…………… **64** ㉟
- ワンタッチリプレイ(少し戻す)…………… **64** ㉟
- ワンタッチスキップ(少し進む)…………… **64** ㉟
- 番組表などでページを切り換える…………… **32** ㉟
- 録画や再生を停止させる…………… **55** ㉟ **64** ㉟
- 再生を一時停止させる…………… **64** ㉟
- 映像を静止させる…………… **46** ㉟
- 設定メニューを表示させる
- 連動データ放送を見る…………… **41** ㉟
- 時計、タイマー機能を使う…………… **48** ㉟
- 音声を切り換える…………… **45** ㉟



スタンドを取り付ける (32G9)



注意

■ 二人以上で作業する

ひとりで作業をすると、身体を痛めたり、けがをしたりする原因になります。

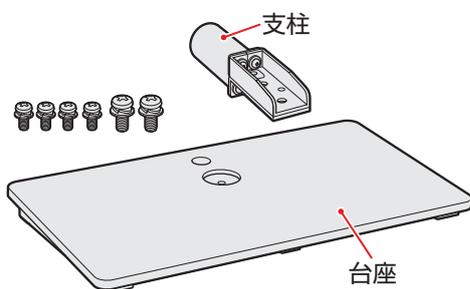
● このページの内容は、付属の別紙「スタンド取付説明書」の内容と同じです。

お願い

- スタンドを取り付けるまでの間、テレビ本体は包装箱の中で立てた状態にしておいてください。倒した状態で置くと、誤ってテレビの上に物を落としたときなどに、破損するおそれがあります。
- プラスドライバー（JIS 2番、直径6mm）をご用意ください。電動ドライバーをご使用の場合、トルクはおよそ1.5N・m(15kgf・cm)に設定してください。
- ※ 製品についている保護フィルムやテレビ本体に固定されている電源コードは、テレビの設置作業が終わってから取りはずすようにしてください。(図では省略しています)

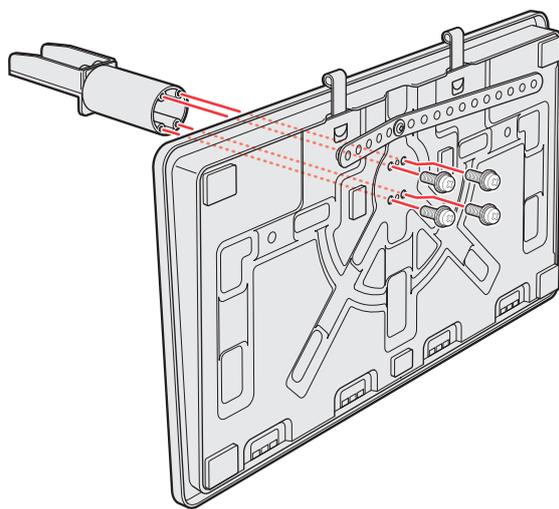
1 スタンド組立用部品を確認する

- 以下の部品がそろっているか、ご確認ください。
 - ・ ネジ(小)×4、ネジ(大)×2



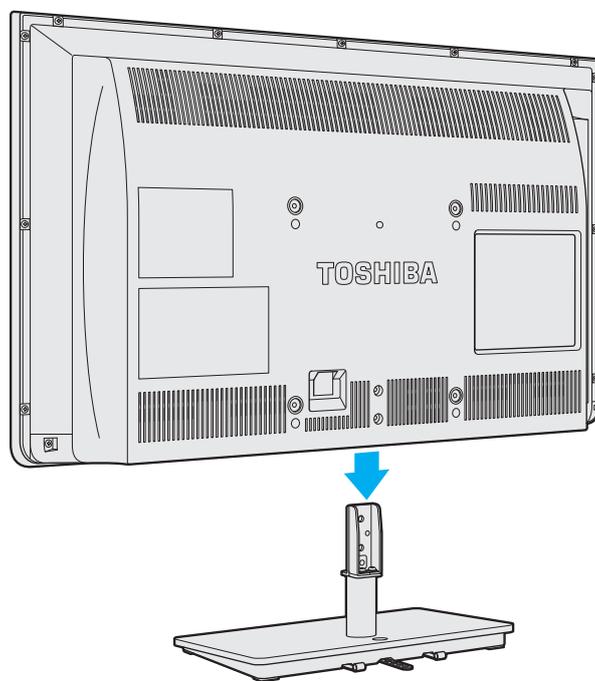
2 スタンドを組み立てる

- ワッシャー付ネジ(小) 4個で支柱を台座に取り付けます。



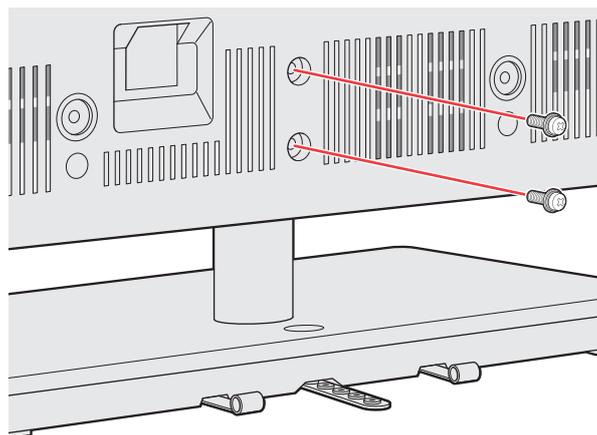
3 本体をスタンドに載せる

- 本体下部の溝に支柱が差し込まれるようにして載せます。
- ネジで固定するまでの間、不意の転倒・落下を防ぐために本体を支えてください。



4 本体とスタンドを本体取付用のワッシャー付ネジ(大) 2個で固定する

- ネジはしっかりと締めてください。



スタンドを取り付ける (40G9、50G9)



注意

■ 二人以上で作業する

ひとりで作業をすると、身体を痛めたり、けがをしたりする原因になります。

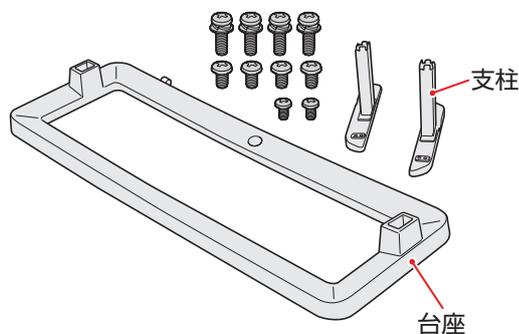
- このページの内容は、付属の別紙「スタンド取付説明書」の内容と同じです。
- 製品イラストは40G9です。50G9はイメージが多少異なります。



- スタンドを取り付けるまでの間、テレビ本体は包装箱の中で立てた状態にしておいてください。倒した状態で置くと、誤ってテレビの上に物を落としたときなどに、破損するおそれがあります。
- プラスドライバー（JIS 2番、直径6mm）をご用意ください。電動ドライバーをご使用の場合、トルクはおよそ1.5N・m（15kgf・cm）に設定してください。
- ※ 製品についている保護フィルムやテレビ本体に固定されている電源コードは、テレビの設置作業が終わってから取りはずすようにしてください。（図では省略しています）

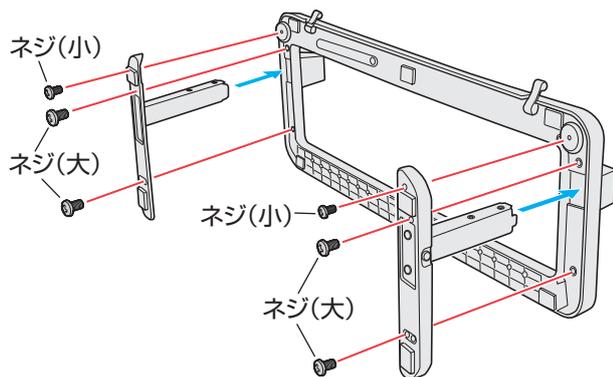
1 スタンド組立用部品を確認する

- 以下の部品がそろっているか、ご確認ください。
 - ネジ(小)×2、ネジ(大：長さ8mm)×4、ワッシャー付ネジ×4



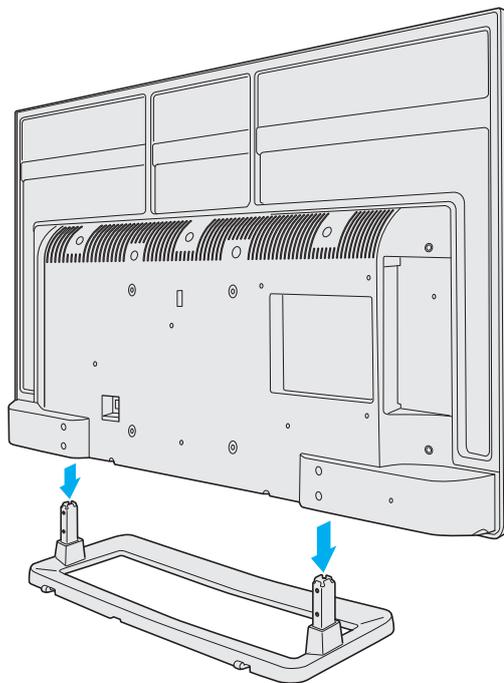
2 スタンドを組み立てる

- ネジ(小) 2個とネジ(大：長さ8mm) 4個で支柱を台座に取り付けます。



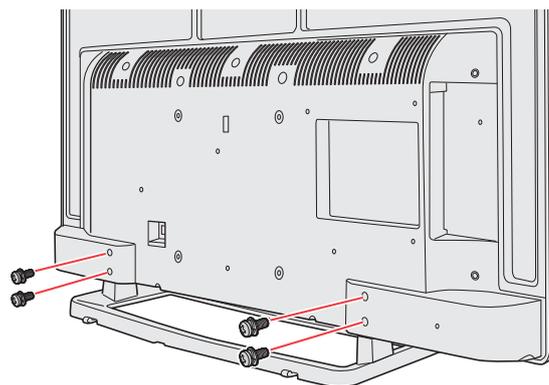
3 本体をスタンドに載せる

- 本体下部の溝に支柱が差し込まれるようにして載せます。
- ネジで固定するまでの間、不意の転倒・落下を防ぐために本体を支えてください。



4 本体とスタンドを本体取付用のワッシャー付ネジ4個で固定する

- ネジはしっかりと締めてください。



miniB-CAS (ミニビーキャス) カードを挿入する



警告

■ miniB-CASカードを乳幼児の手の届く所に置かない

- 誤って飲み込むと窒息またはけがのおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。

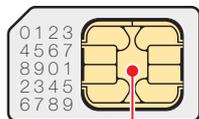
同梱のminiB-CASカードについて

- miniB-CASカードは、デジタル放送や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。常に本機のminiB-CASカード挿入口に入れておいてください。
- miniB-CASカードを台紙(説明書)から取り出してご使用ください。台紙(説明書)は裏面もよくお読みのうえ、大切に保管してください。



台紙(説明書)

miniB-CASカード

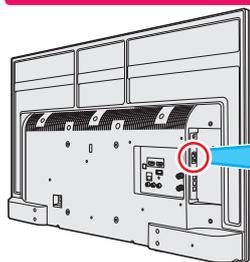


金色端子部

※ 金色端子部がよごれると放送を受信できなくなることがあります。金色端子部に触れないようにご注意ください。

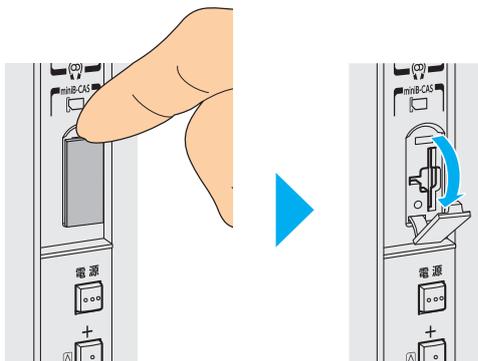
- miniB-CASカードを抜き差しするときは、本機の電源を切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 抜き差しの際は、落として紛失することがないようにご注意ください。
- 乾いたきれいな手で取り扱ってください。金色端子部が指紋などでよごれてしまった場合は、乾いたきれいな柔らかい布でふき取ってください。

挿入のしかた

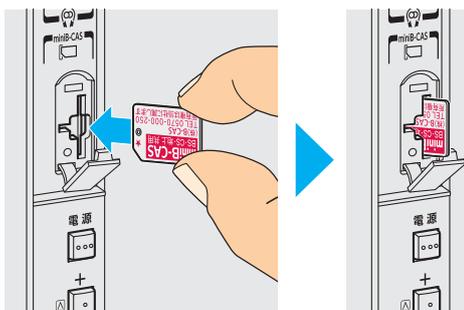


miniB-CAS
カード挿入口

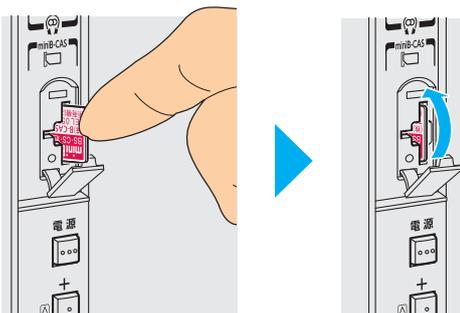
1 カバーを下に開く



2 miniB-CASのロゴ印刷面を本体の背面側に向け、角が欠けたほうから差し込む

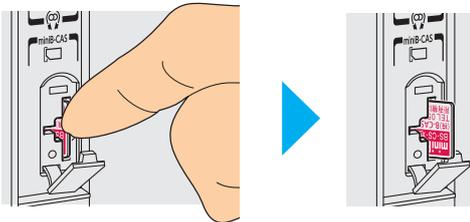


3 カチッと音が鳴るところまで押し入れて、カバーを閉じる



取り出ししかた

1 カチッと音が鳴るまで押し



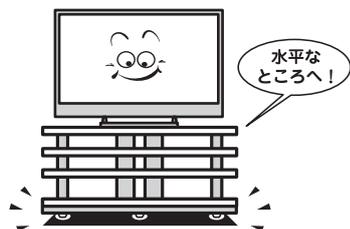
- miniB-CASカードが少し出てきます。金色端子部に触れないように注意しながら取り出します。
- miniB-CASカードを取り出したら、カバーを閉じておきます。

テレビを設置する

● 設置の前に「安全上のご注意」**9**～**14**を必ずお読みください。

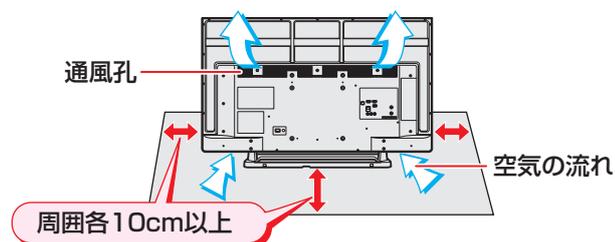
正しい置きかた

■ 丈夫で水平な安定した所に設置してください



■ 周囲からはなして置いてください

● 通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm以上の空間を設けてください。



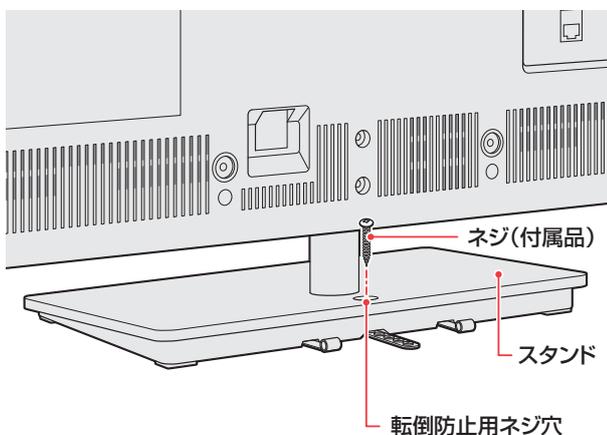
■ テレビ台を使用する場合

● テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

転倒・落下防止のしかた(32G9)

● 転倒・落下防止器具を取り付ける台や壁の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものです。すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

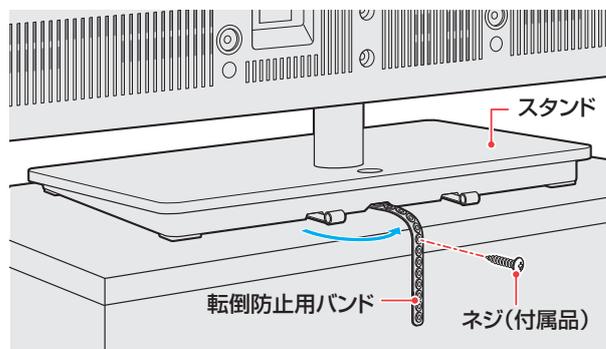
※ 固定後は、本機を押ししたり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。



その他の転倒・落下防止方法

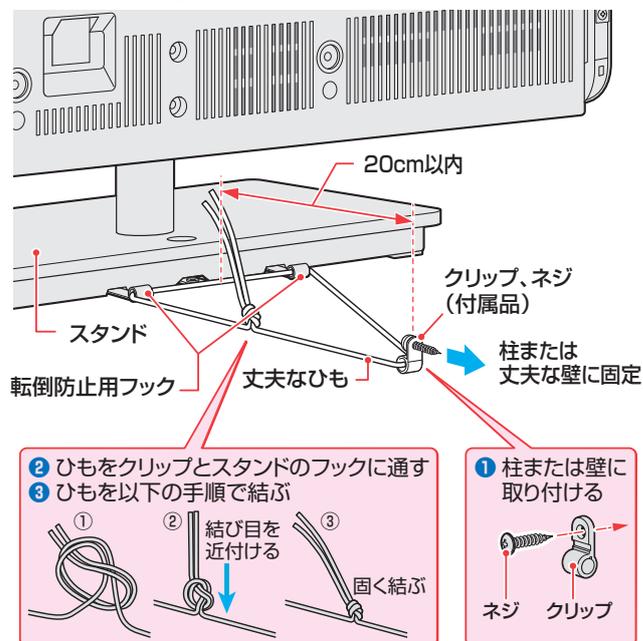
転倒防止用バンドを使用して固定するとき

● スタンド底面の転倒防止用バンドを後方に回転させ、設置する台の確実に支持できる背面に付属のネジで固定します。
 ※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近づけて設置し、お子様はいれないようにしてください。



壁または柱などに固定するとき

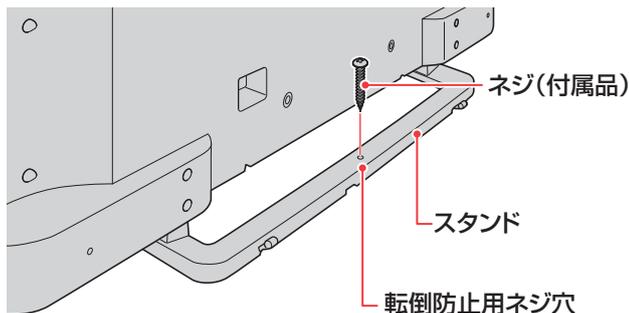
● スタンド背面の転倒防止用フックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定します。
 ● クリップはスタンド背面の転倒防止用フックと同じくらいの高さの場所に付属のネジで取り付けます。
 ※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因になりますので使用しないでください。



● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、本機の映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互に影響しない位置に設置してください。

転倒・落下防止のしかた(40G9、50G9)

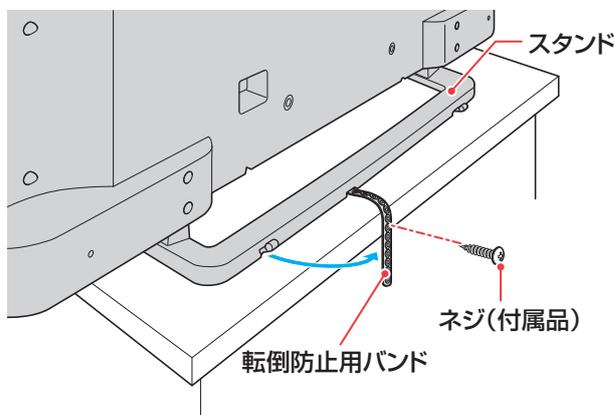
- 製品イラストは40G9です。50G9はイメージが多少異なります。
- 転倒・落下防止器具を取り付ける台や壁の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したのですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。
- ※ 固定後は、本機を押ししたり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。



その他の転倒・落下防止方法

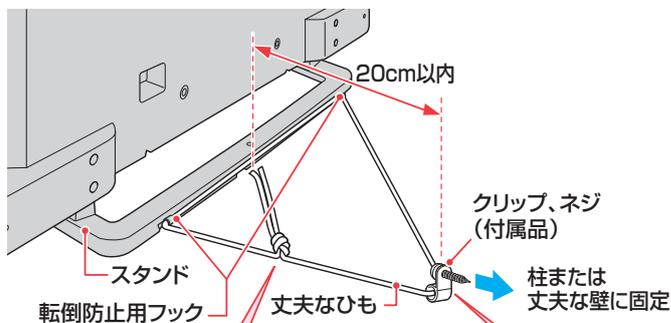
転倒防止用バンドを使用して固定するとき

- スタンド底面の転倒防止用バンドを後方に回転させ、設置する台の確実に支持できる背面に付属のネジで固定します。
- ※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近づけて設置し、お子様がいれないようにしてください。



壁または柱などに固定するとき

- スタンド背面の転倒防止用フックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもでも固定します。
- クリップはスタンド背面の転倒防止用フックと同じくらいの高さの場所に付属のネジで取り付けます。
- ※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因になりますので使用しないでください。



- ② ひもをクリップとスタンドのフックに通す
- ③ ひもを以下の手順で結ぶ



- ① 柱または壁に取り付ける



デジタル放送の種類と特徴

- 本機は以下の3種類のデジタル放送を受信することができます。

地上デジタル放送

2003年12月から関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で開始され、2006年末までにその他の都道府県の県庁所在地で開始された、地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。

- UHF帯の電波を使って行う放送で、高品質の映像と音声、さらにデータ放送が特徴です。
- 本機は「CATVパススルー対応」です
ケーブルテレビ局が再送信する地上デジタル放送を受信することができます。

BSデジタル放送/110度CSデジタル放送

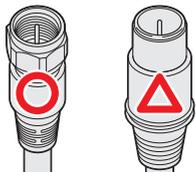
- 受信にはBS・110度CS共用アンテナを使用します。
- BSデジタル放送
デジタル方式の放送衛星(Broadcasting Satellite: 通称BS)を使用したデジタル衛星放送です。
 - 日本全国どこでも同じ放送を楽しむことができ、一部に視聴契約が必要な有料チャンネルがあります
 - 2種類のデータ放送(連動データ放送、独立データ放送)や双方向サービスがあります
- 110度CSデジタル放送
BSデジタル放送の衛星と同じ東経110度に打ち上げられている通信衛星(Communication Satellite: 通称CS)を利用して、スカパー JSAT(株)が運用しているデジタル衛星放送です。
 - さまざまなテレビ番組や専門チャンネル、データ放送などの多彩な放送があります
 - 多くのチャンネルで有料の視聴契約が必要です
 - ラジオ放送が運用されることがあります

アンテナを接続する

お願いとご注意

- ※ アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナや接続に必要なアンテナ線(同軸ケーブル)、混合器、分波器、分配器などは付属されておりません。
機器の配置や端子の形状、受信する放送の種類(電波の種類)などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。
- F型コネクタがネジ式のアンテナ線をおすすめします。
差込式のものを使用する場合は、本機のアンテナ端子のネジ部分と確実に接触するものをご使用ください。接触が悪いと、受信できなったり、ときどき映らなくなったりすることがあります。

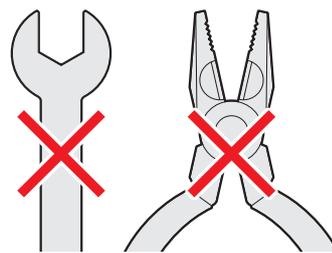
ネジ式の例 差込式の例



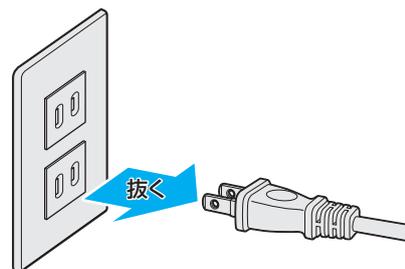
- F型コネクタのピンが曲がっていないか確認してください。曲がったままで接続すると、折れたり、ショートしたりすることがあります。



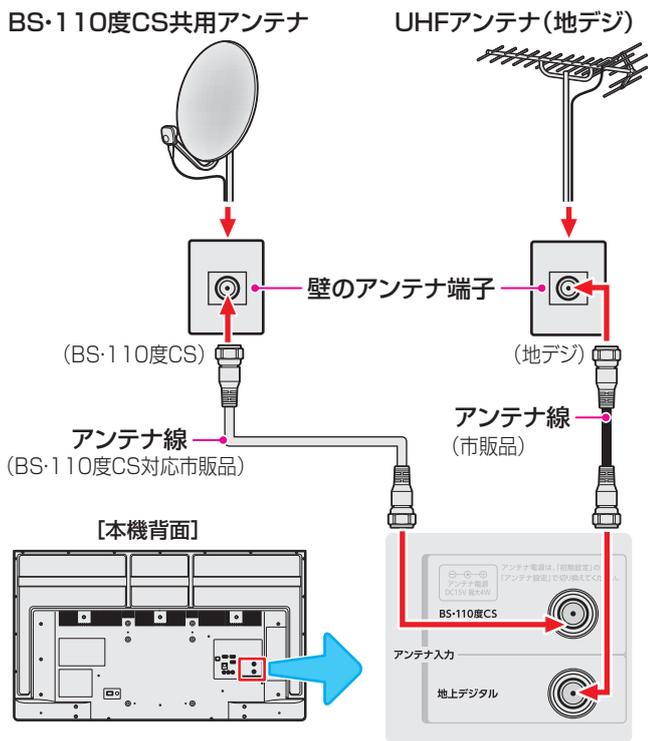
- アンテナ線のF型コネクタは、ゆるまない程度に手で締めつけてください。
工具などで締めつけすぎると、壁のアンテナ端子や本機のアンテナ入力端子、背面パネルが破損するおそれがあります。



- アンテナを接続するときは必ず本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

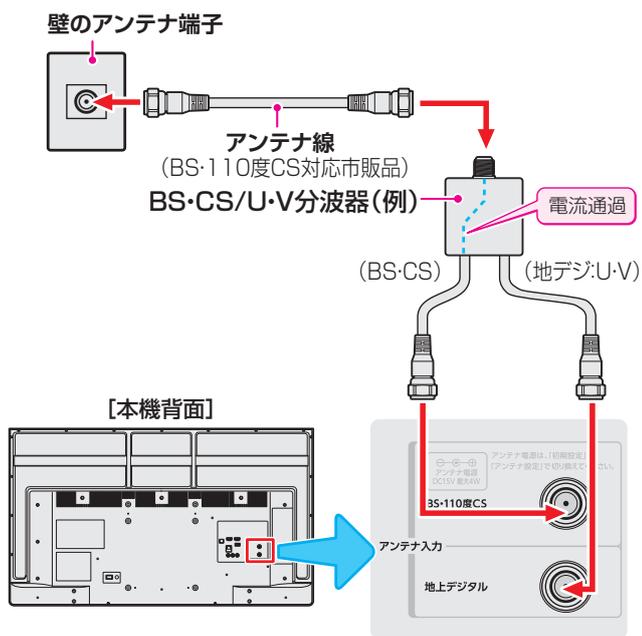


地上放送と衛星放送が個別のアンテナの場合



地上放送と衛星放送が混合のアンテナの場合 (マンションの共聴アンテナなど)

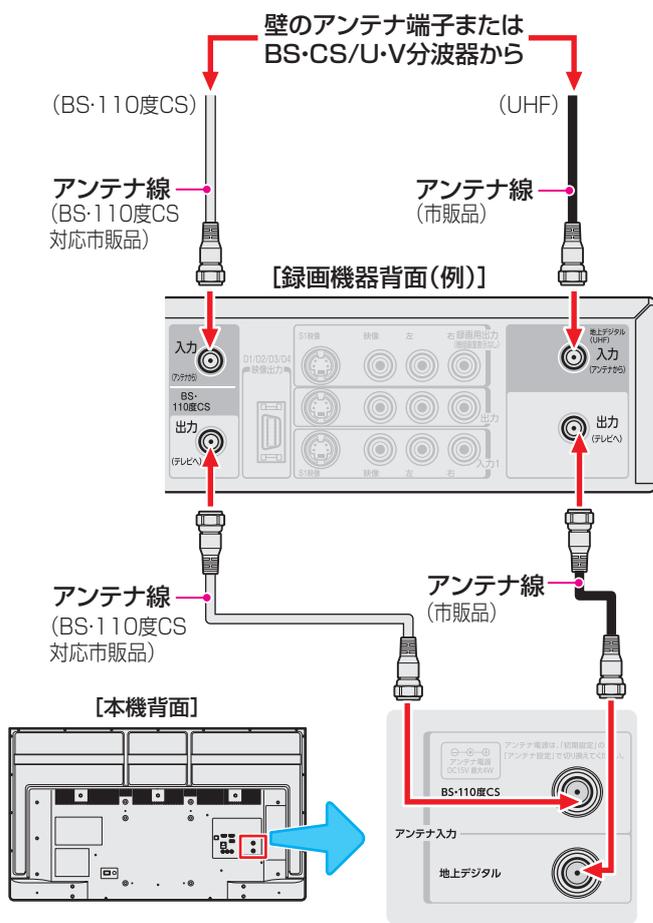
- 地上放送と衛星放送の電波が混合されて壁のアンテナ端子に届いている場合は、以下のように接続します。
- ※ マンションなどでの共聴システムの場合は、視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。



- BS・110度CS共用アンテナは電源を必要とします。BS・CS/U・V混合器や分波器は、本機のBS・110度CSアンテナ入力端子からアンテナ電源が供給できるように、電流通過型のものがようになります。
- ※ マンションなどでの共聴システムの場合は、本機からBS・110度CS共用アンテナ用の電源を供給する必要はありません。(「はじめの設定」**28**のあとで「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。詳しくは**103**をご覧ください)

録画機器を経由する場合

- 録画機器のBS・110度CSアンテナ電源が供給される設定になっていることを確認してください。詳しくは、録画機器の取扱説明書をご覧ください。



テレビが映らないとき

- 「はじめの設定」**28**をしてもテレビが映らない、または映りが悪いような場合は、録画機器を経由しないで本機に直接接続してみてください。改善される場合、本機の問題ではありません。
 - 録画機器の電源プラグが抜けていると、アンテナ出力端子に電波が出力されない場合があります。
- 症状が改善されない場合は、「アンテナを調整する」**102**をご覧ください。



- 録画機器で受信した番組や録画した番組を見るための接続については、「外部機器を接続する」**72**をご覧ください。

リモコンの準備をする

乾電池を入れる

- 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。お買い上げ時は単四形乾電池R03が2個付属されています。

1 電池カバーをはずす

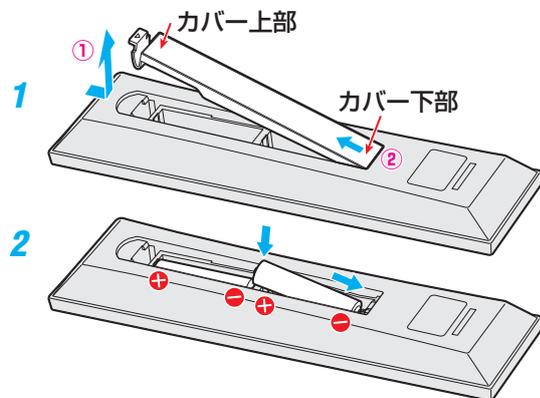
- カバー上部のツメをカバー下部方向に押しながらかすく上げ、電池カバーを取りはずします。

2 乾電池を入れる

- 極性表示 \oplus と \ominus を確かめて、間違えないように入れます。

3 電池カバーを閉める

- カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまでカバー上部を押し込みます。

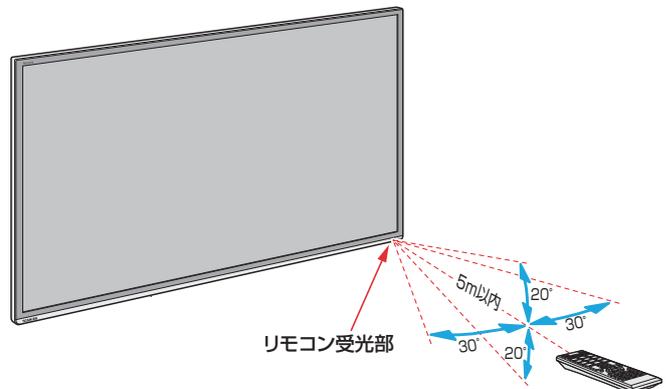


リモコンコードについて

- 本機のリモコンは、リモコンコードの切換ができます。
111
- お買い上げ時は「リモコンコード1」に設定されています。
- ※ 「リモコンコード2」に設定して使用していた場合、電池交換などでリモコンから乾電池を取りはずすと「リモコンコード1」に戻ることがありますので、ご確認ください。

リモコンの使用範囲について

- リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用します。
- リモコン受光部に強い光を当てないでください。強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります。
- リモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。動作しなかったり、動作しにくくなったりします。



- リモコン受光部から
距離……5m以内
角度……左右30°以内、上下20°以内

ご注意

■ リモコンについて

- 落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

お願い

■ 乾電池について

- 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。
- 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

電源を入れる

電源コードを接続する(40G9、50G9)

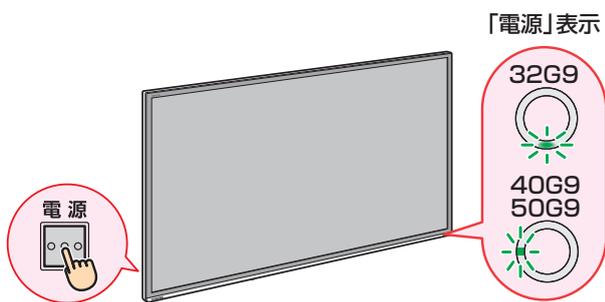
- 1 付属の電源コードのコネクターを本機背面のAC IN端子に接続する
 - 奥までしっかりと差し込みます。

電源を入れる

「電源」表示が消えているとき(「切」のとき)

「電源」表示が消えているとき、リモコン操作はできません。

- 1 本体左下背面の電源ボタンを押す
 - 電源が「入」になり、本体前面のリングが緑色に点灯します。



「電源」表示が赤色に点灯しているとき(「待機」のとき)

- 1 リモコンの電源ボタンを押す
 - 電源が「入」になり、「電源」表示が緑色に点灯します。

電源を「待機」にする / 切る

電源を「待機」にする

- 1 電源が「入」のときに、リモコンの電源ボタンを押す
 - 電源が「待機」(リモコン操作待受状態)になり、「電源」表示が赤色に点灯します。

電源を切る

- 1 「電源」表示が赤色または緑色に点灯しているときに、本体左側の電源ボタンを押す
 - 電源が「切」になり、「電源」表示が消灯します。
 - ※ リモコンでの操作ができなくなります。

お願い…電源プラグの取扱いについて

普段はコンセントに差し込んでおく

- 電源プラグは、非常時や機器の接続、お手入れなどをするとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。(旅行などで長期間使用しないときはコンセントから抜いてください)
- ※ 電源プラグを抜いたままにしておくと…
 - デジタル放送の番組情報が取得できません。
 - 予約した番組の録画ができません。

電源プラグをコンセントに差し込んでおけば、予約した番組の録画は、電源が「待機」や「切」の場合でも行われます。

電源プラグを抜くときは

- 非常の場合は、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 外部機器の接続や取りはずし、本体や電源プラグのお手入れ、周辺の清掃などで電源プラグを抜く場合は、その前に以下の確認をしてください。
- 1 本機に接続したUSBハードディスクで録画やムーブをしているときは終了させる
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」(60頁)の手順で確認してください。
 - 2 録画予約が設定されていないか確認する
 - 「予約の確認・変更・取消しをする」(60頁)の手順で、電源プラグを抜いている間に始まる予約がないか確認してください。電源プラグが抜かれていると、予約した番組は録画されません。
 - 3 本体の電源ボタンを押して電源を切る
 - 4 電源プラグをコンセントから抜く

メニュー操作手順の表記について

- サブメニューや設定メニューなどの操作手順については、以下の例のように一部を簡略化して記載しています。

例

- 1 [設定] を押す
- 2 ▲・▼で「映像設定」を選び、[決定] を押す
- 3 ▲・▼で「映像メニュー」を選び、[決定] を押す
- 4 お好みの映像メニューを▲・▼で選び、[決定] を押す
- 5 終わったら、[終了] を押す



- 1 [設定] を押し、▲・▼と[決定] で「映像設定」⇒「映像メニュー」の順に進む
- 2 お好みの映像メニューを▲・▼で選び、[決定] を押す

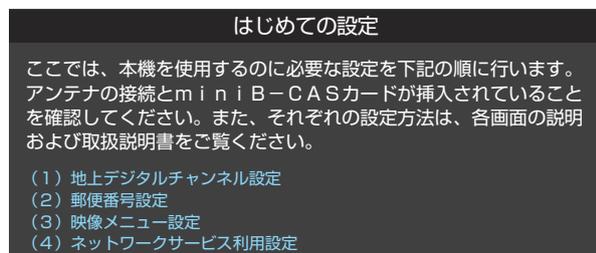
- 操作が終わったときに表示されているメニュー画面や確認画面を消すときは、[終了] を押します。

「はじめての設定」をする

「はじめての設定」について

- ※ miniB-CASカードが正しく挿入されていないと「はじめての設定」ができません。あらかじめご確認ください。**[21]**

はじめて電源を入れたときに、「はじめての設定」の説明画面が表示されます



「はじめての設定」の流れ

- 本機を使用できるようにするための基本的な設定をします。

① 地上デジタルチャンネル設定

お住まいの地域情報を設定することで、地上デジタル放送の受信チャンネルが自動設定されます。

② 郵便番号設定

郵便番号を設定することで、お住まいの地域に密着したデータ放送(たとえば、地域の天気予報など)や緊急警報放送を視聴できるようになります。

③ 映像メニュー設定

いくつか用意されている映像メニューの中から選び、好みのメニューに設定します。

④ ネットワークサービス利用設定

ネットワークサービスを利用するかどうかを設定します。

① 地上デジタルチャンネル～③ 映像メニューの設定をする

- 画面の説明に従って以下の方法で設定していきます。

▲▼◀▶で項目を選び、**[決定]**で決定して進んでいきます。

「郵便番号設定」では、**[1]～[10]**(**0**)も使います。



■ 「地上デジタルチャンネル設定」について

- 「はじめての設定」または「初期スキャン」**[104]**をすることで、地上デジタル放送の受信可能なチャンネルを本機が探し、リモコンの**[1]～[12]**に自動設定します。(「はじめての設定」または「初期スキャン」をしないと、地上デジタル放送は受信できません)

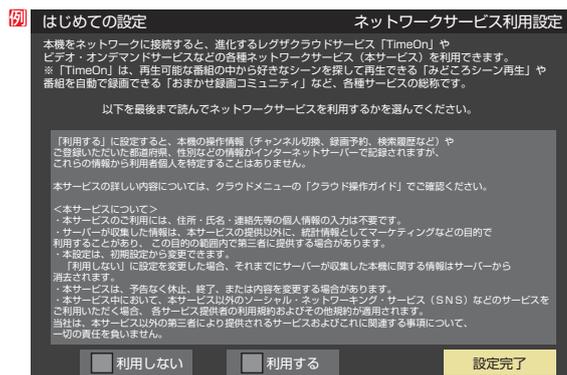
■ 地方と地域の設定について

- チャンネルの自動設定は、「はじめての設定」で設定された地方、地域に基づいて行われます。
- チャンネル設定の地域は必ずしもお住まいの地域とは限らないため、地域に密着したデータ放送を視聴するために郵便番号を設定します。

④ ネットワークサービス利用設定

- インターネットに接続して、クラウドサービス(**[88]**)などのネットワークサービスを利用するには、「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定します。
- ※ クラウドサービスの開始には、ソフトウェアの更新が必要になる場合があります。

1 ネットワークサービス利用設定の画面の内容を最後まで読み、「利用する」または「利用しない」を選び、**[決定]**を押す



2 「設定完了」を選び、**[決定]**を押す

3 設定完了画面が表示されたら、内容を確認して**[決定]**を押し、はじめての設定を終了する

- ※ お買い上げ時はじめて、またはすべての初期化後に「はじめての設定」を終了すると、クラウドメニューの起動を促すメッセージが表示されます。「はい」を選ぶとクラウドメニューが起動し、「はじめてのクラウド設定」を開始します。(インターネットに接続していて、「ネットワークサービス利用設定」が「利用する」のときにメッセージが表示されます)

「はじめての設定」をやり直すとき

- 「はじめての設定」をしてもアンテナ接続の不具合などで地上デジタル放送が映らなかった場合は、不具合の対処をしたあとで、「はじめての設定」をやり直すことができます。

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「初期設定」⇒「はじめての設定」の順に進む

- 「はじめての設定」の説明画面が表示されます。

2 画面の説明を読んで、[決定] を押す

- ワンタッチ選局ボタンのチャンネル設定を手動で好みに設定したあとで「はじめての設定」をやり直すと、手動で設定した内容が消去されます。その場合は、もう一度手動設定をしてください。
- 県外への転居などで「はじめての設定」をやり直した場合は、データ放送用メモリの割当画面が表示されることがあります。その場合は、「データ放送用メモリの割当画面が表示されたら」[108](#) を参照して設定してください。
- データ放送を視聴している状態で「はじめての設定」をやり直した場合、放送によっては設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を選局し直してください。

地デジ難視対策衛星放送を受信するとき

- お買い上げ時、本機は地デジ難視対策衛星放送の視聴や番組表表示ができないようになっています。利用できるようにするには、以下の設定が必要です。
- 「地デジ難視対策衛星放送受付センター」への利用申込手続きが完了した時点で視聴などができるようになります。(手続完了前は設定をしても視聴などはできません)

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地デジ難視対策衛星放送」の順に進む

地上デジタル自動設定	→
手動設定	→
地デジ難視対策衛星放送	利用しない
チャンネルスキップ設定	→
チャンネル設定の初期化	→
チャンネル設定	

2 ▲・▼で「利用する」を選び、[決定] を押す

- 地デジ難視対策衛星放送番組の視聴や番組表表示ができるようになります。

お知らせ

- ネットワークサービス利用設定を「利用する」に設定すると、本機の操作情報(チャンネル切替、録画予約、検索履歴など)やご登録いただいた都道府県、性別などの情報がインターネットサーバーで記録されますが、これらの情報から利用者個人を特定することはありません。
- クラウドサービスの詳しい内容については、クラウドメニューの「クラウド操作ガイド」から確認できます。
- クラウドサービスなどのネットワークサービス(以下「本サービス」と表します)のご利用には、住所・氏名・連絡先等の個人情報の入力不要です。
- サーバーが収集した情報は、本サービスの提供以外に、統計情報としてマーケティングなどの目的で利用することがあり、この目的の範囲内で第三者に提供する場合があります。
- 本サービスは、予告なく休止、終了、または内容を変更する場合があります。
- 本サービス中において、本サービス以外のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などのサービスをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、本サービス以外の第三者により提供されるサービスおよびこれに関連する事項について、一切の責任を負いません。
- ネットワークサービス利用設定は、あとから変更できます([106](#))。「利用しない」に設定を変更した場合、それまでにサーバーが収集した本機に関する情報は、サーバーから消去されます。

テレビ番組を楽しむ

- 本体の操作ボタンについては、「本体の「機能切換」ボタンについて」[31](#)をご覧ください。

リモコンで番組を選ぶ

1 地デジ、BS、CSで放送の種類を選ぶ

- 今見ている放送と同じ種類の放送を見る場合は、この操作は不要です。

2 チャンネルを選ぶ(選局する)

- 以下の3とおりの選局方法があります

ワンタッチ選局ボタンで選局する(ワンタッチ選局)

- ワンタッチ選局ボタン **1**～**12** で選局します。(下の「お知らせ」をご覧ください)
- BSデジタル放送のワンタッチ選局には、2種類あります。
 - ・ 通常はグループA (BS101 (NHKBS1)～BS222 (TwellIV))のワンタッチ選局になります。
 - ・ グループB (BS231 (放送大学BS1)～BS258 (Dlife))の放送局をワンタッチ選局する場合は、手順1でBSデジタル放送を選んだあと **BS** を押し、選局ガイドを表示している状態で、**1**～**12** ボタンを押します。(選局ガイド表示中は **BS** を押すたびに、選局ガイド表示が切り換わります)

チャンネル▲・▼ボタンで選局する(順次選局)

- **チャンネル** でチャンネルが順次に切り換わります。

チャンネル番号を入力して選局する(ダイレクト選局)

- チャンネル番号は番組表で確認できます。
- ① **サブメニュー** を押し、**▲・▼** と **決定** で「その他の操作」⇒「チャンネル番号入力」と進む
 - ・ 視聴中の放送の種類に応じて、画面の右上に **地デジ**、**BS**、**CS** のどれかが表示されます。**▲・▼** を押すと、放送の種類を選ぶことができます。
- ② **1**～**10** (0) でチャンネル番号を入力する
 - 例 103チャンネルを選ぶ場合⇒ **1** **10** (0) **3** の順に押します。(「0」は**10**で入力)
 - ・ 入力した番号を消すには、**◀** を押します。
 - ・ **11** (*) を使った入力ができます。例 **3** **11** →300番台の最小チャンネル
- 枝番のついた放送一覧が表示されたとき
 - ・ **▲・▼** で選んで **決定** を押すか、**10** (0)～**9** で枝番を指定して選びます。



お知らせ

- 視聴できるデジタル放送のチャンネルやワンタッチ選局ボタンの番号は、番組表 [35](#) で確認することができます。
- **1**～**12** でワンタッチ選局ができるのは以下のとおりです。(「チャンネルをお好みに手動で設定する」([105](#))で変更できます)
 - ・ **地デジ** を押したとき→「はじめての設定」([28](#))で各ボタンに登録されたチャンネル
 - ・ **BS** を押したとき→各ボタンにあらかじめ登録されているチャンネル。
 - ・ **CS** を押したとき→110度CSデジタル放送の一部のチャンネル(**1**と**2**)のみ
- ◆ 一つの放送局が複数のチャンネルで異なった番組を放送している場合、その放送局のチャンネルボタンを繰り返し押せばチャンネルを順番に選局できます。
- 枝番のついた放送一覧は、地上デジタル放送で隣接地域の同じチャンネル番号の放送を複数受信できたときに表示されます。
- 視聴制限のある番組の視聴には視聴制限設定が必要です。詳しくは「視聴できる番組を制限する」([109](#))をご覧ください。





音量を調節する / 音を一時的に消す / 字幕を表示させる

音量を調節する

- ① リモコンの または本体の を押す

音を一時的に消す

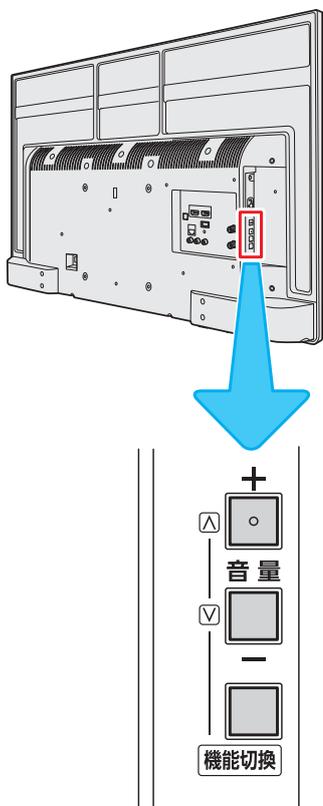
- ① リモコンの を押す
 - 画面右下に が表示されます。もう一度 を押せば音が出ます。

字幕放送番組で字幕の表示/非表示を切り換える

- ① を押し、▲・▼と で「字幕」を選ぶ
- ② ▲・▼で「字幕オン」または「字幕オフ」を選び、 を押す

本体の「機能切換」ボタンについて

- 本体にある ボタンは通常音量を調節するために使いますが、 を押すたびに、機能が切り換わります。



1 を押す

- を押すと画面左上に現在選択している機能が表示されます。希望の機能を選ぶには、機能表示が消える前に手順2の操作をします。



- を押したあと8秒間以上操作をしないと、音量調節機能に戻ります。

2 を繰り返し押して機能を選び、 で切換えまたは調節をする

- を押すたびに以下のように機能が切り換わります。
 - **チャンネル切換** → **放送切換** → **入力切換** → **表示なし(音量調節)**
 - **チャンネル切換** …… チャンネルが順次に切り換わります。
 - **放送切換** …… 「地デジ」、「BS」、「CS」が順次に切り換わります。
 - **入力切換** …… 入力が順次に切り換わります。

テレビ番組を楽しむ つづき

操作ガイドについて

- 番組表や操作画面などには、そのときに使用できる(または使用する)リモコンボタンの操作ガイドが表示されます。
- よく使う機能がカラーボタン(青、赤、緑、黄)やサブメニューに割り当てられています。

例 録画リスト



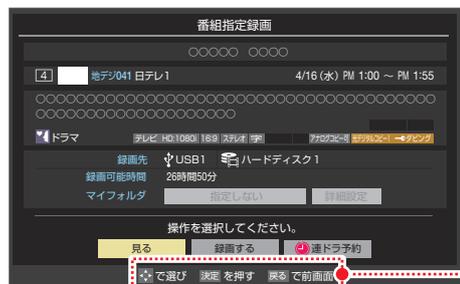
サブメニュー の表示
サブメニューがあることを示します。

例 番組表



青赤緑黄 の表示
カラーボタンでさまざまな操作ができることを示します。

例 操作画面



◀ ▶ の表示
ページやリストの切り替えができることを示します。

決定 戻る の表示
選んで決定したり、前の画面に戻ったりすることができることを示します。



テレビを見る

サブメニューについて

- **サブメニュー**を押してサブメニューを表示し、さまざまな便利機能を使うことができます。
- サブメニューの内容は、**サブメニュー**を押すときの状況によって変わります。
- サブメニューで選択できる項目は、放送の種類や外部機器の有無などによって変わります。選択できない項目は、薄くなって表示されます。

例 デジタル放送のテレビ番組を視聴中



サブメニュー	機能 (一部省略しています)	詳細記載ページ
タイムシフトマシン	タイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーの過去番組表を表示します。 ^{※1}	80
番組説明	視聴中の番組の詳しい情報を確認できます。	34
タグリスト	USBハードディスクに録画した番組を再生中に使えます。	65
連ドラ予約	視聴中の連続ドラマが毎回録画されるように予約することができます。	57
予約リスト	予約リストを表示させることができます。	60
ネットサービス	各種ネットサービスが利用できます。 ^{※2}	95
タイマー機能	アートアラームの設定やオフタイマーの設定ができます。	48
字幕	字幕放送番組で字幕の表示/非表示を切り換えられます。	31
その他の操作		

- ^{※1} サブメニューの「タイムシフトマシン」は、本機とタイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーをHDMIケーブルで接続しているときにのみ、表示されます。
タイムシフトマシン対応東芝レグザサーバーについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。
- ^{※2} ネットサービスの利用には、インターネットを利用するための接続設定が必要です。
また、ネットサービスによっては、別途登録が必要なものがあります。

その他の操作	機能	詳細記載ページ
画面サイズ切換	見ている映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。	45
信号切換		
チャンネル番号入力	チャンネル番号を入力して選局します。	30
アンテナレベル表示	映りが悪いときなどに、アンテナレベルを確認できます。	102
データ放送終了	データ放送の視聴を終了します。	41
テレビ/ラジオ/データ切換	視聴する放送メディアを切り換えます。	41
スピーカー切換	テレビのスピーカーで聴くか外部システムのスピーカーで聴くか選べます。	47
AVシステム音声設定	音声連携対応のオーディオ機器の音声メニューを設定します。	83
親切ヘッドホン音量	親切モードでのヘッドホンの音量を調節することができます。	47
お知らせ	本機や放送局からのお知らせがあったときに内容を確認します。	125
ソフトウェアバージョン	本機のソフトウェアバージョンを確認します。	124

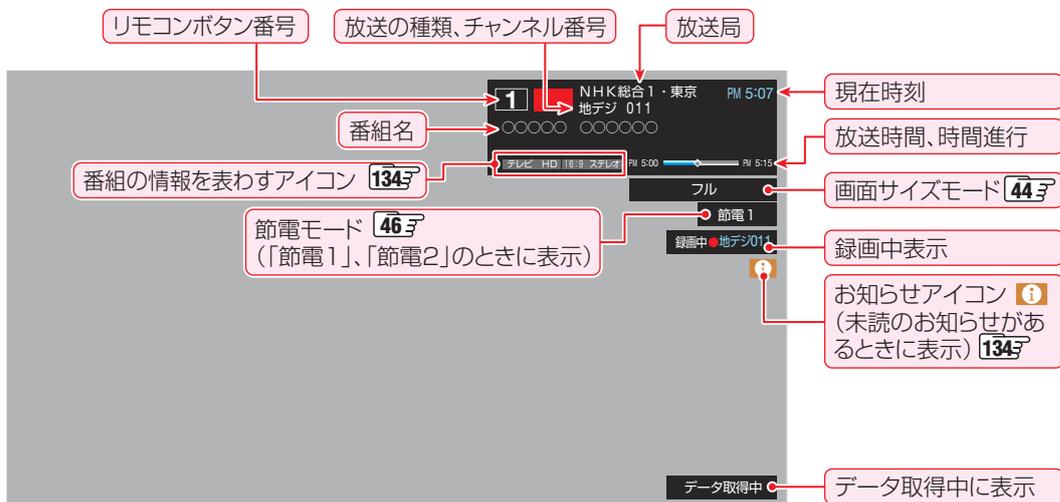
信号切換	機能	詳細記載ページ
映像信号切換	一つの番組で複数の映像が送られている場合に切り換えられます。	45
音声信号切換	一つの番組で複数の音声を送られている場合に切り換えられます。	45
音多切換	二か国語放送など、音声多重放送の場合に聴きたい音声を選びます。	45
データ信号切換	一つの番組で複数のデータが送られている場合に切り換えられます。	45
降雨対応放送切換	豪雨などの影響で降雨対応放送が行われた場合に切り換えられます。	45

番組情報や番組説明を見る

番組情報を見る

1 画面表示を押す

- 現在視聴しているチャンネルや番組の情報が表示されます。(チャンネル以外の表示は数秒後に消えます)
- 表示を消すには、もう一度画面表示を押します。
- 選局時には一部省略された状態で表示されます。



番組説明を見る

1 サブメニューを押し、▲・▼で「番組説明」を選び、決定を押す

2 さらに詳しい説明を見るときは▼を押す

- 「詳細情報を取得していません」が表示されたときは、黄を押します。
 - ・ 詳細情報が取得できなかった場合には、「詳細情報を取得できませんでした」と表示されます。
 - ・ 詳細情報がなかった場合には、「番組の詳細情報はありません」と表示されます。

3 説明画面を消すには、決定を押す

地上デジタル放送では、3ケタチャンネル番号の次に枝番が表示されます。(0) : お住まいの地域内の放送(1)~(9) : 隣接地域の放送



続きがあることを示しています。▲・▼で進めたり戻したりできます。

お知らせ

- 画面に表示されるアイコン(ステレオ、HD:1080iなどの記号)についての説明は、「アイコン一覧」134頁をご覧ください。
- 番組情報の表示や詳細情報の取得には時間がかかる場合があります。
- 番組情報を取得するタイミングによっては、最新の情報が表示されないことがあります。
- 番組によっては、録画、録音が制限される場合があります。その場合は、番組説明の画面でアイコンが表示されます。

番組表で番組を探す

番組表を使う

- 番組表は、放送電波で送られてくる番組情報をもとにして表示されます。
- お買い上げ直後や電源を入れた直後、放送の種類を変えたときなどには、番組内容の表示に時間がかかることがあります。
- 番組表を最新にしておくために、本機の電源を毎日2時間以上「切」または「待機」にすることをおすすめします。

1 番組表を押す

- 番組表が表示されます。通常番組表が表示されます。(「週間番組表」については「週間番組表を表示させる」[36](#)をご覧ください)
- 放送の種類を変えるときは、**[地デジ]**、**[BS]**、**[CS]**を押します。
- 独立データ放送やラジオ放送の番組表に切り換えるときは、サブメニューの「テレビ/ラジオ/データ切換」で選びます。
- 番組表を消すときは、**[終了]**を押します。

2 現在放送中の番組を▲・▼・◀・▶で選ぶ

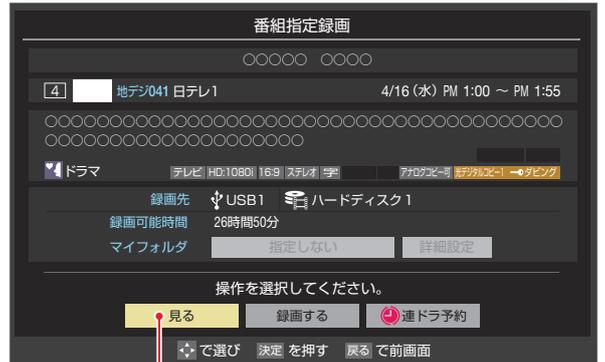
- 選んだ番組の番組説明を見るには、**[サブメニュー]**を押し、**▲・▼**で「番組説明」を選び、**[決定]**を押します。
- 番組表に表示しきれていないチャンネルを表示させるには**◀▶**を押します。

3 [決定]を押す

- 「番組指定録画」画面が表示されます
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面になります。[56](#)の手順3をご覧ください。

4 現在放送中の番組を見るときは、▲・▼・◀・▶で「見る」を選び、[決定]を押す

- 画面の図は、現在放送中の番組でUSBハードディスクが接続されている場合の例です。



- 「番組指定録画」画面からは、録画[56](#)、連ドラ予約[57](#)の操作ができます。
- 「番組指定予約」画面からは、視聴予約[56](#)、録画予約[56](#)、連ドラ予約[57](#)の設定ができます。

[通常番組表画面：7チャンネル表示の例]

お知らせ

- テレビを視聴している条件などによっては番組表が空欄になる場合があります。この場合は、空欄の部分を選んでから、「番組表を更新する」[36](#)の操作をしてください。
- 番組表に表示できる番組情報は最大8日分です。
- 「チャンネルスキップ設定」([106](#))で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組表は表示されません。
- レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画する場合は、番組表に予約アイコンは表示されません。
- データ放送の視聴中は番組表に切り換わらないことがあります。その場合は、テレビ放送に切り換えてから操作してください。
- 番組の中止・変更・延長などによって、実際の放送内容が番組表と異なる場合があります。番組表や番組情報などで表示される内容および利用した結果について、当社は一切の責任を負いません。

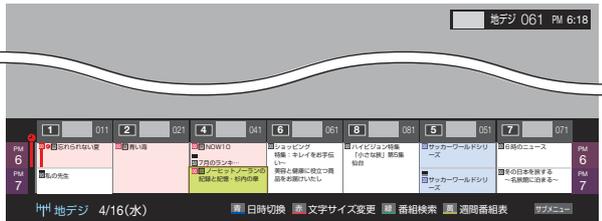
番組表で番組を探す つづき

番組を見ながら他の番組を探す(ミニ番組表)

- 番組を見ながら、画面の下側にミニ番組表を表示させて番組を探することができます。

1 番組表の表示中に を押す

- ミニ番組表が表示されます。
- もう一度押すと、ミニ番組表が消えます。
- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。



番組表を便利に使う

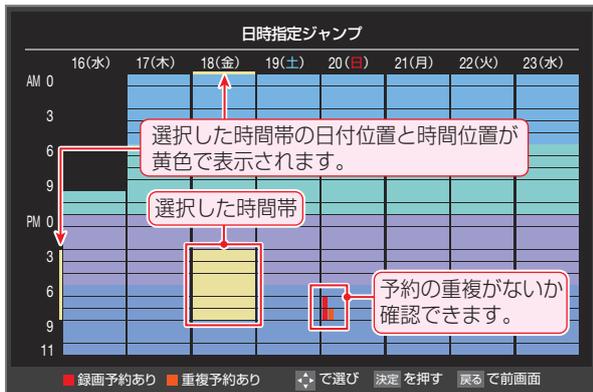
- カラーボタンや番組表のサブメニューで、さまざまな便利機能を使うことができます。
- 番組表またはミニ番組表が表示されているときに以下の操作をします。(ミニ番組表では一部の機能を使用できません)

指定した日時の番組表を表示させる

- 日付と時間帯を選んで番組表を表示させることができます。

1 (日時切換)を押す

2 ▲・▼・◀・▶で日時を選び、 を押す



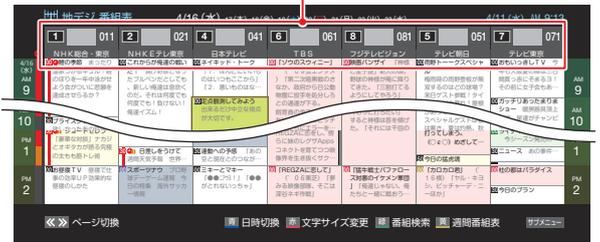
- 選んだ時間帯の番組表が表示されます。

週間番組表を表示させる

- 選んだ放送局の一週間分の番組表を表示させることができます。

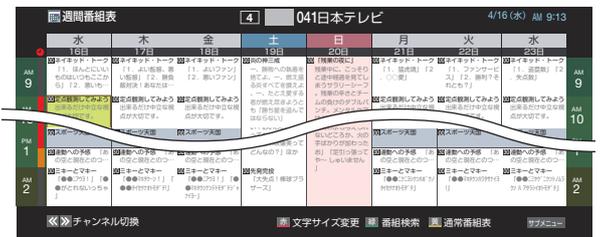
1 ◀▶で週間番組表を表示させたいチャンネルを選び、 (週間番組表)を押す

一週間分の番組表を表示させたい放送局の番組を選びます。



【通常番組表】

 を押すたびに切り換わります



【週間番組表】

- 操作方法は、前ページの通常番組表の場合と同じです。
- 番組表の表示を週間番組表にしているときは、「マルチ表示」 に切り換えることはできません。

番組説明を見る

- 選択中の番組の番組説明を見ることができます。

1 を押し、▲・▼で「番組説明」を選び、 を押す

- 番組説明が表示されます。

番組表を更新する

- 番組表の中が空になっているときや、最新の番組情報に更新するときは、以下の操作をします。

1 を押し、▲・▼で「番組情報の取得」を選び、 を押す

番組情報の取得中に表示されます。



※ 番組情報の取得中は映像、音声が出ない場合があります。



● 番組表の操作ガイドに表示される  (番組検索)については、「条件を絞りこんで番組を探す」 をご覧ください。

- ◆ 番組表で選択している放送局の情報が更新されます。(BSデジタル放送は番組表全体が、110度CSデジタル放送は、選択した番組が含まれるネットワークの番組表全体が更新されます)
- 番組情報取得中にほかの操作をすると、情報の取得が中止されることがあります。
- 番組情報の取得を中止するときは、番組情報取得中に「サブメニュー」を押し、サブメニューから「番組情報の取得中止」を選択します。

1チャンネル表示とマルチ表示を切り換える

- BSデジタル放送や地上デジタル放送(どちらもテレビ放送のみ)では、放送事業者ごとの代表チャンネル表示(1チャンネル表示)とマルチチャンネル表示(マルチ表示)の切り換えができます。

- 1 切り換える放送局の番組をどれか選び、「サブメニュー」を押し
- 2 ▲・▼で「1チャンネル表示」(または「マルチ表示」)を選び、「決定」を押す
 - 番組表の表示によって、「マルチ表示」または「1チャンネル表示」が表示されています。
 - 「1チャンネル表示」、「マルチ表示」を選ぶと、以下のように切り換わります。



別の番組がある場合、グレーの縦線を表示

放送事業者ごとの1チャンネル表示

放送事業者ごとのマルチチャンネル表示

[1チャンネル表示]

[マルチ表示]

- 「マルチ表示」での番組予約について、「56」をご覧ください。

用語

- (放送の)ネットワーク
デジタル放送の放送の単位。チャンネルや番組についての情報は、このネットワークごとに送られてきます。

文字サイズを大きくする

- 番組表の文字が小さくて見えにくいときなどに、文字の大きさを切り換えることができます。

- 1 **赤** を押し、**■** を押し文字の大きさを切り換える
 - ボタンを押すたびに、文字の大きさが切り換わります。

ジャンル別に色分けする

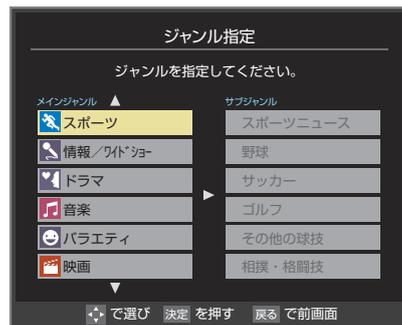
- 番組のジャンル(分野)別に色分けをすれば、見たい番組を探すのに便利です。
- お買い上げ時に設定されている色分けを、以下の操作で変更することができます。

- 1 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「ジャンル色分け」を選んで「決定」を押す

- 2 設定する色を▲・▼で選び、「決定」を押す



- 3 ▲・▼・◀・▶でジャンルを選び、「決定」を押す
 - 「決定」を押すと手順2の画面に戻ります。ほかの色の設定を変える場合は、操作を繰り返します。
 - 「指定しない」を選ぶと、色分け表示がなくなります。



- 4 ▲・▼で「設定完了」を選び、「決定」を押す

番組表で番組を探す つづき

番組記号の説明を見る

- 新、再、字などの番組記号の意味を調べることができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「番組記号一覧」を選び、**決定** を押し

- 番組記号の説明が表示されます。
- 表示されるのは番組記号の一部です。
- 見終わったら、**決定** を押しします。

表示させるチャンネル数を設定する

- 番組表に表示させるチャンネル数を切り換えることができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「番組表表示設定」⇒「表示チャンネル数」の順に進む

2 ▲・▼で「オート」、「9チャンネル表示」、「7チャンネル表示」、「6チャンネル表示」、「4チャンネル表示」のどちらかを選び、**決定** を押し

※ 「オート」は、BSまたはCSの番組表では表示されません。

チャンネルの並び順を設定する

- 番組表に表示させるチャンネルの並び順を切り換えることができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「番組表表示設定」⇒「チャンネル並び順」の順に進む

2 ▲・▼で以下のどちらかを選び、**決定** を押し

- 通常……………放送局推奨の並び順になります。
- チャンネルボタン優先…ワンタッチ選局ボタン
1～12の番号順に並びます。

番組概要の表示／非表示を設定する

- 番組の概要説明を表示させるかどうかを設定します。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「番組表表示設定」⇒「番組概要表示」の順に進む

2 ▲・▼で「表示する」、「表示しない」のどちらかを選び、**決定** を押し

地上デジタル放送局の表示位置を設定する

- 地上デジタル放送の番組表での放送局の表示位置を設定します。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「番組表表示設定」⇒「地デジ表示」の順に進む

2 ▲・▼で以下のどちらかを選び、**決定** を押し

- 視聴チャンネル中央表示…視聴中のチャンネルが番組表の中央に表示されます。
- チャンネル順優先表示…お住まいの地域のチャンネル順に表示されます。

番組表の放送メディアを切り換える

- 番組表に表示させる放送メディア(ラジオ、テレビ、独立データ)を選びます。
- 放送が運用されていない放送メディアに切り換えることはできません。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「テレビ/ラジオ/データ切換」を選び、**決定** を押し

2 ▲・▼で「テレビ」、「ラジオ」、「データ」から選び、**決定** を押し



放送メディア

デジタル放送の媒体(テレビ放送、データ放送、ラジオ放送)をさします。

条件を絞りこんで番組を探す

- 番組のジャンル(分野)やキーワードなどの条件を指定して、見たい番組を探すことができます。

1 番組表を押す

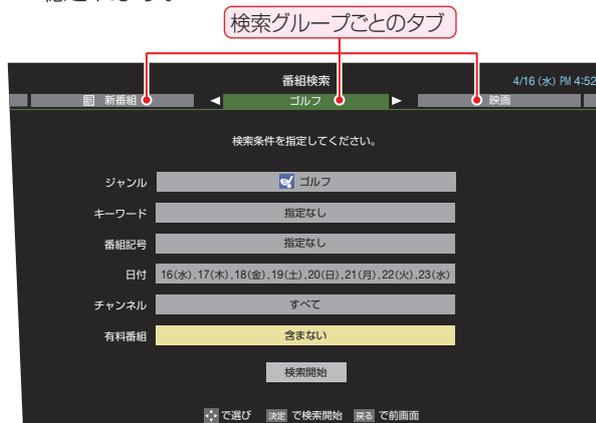
- 番組表が表示されます。

2 緑 (番組検索) を押す

- 番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀▶で選ぶ

- 以降の手順で指定する検索条件のうち、「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」は検索グループごとに記憶されます。

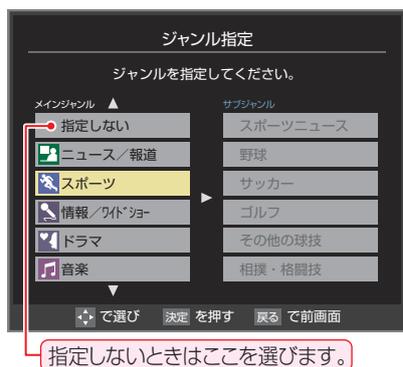


4 検索条件を指定する

- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」のどれかは必ず指定してください。

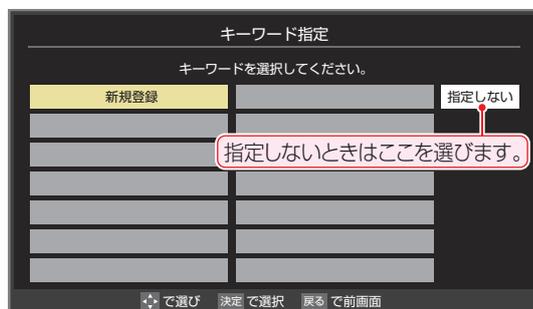
「ジャンル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「ジャンル」を選び、(決定)を押す
- 2 指定するジャンルを▲・▼・◀・▶で一つ選び、(決定)を押す



「キーワード」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「キーワード」を選び、(決定)を押す
- 2 指定するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す
 - お買い上げ時は登録されていません。



新しいキーワードを登録する場合

- 1 ▲・▼・◀・▶で「新規登録」を選び、(決定)を押す
 - 文字入力画面が表示されます。
- 2 キーワードを入力して、(決定)を押す
 - 文字入力のしかたは、「文字を入力する」⁴³をご覧ください。
 - キーワードは14個まで登録できます。

キーワードを編集する場合

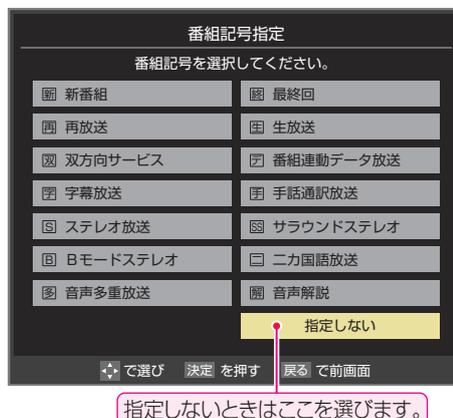
- 1 編集するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、青 を押す
- 2 キーワードを編集し、(決定)を押す

キーワードを削除する場合

- 1 削除するキーワードを▲・▼・◀・▶で選び、赤 を押す
- 2 ◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押す

「番組記号」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「番組記号」を選び、(決定)を押す
- 2 指定する番組記号を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す



- 番組の詳細情報はキーワード検索の対象になっていません。
- 「チャンネルスキップ設定」(¹⁰⁶)で、「スキップ」に設定したチャンネルの番組は番組検索の対象になりません。
- 番組検索の結果は指標としてお使いください。内容および利用した結果について、当社は責任を負いません。

条件を絞りこんで番組を探す つづき

「日付」を指定するとき

- ▲・▼で「日付」を選び、(決定)を押す
- 指定する日付を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す
 - (決定)を押すたびに、 (指定する)と (指定しない)が交互に切り換わります。
 - 7日先まで指定できます。



指定する日にがつくようになります。

- 指定が終わったら、▲・▼・◀・▶で「設定完了」を選び、(決定)を押す

「チャンネル」を指定するとき

- ▲・▼で「チャンネル」を選び、(決定)を押す
- 指定する項目を◀・▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ



放送の種類 放送メディア チャンネル

- 放送の種類……すべて / BS / CS / 地デジ
- 放送メディア……すべて / テレビ / ラジオ (BS、110度CSのみ) / データ
- チャンネル……指定した放送の種類やメディアに該当するチャンネル / すべて

- 指定が終わったら、(決定)を押す

「有料番組」を指定するとき

- 有料番組を検索対象に含めるかどうかを指定します。
- ▲・▼で「有料番組」を選び、(決定)を押す
 - ▲・▼で「含む」、「含まない」のどちらかを選び、(決定)を押す

- ▲・▼で「検索開始」を選び、(決定)を押す

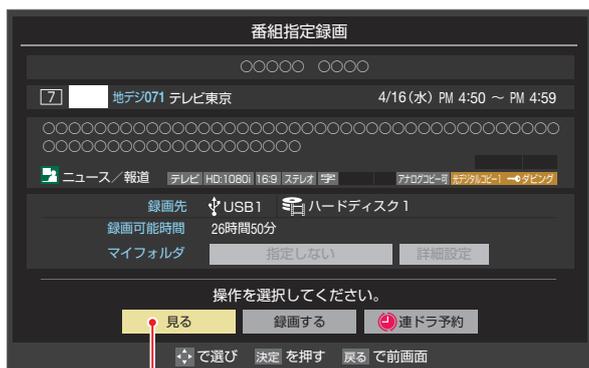
- 選択中のタブの検索グループに、手順3で指定した検索条件が上書きで保存されます。

- 「番組検索結果」画面から、見たい番組を▲・▼で選び、(決定)を押す



- 「番組指定録画」画面が表示されます。
- これから放送される番組を選んだときは、「番組指定予約」画面が表示されます。[56頁](#)の手順3をご覧ください。

- ▲・▼・◀・▶で「見る」を選び、(決定)を押す



「見る」を選びます。

- 選んだ番組の放送画面になります。

データ放送やラジオ放送を楽しむ

データ放送について

- デジタル放送では映像や音声によるテレビ放送以外に、データ放送があります。
- データ放送には、テレビ放送チャンネルとは別の独立したチャンネルで行われているデータ放送のほかに、テレビ放送チャンネルで提供されている番組連動データ放送や、番組案内、ニュース、天気予報などのデータ放送があります。

デジタル放送の双方向サービスについて

- インターネットや電話回線を利用して、視聴者と放送局との間で双方向に通信できるサービスです。クイズ番組に参加して回答したり、ショッピング番組で商品を購入したりすることができます。(本機は、電話回線を利用した双方向サービスには対応していません)
- 地上デジタル放送の双方向サービスには、放送番組に連動した通信サービスと、放送番組とは無関係な通信サービスがあります。



非リンク型サービス

放送番組とは無関係な通信サービスのときに表示されます。(文字表示は数秒で消えます)



暗号通信

本機はSSL (Secure Sockets Layer) などの暗号通信に対応しています。そのサービスの際に、このアイコンが表示されます。

ラジオ放送について

- ラジオ放送が運用された場合、本機で放送を聴くことができます。

Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)について

- 本機は、Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)サービスに対応しています。Hybridcast™(ハイブリッドキャスト)サービスは、放送と通信が連動・連携したサービスです。



お知らせ

- 放送データの取得中は一部の操作ができないことがあります。
- 本体の放送切換ボタンとチャンネルボタンでは、データ放送とラジオ放送の選択やチャンネル切換はできません。
- 放送画面の操作説明などで、**[データ]**は「データボタン」、「データ放送ボタン」などと表示される場合があります。
- データ放送、Hybridcast™は録画できません。
- **双方向サービスについて**
 - 双方向サービスを利用する場合は、あらかじめインターネットへの接続と設定(**[84]** ~ **[86]**)をしてください。また、双方向サービスの利用には登録の申込みなどが必要な場合があります。
 - 双方向サービスでは、お客様の個人情報の入力を要求される場合がありますが、接続先のサイトによってはSSLなどによる通信時のセキュリティ対策が行われていない場合があります。
 - 双方向サービスの利用時は、通信に時間がかかり、次の操作がすぐにできないことがあります。
 - テレビの動作中に電源プラグを抜かないでください。本機が記憶している双方向サービスでのお客様のポイント情報などが更新されないことがあります。
- **Hybridcast™サービスについて**
 - Hybridcast™サービスを利用する場合は、あらかじめインターネットへの接続と設定(**[84]** ~ **[86]**)をしてください。また、Hybridcast™サービスの利用には登録の申込みなどが必要な場合があります。

連動データ放送を楽しむ

- 一部の番組には番組連動データ放送があります。双方向サービスが行われている番組連動データ放送では、番組に参加して楽しむことができます。
- テレビ放送チャンネルで、天気予報やニュース、番組案内などのデータ放送を提供している場合があります。

1

[データ]を押す

- 番組によっては押す必要がない場合があります。
- 放送画面に表示される操作メニューや操作説明などに従って操作をします。

2

データ放送を終了するには、**[サブメニュー]**を押し、**▲・▼**と**[決定]**で「その他の操作」⇒「データ放送終了」の順に進む

独立データ放送やラジオ放送を楽しむ

- BSデジタル放送などで運用される独立データ放送チャンネルやラジオ放送チャンネルを選ぶときの操作です。

1

放送の種類を選ぶ

- BSデジタルの独立データ放送やラジオ放送を視聴する場合は、**[BS]**を押します。

2

[サブメニュー]を押し、**▲・▼**と**[決定]**で「その他の操作」⇒「テレビ/ラジオ/データ切換」の順に進む

- ※ USBハードディスクでの録画中は、この操作はできません。

3

▲・▼で「データ」または「ラジオ」を選び、**[決定]**を押す

- **[形別]**で他のチャンネルに切り換えられます。チャンネル番号を入力して選ぶこともできます。
- データ放送やラジオ放送を終了するには、上記の操作で「テレビ」を選びます。

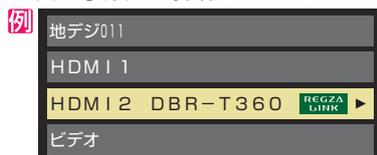
外部入力画面に切り換える

- 本機の外部入力端子(HDMI入力1/2、ビデオ入力)に接続したビデオやDVD・ブルーレイディスクプレーヤー/レコーダーなどの再生番組を見たり、ゲーム機を接続して楽しんだりする場合は、以下の操作をします。
- 機器の接続や設定については、「外部機器を接続する」(72頁～75頁)をご覧ください。

1 使用する機器の電源を入れる

2 入力切換を押す

- 入力切換を押すと次の入力を選択された状態で画面左上に入力一覧画面が表示され、少し待つとその入力に切り換わります。希望の入力を選ぶには、入力が切り換わる前に次の手順3の操作をします。



3 入力切換を繰り返し押すか、または▲・▼を押して入力を選ぶ

- 入力切換を押すたびに以下のように切り換わります。



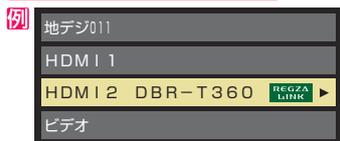
- ▲・▼では順方向・逆方向の選択ができます。
- お買い上げ時の設定では、機器が接続されていない入力はスキップされます。
- 少し待つと選択した入力に切り換わります。

HDMI連動機器を選ぶとき

- HDMI連動機器は、入力一覧画面に **REGZA LINK** ▶ が表示されます。
 - **REGZA LINK** ▶ が表示された機器を選んで▶を押すと、機器の形名などが確認できます。
 - HDMI連動対応のオーディオ機器などにHDMI連動機器が接続されている場合は、機器の一覧が表示されます。使用する機器を以下の手順で選択できます。

入力切換または▲・▼で選ぶ

▲・▼で選んで(決定)を押す



▶を押す



4 選択した機器を操作する

- 機器のリモコンで再生などの操作をしてください。

HDMI連動機器を選んだとき

- サブメニューの「機器操作」を選び、機器操作メニューを表示させます。

1 サブメニューを押す

2 ▲・▼で「機器操作」を選び、(決定)を押す

- 機器操作メニューが表示されます。機器操作メニューについては、「本機のリモコンで対応機器を操作する」(80頁)をご覧ください。
- ゲーム機を接続した入力では、「映像メニュー」(96頁)を「ゲーム」にしてください。ゲームのレスポンスを重視した、ゲームに適した画質設定になります。

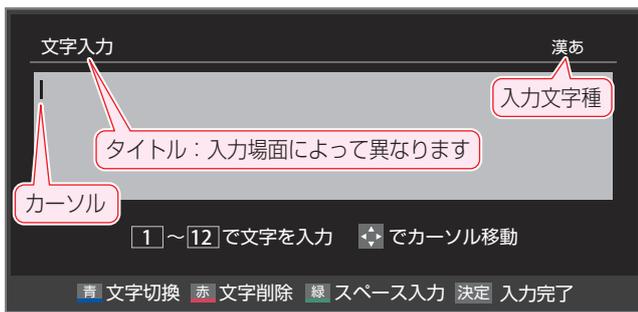


お知らせ

- 本体の(機器切替)と(電源)でも、「入力切換」ができます。(31頁)
- 入力切換時に画面に表示される「ブルーレイ」などの機器名を変えることができます。「外部入力表示設定」(75頁)をご覧ください。

文字を入力する

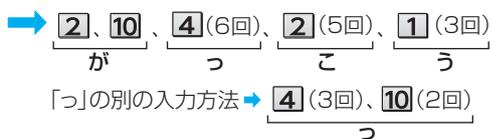
- 番組検索のキーワード指定で、新しいキーワードを登録する場面などで文字入力画面が表示されます。



1 1~12で文字を入力する

- 携帯電話と同様の操作で文字を入力します。

入力例：がっこう



- 文字に続けて10を押せば、濁点(°)や半濁点(°)の入力および小文字変換ができます。
- 同じボタンに割り当てられた文字を続けて入力する場合は、次の文字の前に▶を押します。

入力例：あい → 1、▶、1(2回)

あ い

- 入力文字の種類を変えるときは、青 (文字切換) を押します。
- 文字を挿入するには、挿入する場所を▲▼◀▶で選んで入力します。

文字を削除するには

- 1文字を削除するには、赤 を短く押します。カーソルの右に文字がない場合は、カーソルの左の1文字が削除されます。カーソルの右に文字がある場合は、カーソルの右の1文字が削除されます。
- 文字をまとめて削除するには、赤 を押し続けます。カーソルの右に文字列がない場合は、文字がすべて削除されます。カーソルの右に文字列がある場合は、カーソルより右の文字がすべて削除されます。

2 以下の操作で文字を確定する

- 漢字に変換しないときは、(決定) を押す
- 漢字に変換するときには、▼を繰り返し押し、希望の漢字が見つかったら (決定) を押す
 - 希望する漢字に変換されない場合は、変換する範囲を◀▶で変え、▲▼で再度変換します。

3 すべての入力が終わったら、(決定) を押す

- 文字入力画面が表示される前の操作画面に戻ります。



- 入力した文字は、次のように表示されます。
 - 入力中の文字：黄色背景 / 未確定の文字：白色背景 / 漢字変換候補選択中の文字：黒色背景 / 確定した文字：背景なし
- 確定せずに変換できるのは4文節までです。4文節以上のときは、確定してから残りを変換してください。
- 漢字候補選択時に を押せば、その文節を未変換状態に戻すことができます。

文字切換(入力文字種の切換え)

「漢あ」	漢字変換	ひらがなや漢字を入力できます。
「カナ」	全角カナ	カタカナを入力できます。
「a A」	全角英字	全角の英字を入力できます。
「abAB」	半角英字	半角の英字を入力できます。
「1 2」	全角数字	全角の数字を入力できます。
「1234」	半角数字	半角の数字を入力できます。
「全角記号」	全角記号	全角の記号を入力できます。
「半角記号」	半角記号	半角の記号を入力できます。
「定型文」	定型文	定型文を入力できます。

- 文字入力の場面によっては、使用できる入力文字種が少なかったり、切り換えられなかったりすることがあります。
- 入力文字種が「全角記号」、「半角記号」のときには、入力したい記号を文字入力画面から選びます。

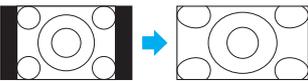
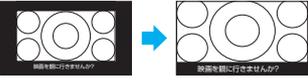
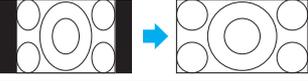
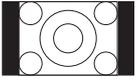
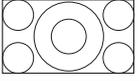
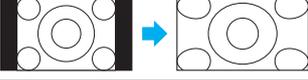
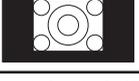
入力文字一覧

リモコン	入力文字種			
	漢字変換	全角カナ	英字	数字
1	あ→い→う→え→お →あ→い→う→え→お	ア→イ→ウ→エ→オ →ア→イ→ウ→エ→オ	1→2→3→4→5→ 6→7→8→9→0	1
2	か→き→く→け→こ →か→け	カ→キ→ク→ケ→コ →カ→ケ	a→b→c →A→B→C	2
3	さ→し→す→せ→そ	サ→シ→ス→セ→ソ	d→e→f →D→E→F	3
4	た→ち→つ→て→と →つ	タ→チ→ツ→テ→ト →ツ	g→h→i →G→H→I	4
5	な→に→ぬ→ね→の	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	j→k→l →J→K→L	5
6	は→ひ→ふ→へ→ほ	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ	m→n→o →M→N→O	6
7	ま→み→む→め→も	マ→ミ→ム→メ→モ	p→q→r→s →P→Q→R→S	7
8	や→ゆ→よ →や→ゆ→よ	ヤ→ユ→ヨ →ヤ→ユ→ヨ	t→u→v →T→U→V	8
9	ら→り→る→れ→ろ	ラ→リ→ル→レ→ロ	w→x→y→z →W→X→Y→Z	9
10	°→°→小文字変換	°→°→小文字変換	小文字変換	0
11	わ→を→ん→わ→、→。 →	ワ→ヲ→ン→ワ→、→。 →	* 1	*
12	* 2 逆方向へ入力	* 2 逆方向へ入力	* 2 逆方向へ入力	#

- 最後の候補までいくと、次は最初の候補に戻ります。
- * 1 全角英字の場合……。→/→:→→→_→~→@
半角英字の場合……。→/→:→→→_→~→@
- * 2 文字入力変換中に文字を通り過ぎたときに、逆方向へ戻します。
- スペースを入力するときは、緑 を押します。

便利な機能を使う

画面サイズについて

入力	画面サイズのモード	画面の見えかた	説明
4:3	スーパーライブ		4:3の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	ズーム		上下が黒い帯になっている映画などのワイド映像(レターボックス「LB」)を拡大して楽しむモードです。
	映画字幕		レターボックスのワイド映像の下に字幕がはいている場合に、字幕を隠れにくくするモードです。
	フル		DVDソフトなどのスクイーズ映像(縦に伸びて見える映像)を、ワイド映像で表示するモードです。
	ノーマル		4:3の映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。
16:9	フル		16:9の映像を画面いっぱいに表示するモードです。
	HDスーパーライブ ^{※2}		左右に帯(黒や模様など)のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。画面左右の端にいくほど映像が引き伸ばされます。
	HDズーム ^{※2}		上下左右に帯(帯も映像として送られています)のある16:9の映像をワイド画面で楽しむモードです。
ゲーム	ゲームフル		ゲーム映像をテレビ画面いっぱいに拡大して表示するモードです。
	ゲームノーマル		ゲーム映像をそのままの横と縦の比で表示するモードです。(図は4:3の例です)
HDMI	Dot By Dot		入力信号の解像度そのまま画面に表示するモードです。映像のない部分は黒く表示されます。

※1 左側の図は画面サイズのモードを「ノーマル」にした場合の見えかたです。

※2 デジタル放送のハイビジョン放送と標準画質放送の16:9の映像で切り換えることができます。

※3 左側の図は画面サイズのモードを「フル」にした場合の見えかたです。

※4 左側の図は画面サイズのモードを「ゲームノーマル」にした場合の見えかたです。

HDスーパーライブ、HDズーム、フルについて

- 画面サイズを変更した番組の放送中は、選んだ画面サイズが保持されます。番組終了後、選局操作をすると「フル」になります。
- 電源入/切で「フル」になります。

お知らせ

- このテレビは、各種の画面サイズのモード切換機能を備えています。テレビ番組等のソフトの映像比率と異なるモードを選択すると、本来の映像とは見えかたが異なります。
- 視聴する映像のフォーマットと画面サイズの組合せによっては、周囲の映像が隠れたり、画面の周囲が黒で表示されたり、左右の端がちらついたりすることがあります。また、放送画面に表示される選択項目を選ぶ際に枠がずれて表示されることがあります。
- 4:3の映像を「スーパーライブ」などを利用して画面いっぱいに表示させると、周辺画像が一部見えなくなったり、変形して見えたりします。制作者の意図を尊重した本来の映像は、「Dot By Dot」、「ノーマル」(16:9映像の場合は「フル」)でご覧になれます。
- テレビを公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等に置いて、画面サイズの切換機能を利用して画面の圧縮や引き伸ばしなどすると、著作権法上で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

画面サイズを切り換える

- 視聴している映像の種類に応じて、画面サイズを切り換えることができます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「画面サイズ切替」の順に進む

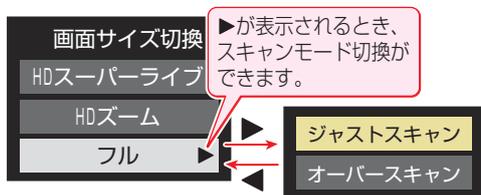
2 お好みの画面サイズを▲・▼で選び、**決定** を押す

- 画面の見えかたについては前ページをご覧ください。

▶が表示される時

- **決定** を押す前に、必要に応じて以下の操作をします。

1 ▶ を押し、お好みのモードを▲・▼で選ぶ



- ジャストスキャン… 16:9の映像が画面内に収まるように表示させます。
- オーバースキャン… 16:9の映像を少し大きめに表示させます。

降雨対応放送について

- BSデジタル放送や110度CSデジタル放送を視聴中に、雨や雪などで衛星からの電波が弱まった場合、放送局が運用していれば、降雨対応放送に切り換えて見るすることができます。

※ 図のメッセージが表示された場合は、以下の手順で降雨対応放送に切り換えられます。

※ 降雨対応放送は、通常の放送よりも画質が低下します。

電波の受信状態が良くありません。
サブメニューから降雨対応放送に切り換えられます。

コード：E201

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「信号切替」⇒「降雨対応放送切替」の順に進む

2 ▲・▼で「降雨対応放送」を選ぶ

- 降雨対応放送をやめるには、「通常の放送」を選びます。
- 電波が強くなると、自動的に通常の放送に戻ります。

他の映像・音声・データを切り換える

音声多重番組で聴きたい音声を選ぶ

- 音声多重放送番組の場合、主音声、副音声、主：副を切り換えることができます。
- 番組情報画面に **二重音声** のアイコンが表示されます。

1 **音声切換** を押す

- **音声切換** を押すたびに以下のように切り換わります。

→ 主音声 → 副音声 → 主：副 →

- サブメニューから切り換えることもできます。

音声を切り換える

- 複数の音声で放送されている番組の場合、音声1、音声2などの音声信号を切り換えることができます。
- 番組情報画面に **信号切換** のアイコンが表示されます。

1 **音声切換** を押す

- **音声切換** を押すたびに以下のように切り換わります。

→ 音声1 → 音声2 → 音声3… →

- サブメニューから切り換えることもできます。

映像、音声、データを切り換える

- デジタル放送では、一つの番組に複数の映像や音声、データがある場合があり、お好みで選択することができます。
- 映像、音声、データが切り換えられる番組は、番組説明画面に **二重音声** や **信号切換** のアイコンが表示されます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「信号切換」の順に進む

2 切り換える信号を▲・▼で選び、**決定** を押す

- 視聴中の番組で切替えない信号は、薄く表示されます。



3 視聴したい映像、音声、データを▲・▼で選び、**決定** を押す

- 「信号切換」のサブメニューに表示される「音声信号切換」、「音多切換」は、**音声切換** で選択する機能と同じものです。



■ 信号切換について

- 選局操作をすると、信号切換で選択した状態は取り消されます。(基本の信号を選択した状態になります) ただし音多切換と字幕切換では、選局しても状態は取り消されません。

便利な機能を使う つづき

映像を静止させる

- 映像の動きを止めることができます。料理番組のレシピや、視聴者プレゼントの応募先などをメモするときに便利です。

1 静止 を押す

- 映像が静止します。
- 解除するときは、もう一度  を押します。
- 映像の静止中でも音声は流れ続けます。

お知らせ

- ラジオ、データ放送視聴中は静止画にできません。また、映像の静止中にデータ放送の操作はできません。
- 字幕放送の場合、映像の静止中に字幕は表示されません。
- 選局操作をすると静止画が解除されます。
- テレビを公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどで「静止画」を使用すると、著作権法で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

節電モードを切り換える

- 液晶画面のバックライトの明るさをおさえることでテレビの節電ができます。
- 「節電1」、「節電2」に切り換えた場合、画面の明るさに適した画質に自動調整されます。(「映像メニュー」 が「ライブプロ」、「映画プロ」、「ゲーム」、「PC」の場合、画質は変わりません)
- 省エネに関するさまざまな設定をすることができます。

1 を押し、▲・▼と で「機能設定」⇒「省エネ設定」の順に進む

- 「省エネ設定」の画面が表示されます。

2 設定する項目を▲・▼で選び、 を押す

節電モード	標準
番組情報取得設定	取得する
無操作自動電源オフ	動作しない
オンエア無信号オフ	待機にする
外部入力無信号オフ	待機にする
省エネ設定	

3 お好みの設定を▲・▼で選び、 を押す

- 以降の説明を参照し、設定してください。

節電モード

- 標準…………… 標準の明るさです。
- 節電1…………… 画面の明るさをおさえて、節電します。
- 節電2…………… 画面の明るさを「節電1」よりもおさえて、さらに節電します。

番組情報取得設定

- 番組表機能や予約機能を正しく働かせるために、「取得する」でを使用することをおすすめします。
- 取得する… 電源が「待機」や「切」のときに、デジタル放送の番組情報を取得します。取得時に電力を消費します。
- 取得しない… 番組情報を取得しません。そのため、番組表の内容が表示されなかったり、予約できなかったり、番組検索ができなかったりする場合があります。

無操作自動電源オフ

- 待機にする… テレビの無操作状態が約3時間続くと、電源が「待機」になります。
- 動作しない… テレビの無操作状態が続いても電源は「入」のままです。

オンエア無信号オフ

- 待機にする… 放送受信時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
 - 動作しない… 無信号状態が続いても電源は「入」のままです。
- ※外部入力を選んでいるときは機能しません。

外部入力無信号オフ

- 待機にする… 外部入力選択時に、無信号状態が約15分間続くと、電源が「待機」になります。
- 動作しない… 無信号状態が続いても電源は「入」のままです。

声を聞き取りやすくする

- 人の声を強調して背景の音を抑え、声を聞きやすくします。

1 クリア音調を押して「オン」または「オフ」を選ぶ

- 「オン」を選ぶと、人の声が強調されます。
- ※ ヘッドホーン／音声出力端子のご使用時には、効果は得られません。
- ※ 映像メニューが「ゲーム」または「PC」のときは、効果が得られません。
- ※ 光デジタル音声出力が「Dolby Digital」のときは、効果が得られません。

お知らせ

- テレビを公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどで「クリア音声」を使用すると、著作権法で保護されている権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。

ヘッドホーンで聴く

- ヘッドホーンで聴くときの音の出かたを設定します。
- ヘッドホーン用出力モードには「通常モード」と「親切モード」があります。お買い上げ時は「通常モード」に設定されています。
- ※ ヘッドホーン用出力モードの設定のしかたについては、「ヘッドホーン／音声出力設定」[100](#)をご覧ください。

1 [設定]を押し、▲・▼と[決定]で「音声設定」⇒「ヘッドホーン／音声出力設定」⇒「ヘッドホーン用出力モード」の順に進む

- 通常モード……ヘッドホーンだけで音声を聞くモードです。ヘッドホーンのプラグを差し込むと、スピーカーから音声がなくなります。
- 親切モード……ヘッドホーンとスピーカーの両方で音声を聞くモードです。家族で視聴する場合など、スピーカーの音声が聞き取りにくい人がヘッドホーンまたはイヤホーンで聴くというような使いかたができます。
- 親切モードのとき、スピーカーの音量は  で調整します。

ヘッドホーンの音量調節のしかた

- 「通常モード」に設定しているときは、 で調節します。
- 「親切モード」に設定して、ヘッドホーンを接続しているときは、以下の手順で調節します。
- 1  を押し、▲・▼と [決定] で「その他の設定」⇒「親切ヘッドホーン音量」の順に進む
 - ヘッドホーンを接続していないときは、選択できません。
- 2 ◀▶ で音量を調節する
 -  でも調節できます。

外部スピーカーで聴く

- ヘッドホーン／音声出力端子に音声出力機器を接続して聴くときの音の出かたを設定します。
- 外部のスピーカーを使ってテレビの音声を聴くときは、「外部スピーカーで聴く」に設定すると、テレビのスピーカーから音声がなくなります。

1 を押し、▲・▼と [決定] で「その他の操作」⇒「スピーカー切替」の順に進む

- ### 2 ▲・▼で「外部スピーカーで聴く」を選んで [決定] を押す
- テレビのスピーカーから音声がなくなります。
 - 外部スピーカー用出力モードが「固定出力モード」のときは、接続した外部音声出力機器で音量を調節します。「可変出力モード」のときは、本機のリモコンで音量が変化します。
 - ※ 外部スピーカー用出力モードの設定のしかたについては、「ヘッドホーン／音声出力設定」[100](#)をご覧ください。

ご注意

- ヘッドホーンで聴くときは、必ず「ヘッドホーン／音声出力設定」を「ヘッドホーン用出力モード」[100](#) にしてください。

アートクロック(アートアラーム)を使う

アートクロックを表示する

- 画面にアートクロックまたはでか文字時計を表示させます。

1 [時計]を押す

- [時計]を押すたびに次のように表示されます。



例 アートクロック表示



- または を押して、時計表示を消すこともできます。
- チャンネルや入力を切り換えると、時計表示は消えます。

アートクロックの表示を変える

- アートクロックを表示中に を繰り返し押して、お好みのアートクロック表示を選びます。
 選んだアートクロックは、アートアラームが動作したときの表示になります。

アートアラームを使う

- 設定した時刻にアートアラームでお知らせすることができます。
 本機の電源「切」のときは、電源が「入」になります。

1 [時計]を押し、アートクロックを表示する

2 を押し、以下の手順で設定する

アラーム	オフ
日時	月～金 AM 7:00
サウンド	ウェーブ
音量	30
チャンネル	ラストチャンネル
アラーム設定	

- を押し、▲・▼で「アラーム設定」を選んで を押してもアラーム設定画面を表示させることができます。

アラーム

- 1 ▲・▼で「アラーム」を選び、 を押す
- 2 ▲・▼で「オン」を選び、 を押す
 - アートアラームを使用しないときは、「オフ」を選びます。
 - アラーム設定画面を表示中は、 を押すたびに「アラーム」の「オン」と「オフ」を切り換えることができます。

日時

- アートアラームでお知らせする日時を設定します。
- 1 ▲・▼で「日時」を選び、 を押す
 - 2 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で日時を選ぶ
 - 曜日は「毎日」、「1回」、「毎週(日)」～「毎週(土)」、「月～木」、「月～金」、「月～土」の中から選びます。
 - 3 設定が終わったら、 を押す

サウンド

- アートアラームでお知らせするときの効果音を設定します。
- 1 ▲・▼で「サウンド」を選び、 を押す
 - 2 ▲・▼でお好みの音を選ぶ
 - を押すと、選んだ音を聴いて確認することができます。
 - ※ テレビの状態によっては、「再生できません」が表示され、効果音の確認ができない場合があります。
 - 3 設定が終わったら、 を押す

音量

- アートアラームでお知らせするときの音量を設定します。
- 1 ▲・▼で「音量」を選び、 を押す
 - 2 ▲・▼でお好みの音量を選ぶ
 - を押すと、選んだ音量を聴くことができます。
 - 3 設定が終わったら、 を押す

チャンネル

- アートアラームでお知らせした後に、画面に映すチャンネルを設定します。
- 1 ▲・▼で「チャンネル」を選び、 を押す
 - 2 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ
 - 放送の種類……ラストチャンネル/地デジ/BS/CS
 - ※ ラストチャンネルは、アートアラームでお知らせする前に見ていたチャンネルです。
 電源「切」のときは、電源を切る前に見ていたチャンネルになります。
 - チャンネル……設定した放送の種類に該当するチャンネル
 - 3 設定が終わったら、 を押す

アートアラームの動作について

- アートアラームで設定した時刻になると次のように動作します。

アートクロックが表示され、設定した「音量」、「サウンド」でアートアラームが鳴り、アラーム停止画面が表示される

- 電源が「切」のときは、電源が「入」になります。

- ◀▶で「停止」を選んで  を押すと、アートアラームを停止します。
- ◀▶で「スヌーズ」を選んで  を押すと、アートアラームを一度停止し、スヌーズ動作になります。

スヌーズ動作：

5分後、再度アートアラームが鳴り、アラーム停止画面が表示されます。

アートアラームを停止するときは、アラーム停止画面で「停止」を選びます。

スヌーズ中は、 を押してスヌーズ解除画面を表示させ、「はい」を選んで  を押します。

※ アートアラームを停止しないと：

アートクロック表示のまま、「サウンド」で選んだ音が5分後に停止し、無音状態になります。さらに5分経過すると、再度選んだ音が鳴ります。

アートアラームを停止するまで上記動作を繰り返します。（「無操作自動電源オフ」 の設定にしています）

※ アートアラームで電源が入ったときは、上記を繰り返し、操作をせずに1時間が経過すると、自動的に電源が「切」になります。

アートアラームを一時的に解除する

- アートアラームの設定を残したまま、一時的に解除することができます。

- 1  を押し、▲・▼と  で「タイマー機能」⇒「アラーム設定」の順に進む
- 2 ▲・▼で、「オフ」を選び、 を押す
 - 「オン」を選ぶと、アートアラームが再開されます。

オフタイマーを使う

- オフタイマーを設定すると、設定時間後に電源が切れて、「待機」の状態になります。

アートクロックを表示しているときに設定する

- 1  を押す
- 2 ▲・▼で、電源を「待機」にするまでの時間を選び、 を押す
 - オフタイマーが動作して、あと1分になると画面にメッセージが表示されます。

アートクロックを表示していないときに設定する

- 1  を押し、▲・▼と  で「タイマー機能」⇒「オフタイマー設定」の順に進む
 - すでにオフタイマーが設定されているときは、「オフタイマー設定」に電源が切れるまでの時間も表示されます。
- 2 ▲・▼で、電源を「待機」にするまでの時間を選び、 を押す
 - オフタイマーが動作して、あと1分になると画面にメッセージが表示されます。

アートクロックを表示しない設定にする

-  を押してもアートクロックを表示しないように設定します。

- 1  を押し、▲・▼と  で「機能設定」⇒「アートクロック表示設定」の順に進む
- 2 ▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、 を押す
 - オン…… を押して、アートクロック、でか文字時計、時計表示消去を繰り返します。
 - オフ…… を押して、時計の表示と非表示を繰り返します。

録画・予約機能について

録画できる機器と番組

- 本機背面のUSB（録画専用）端子に接続したUSBハードディスクおよびレグザリンク対応の東芝レコーダー*にデジタルテレビ放送番組を録画できます。（データ放送番組、ラジオ放送番組、外部入力（HDMI1/2、ビデオ入力）、クラウドサービスやネットサービスで視聴している動画サービスからの映像・音声は録画できません）
 - USBハードディスクの接続は次ページをご覧ください。
 - レグザリンク対応の東芝レコーダーの接続は「72」をご覧ください。

* レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合

- レグザリンク（HDMI連動）機能を使って本機の操作で録画・予約をします。
- 録画・予約の操作を終了した時点で本機の関与が終了します。予約内容の確認や取消し、録画の中止などの操作は本機側ではできません。（本機の番組表に予約アイコンが表示されないほか、予約リスト、録画リストなどにも内容は表示されません）
- 録画されるのはレコーダー自身が受信したデジタル放送番組です。字幕放送番組の字幕などの録画については、機種や録画設定などによって異なりますので、レコーダーの取扱説明書でご確認ください。

接続・設定と録画前の準備

録画する機器	録画前の準備
USBハードディスク(注)	<ul style="list-style-type: none"> ● USBハードディスクの電源を入れておきます。 ● USBハードディスクの残量を確認します。「68」 ● 「すべて」のタブの録画リストで「録画番組数」を確認します。「63」 ※ 残量不足や番組数超過（2000を超過）になりそうな場合は、不要な番組を削除します。「67」
レグザリンク対応の東芝レコーダー	<ul style="list-style-type: none"> ● ハードディスクの残量などを確認し、不要な番組を削除しておきます。 ※ 録画先はハードディスクのみです。記録メディアに直接録画することはできません。

(注) USBハードディスクは、本機に登録しないと録画できません。

- 録画や録画予約の操作をしたときに接続した機器が選択できないときは、「52」を参照し、登録してください。
- USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。ACアダプターを使用しない場合は動作保証できません。本機で接続確認済のUSBハードディスクについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

※ USBハードディスクの最大予約件数は128です。最大録画番組数は2000です。

USBハードディスクの自動削除機能について

- USBハードディスクの容量が足りない場合に、保護されていない日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能で、お買い上げ時は「自動削除設定」「67」が「削除する」に設定されています。



- USBハードディスクでの録画中に停電したり、電源プラグを抜いたりすると、途中まで録画した番組は正しく保存されません。（「録画番組を修復する」「65」の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります）
- 予約録画の開始時に、自動削除機能によって削除される番組が多い場合は、番組の冒頭部分が録画されないことがあります。
- 録画番組の再生中に予約録画の開始時刻になると、再生が自動的に停止することがあります。
- 万一、本機の故障や受信障害などによって正常に録画・録音できなかった場合の補償は一切できませんので、あらかじめご了承ください。

録画用USBハードディスクの接続をする

- 本機に接続したUSBハードディスクで以下のことができます。

できること	記載ページ
本機で受信したテレビ放送番組の録画、録画予約	55
録画番組の再生、ムーブ	63 71



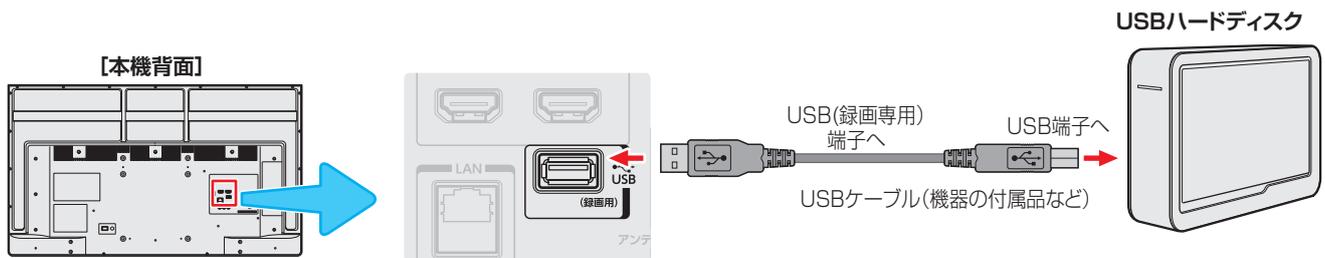
- パソコンや他のテレビ、録画機器などで使用していたUSBハードディスクを本機に接続して登録すると、それまでに保存されていたデータや録画番組などはすべて消去されます。
- 本機で使用していたUSBハードディスクをパソコンで使用するには、パソコンで初期化する必要があります。その際に、本機で録画した番組はすべて消去されます。
- 本機に接続したUSBハードディスクを取りはずす場合は、未登録の機器を含めて「USBハードディスクの設定をする」52の手順で「機器の取りはずし」の操作をしてください。
- USBハードディスクの動作中は、USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。録画した番組が消えたり、USBハードディスクが故障したりする原因となります。

USBハードディスクを接続する

- USBハードディスクやUSBハブは専用のACアダプターを接続してご使用ください。本機で接続確認済の機器でもACアダプターを接続しない場合は動作保証できません。

USBハードディスクが1台のとき

- USBハードディスクは、USB(録画専用)端子に接続します。



USBハードディスクが複数のとき

- USBハブを使用すれば、複数のUSBハードディスクを接続することができます。
- ※ 8台までのUSBハードディスクを本機に登録できます。ただし、同時に接続できるのは4台までです。



- 複数の未登録USBハードディスクを接続した状態で本機の電源を入れると、不特定の順番で登録が始まります。USBハードディスクの登録名や接続場所などを特定しやすくするために、1台ずつ接続して登録の処理が終わったら次のUSBハードディスクを接続するようにしてください。
- 登録の手順については、次ページの「USBハードディスクを本機に登録する」をご覧ください。



- 複数台のUSBハブを経由して本機にUSBハードディスクを接続することはできません。
- 本機で接続確認済のUSBハードディスクとUSBハブについては、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza>)をご覧ください。
- 接続確認済機器でも、すべての動作を保証するものではありません。

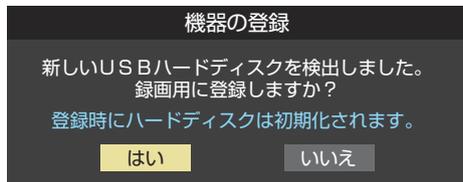
USBハードディスクの設定をする

USBハードディスクを本機に登録する

- 本機が未登録のUSBハードディスクを検出すると、「機器の登録」の画面が表示されます。以下の手順で本機に登録します。

1 ◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 登録しないときは「いいえ」を選びます。



- ※ 「いいえ」を選択した場合、そのUSBハードディスクは「機器の登録」の画面で「未登録」となります。「未登録」のUSBハードディスクを登録する場合は、次の「USBハードディスクの設定をする」で「機器の登録」の操作をしてください。

2 初期化の確認画面で、◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 登録の処理が始まり、終わると次の手順の画面が表示されます。

3 登録名を変更する場合は、◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 表示された登録名のままでよければ「いいえ」を選びます。
- 「はい」を選んだ場合は、文字入力画面が表示されます。登録名を入力して、(決定)を押します。
- 文字入力方法については、43頁をご覧ください。
- ー(スペース)だけの名称は登録できません

4 登録したUSBハードディスクを録画機器にする場合は、◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 録画や予約などでの録画機器の初期候補が、今登録したUSBハードディスクになります。
- ※ 録画機器は、録画や録画予約の際に変更することもできます。

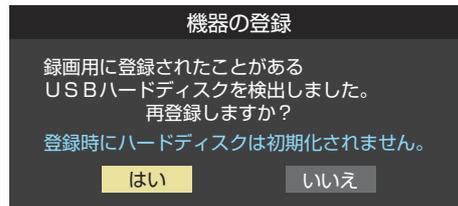
5 〈録画/ダビングのご注意〉などの内容を読み、(決定)を押す

- 録画中やムーブ中および録画予約が設定されているときは、本機やUSBハードディスクおよびハブなどの電源プラグを抜かないようにしてください。

6 登録結果の内容を確認し、(終了)を押す

使用履歴のあるUSBハードディスクを接続したとき

- 本機に登録して使用し、登録を解除したUSBハードディスクを接続した場合、以下の確認画面が表示されます。



- 「はい」を選んで(決定)を押すと登録の処理が始まり、終わると登録機器のリスト画面が表示されます。

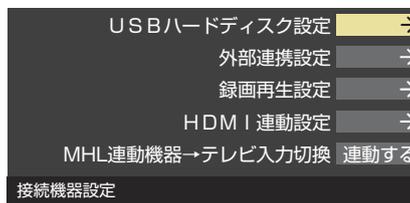
※ 再登録の場合、ハードディスクは初期化されません。

修理などで、本機内部のハードディスク登録情報記憶部が含まれる部分を交換した場合や、本機を交換した場合は、それまでに使用していたハードディスクは未登録(新しいハードディスク)として認識され、初期化して使用することになります。初期化の際に録画内容はすべて消去されます。

USBハードディスクの設定をする

- USBハードディスクを使用する場合は、必要に応じて以下の設定をします。

1 (設定)を押し、▲・▼と(決定)で⇒「接続機器設定」⇒「USBハードディスク設定」の順に進む



2 設定する項目を▲・▼で選び、(決定)を押し、以降の手順で設定する

機器の登録

- リストに「未登録」と表示されているUSBハードディスクを登録したり、機器の登録名を変更したり、登録を解除したりすることができます。
- ※ 登録できるのは8台までです。

機器を登録するとき

※ はじめて登録するときには、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

- 1 登録する機器を▲・▼で選び、(決定)を押す
- 2 登録の確認画面で、◀▶で「はい」を選んで(決定)を押す
- 3 初期化の確認画面で、◀▶で「はい」を選んで(決定)を押す
 - 初期化と登録の処理が始まります。
- 4 終わったら、登録結果の内容を確認し、(決定)を押す

登録名を変更するとき

- 1 登録名を変更する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 ◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す
- 3 文字入力画面で登録名を入力する
 - 文字入力方法については、**63**をご覧ください。

登録を解除するとき

- 1 登録を解除する機器を▲・▼で選び、**赤**を押す
- 2 ◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す
 - 予約が設定されているUSBハードディスク(録画予約アイコン付)は、再登録を促すメッセージ付の登録解除確認画面が表示されます。

省エネ設定

- 複数のUSBハードディスクに対して個別に設定を変えることはできません。
 - ※ 「省エネモード」に設定した場合、USBハードディスクが動作するまでに時間がかかることがあります。「ハードディスクがありません。」や、録画可能時間が「--時間--分」と表示されるような場合は、少し待ってから操作してください。
 - ※ USBハードディスクによっては、機器の表示ランプが「待機」と「入」の状態を正しく示さないことがあります。
 - ※ USBハードディスクによっては、「オフ」に設定していても、USBハードディスク側の省エネ機能によって、待機状態になることがあります。
- 1 ▲・▼で以下から選び、**決定**を押す
 - オン……USBハードディスクの電源は、使用しない状態がしばらく続くと待機状態になり、使う操作をすると自動的に「入」になります。
 - オフ……本機の電源が「入」のとき、USBハードディスクの電源は常時「入」の状態です。

機器の取りはずし

- USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりするときには、その前にこの操作をします。
- 1 取りはずす機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
 - 2 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す
 - 停止の処理が始まり、終了すると「USBハードディスクを取りはずしできます。」のメッセージが表示されます。
 - 3 USBハードディスクを取りはずし、**決定**を押す

動作テスト

- USBハードディスクで以下の動作ができるかテストします。
- 1 テストする機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
 - テストが始まります。終了までに数分間かかります。
 - テストが終わると結果が表示されます。テスト結果が「OK」となった動作ができます。
 - 録画……ハイビジョン画質で録画ができるか
 - 録画中の再生……ハイビジョン画質で録画しながら番組再生ができるか
 - 録画中の早見早聞……録画中に早見早聞(**64**)ができるか
- ※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

機器の初期化

- 正常に使用できなくなったUSBハードディスクは、初期化をすれば使用できるようになる場合があります。

※ 初期化をすると、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

- 1 初期化する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す
- 2 初期化の確認画面で、◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す
- 3 初期化終了の画面で**決定**を押す

録画に使用する機器を設定する

- 複数のUSBハードディスクを本機に登録している場合に、録画に使用する機器を設定します。

- 1 **設定**を押し、▲・▼と**決定**で「接続機器設定」⇒「録画再生設定」⇒「録画基本設定」⇒「録画先」の順に進む
- 2 録画に使用する機器を▲・▼で選び、**決定**を押す



スマートフォンなどで本機を操作できるようにする

- スマートフォンやタブレットPCなどの端末機器と本機をネットワークに接続し、端末機器で本機やネットワーク内のレグザAppsコネクト対応機器(レコーダーなど)を操作することができます。
- 本機のレグザAppsコネクト機能を使う場合は、以下の設定をします。
 - ※ 新しい認証方式に対応するアプリケーションでは、「ユーザー名」、「パスワード」の入力が不要なものがあります。
- レグザAppsコネクトの詳細については、ホームページ(<http://apps.toshiba.co.jp/>)の「レグザAppsコネクト(Regza Apps Connect)」をご覧ください。

本機と端末機器をネットワークに接続する

- 「インターネットを利用するための接続をする」の「接続のしかた」(84頁)を参照して、本機のLAN端子をルーターに接続します。(インターネットに接続する必要はありません)
- ルーターのLAN端子に無線LANアクセスポイントを接続し、端末機器を無線LANで接続します。

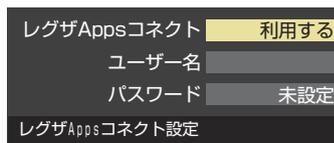
レグザAppsコネクトの設定

- スマートフォンやタブレットPCなどの端末機器から本機にアクセスするために必要な設定をします。

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「レグザAppsコネクト設定」の順に進む



- 2 設定する項目を▲・▼で選び、**決定** を押し、以降の手順で設定する



- 文字入力方法については、43頁をご覧ください。

レグザAppsコネクト

- レグザAppsコネクトを利用するか利用しないかを設定します。
- 1 ▲・▼で「利用する」または「利用しない」を選び、**決定** を押し

ユーザー名

- 端末機器から本機にアクセスする際のユーザー名を16文字以内で設定します。使用できる文字は半角英数字と「-」です。
- 1 文字入力画面でユーザー名を入力し、**決定** を押し

パスワード

- 端末機器から本機にアクセスする際のパスワードを16文字以内で設定します。使用できる文字は半角英数字と「-」です。
- 1 文字入力画面でパスワードを入力し、**決定** を押し

本機の情報

- スマートフォン、タブレットPCなどの端末機器から本機を識別するための情報(デバイス名)を設定することができます。
- お買い上げ時は本機の形名(例:REGZA-40G9)に設定されています。

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「接続機器設定」⇒「外部連携設定」⇒「本機の情報」の順に進む

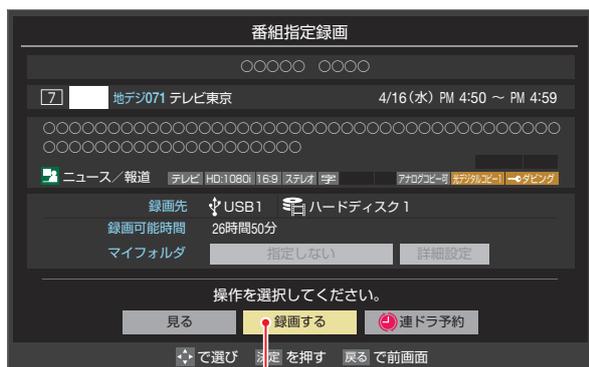
- 2 **決定** を押し、文字入力画面で新しい名前を入力する

- 文字入力方法については、43頁をご覧ください。
- 15文字以内で設定します。使用できる文字は半角大文字英数字と「-」です。

番組を録画する

- テレビ放送番組を録画するときは、以下の操作をします。

- 1 テレビ放送を見ているときに **番組表** を押す
 - 番組表が表示されます。
 - ミニ番組表 **36** から録画できます。
- 2 録画する番組(放送中)を **▲・▼・◀・▶** で選んで、**決定** を押す
 - 番組指定録画面が表示されます。
- 3 **▲・▼・◀・▶** で「録画する」を選び、**決定** を押す



「録画する」を選びます。

- 現在の設定で録画が開始されます。
設定を変更して録画する場合は、右の説明をご覧ください。
- 外出する場合は、本機(テレビ)の電源を「待機」または「切」にします。(録画は継続されます)

録画を中止するとき

- 録画を途中でやめるときは、以下の操作をします。録画予約での録画中の場合も同様です。
 - USBハードディスクの残量がなくなった場合は録画が自動的に停止します。
 - ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーの録画は本機の操作では止まりません。機器側で録画停止の操作をしてください。
- 1 録画中に **終了** または **■** を押す
 - 2 「録画中止」の画面で、**◀・▶** で「はい」を選び、**決定** を押す

録画の設定を変更してから録画するとき

- 1 手順3で「録画する」を選んでから「詳細設定」を選び、**決定** を押す



- 詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面でできる設定

- 録画先の機器の変更
- 1 「録画先」で録画機器を選び、**決定** を押す
 - 2 **▲・▼** で「設定完了」を選び、**決定** を押す
- 放送時間の変更
- 1 「放送時間」で「連動する」または「連動しない」を選び、**決定** を押す
 - 連動する： 放送局から番組遅延の情報が送信されると、最大3時間までの遅れに連動して録画します。
 - 連動しない： 番組遅延の情報とは連動せずに、録画を開始するときに番組指定録画面に表示される番組終了時間まで録画します。
 - 2 **▲・▼** で「設定完了」を選び、**決定** を押す

その他の録画設定を変更するとき

- 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」**59** をご覧ください。

番組表で予約する

- 番組表で番組を選んで予約します。

1 番組表を押す

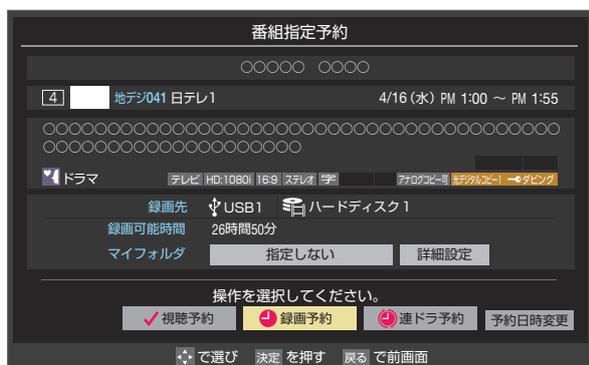
- 番組表が表示されます。
- ミニ番組表 [36] から録画予約できます。

2 予約する番組を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 番組指定予約画面が表示されます。

3 以下の操作で録画・予約をする

- 録画機器や設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」[59] の操作をします。



1 ▲・▼・◀・▶で「視聴予約」、「録画予約」、「連ドラ予約」のどれかを選び、決定を押す

- 視聴予約：指定した番組の視聴を予約します。
- 録画予約：指定した番組の録画を予約します。
- 連ドラ予約：同じ番組を毎回録画します。[57]
- ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合は、「毎予約」が表示されます。

2 「予約を設定しました。」が表示されたら、決定を押す

予約する日時を変更するとき

- 再放送番組などで、1話から3話まで連続して放送される場合など、1話目を番組表で予約し、以下の操作で終了時間を3話目の終了時間に変更すると、1話から3話まで一つの録画予約にすることができます。

1 ▲・▼・◀・▶で「予約日時変更」を選び、決定を押す

2 メッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

3 「日時を指定して予約をする」[58]の手順3以降の操作をする

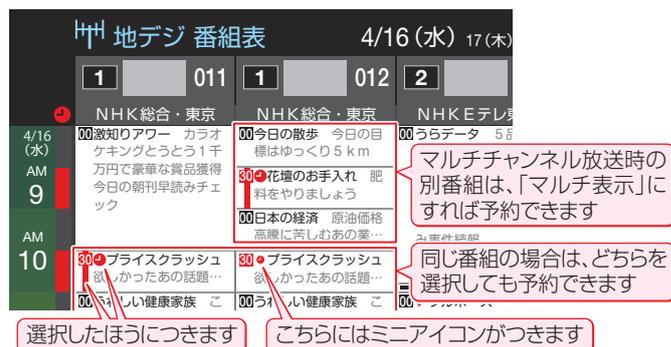
メッセージが表示されたとき

「予約数がいっぱいです。」が表示されたとき

- 決定を押して、表示を消します。
新規予約をする場合は、予約取り消し [60] の操作をしてから、予約し直してください。

マルチ表示の番組表で予約するとき

- 一つの放送局で別の番組を放送している場合、その番組を予約するには番組表を「マルチ表示」[37] に切り換えます。
- マルチ表示の番組表で同じ番組が並んでいる場合は、どちらを選択しても予約できます。



お知らせ

- 放送局の変更があった場合、予約どおりに動作しないことがあります。
- 複数の番組が連続して予約されている場合、番組の最後の部分が録画されません。
- 予約をした時間帯は番組表に赤色の帯で表示されます。[35] (東芝レコーダーへの予約は表示されません)
- 予約の確認や取消しについては [60] を、予約の優先順位については [61] をご覧ください。
- 本機で「毎予約」で予約しても、機器によっては受け付けない(録画しない/録画機能が働かない)場合があります。

連続ドラマを予約する

● 連続ドラマや連日放送されている同じ番組などを、毎回自動的に録画されるように予約することができます。

※ 録画機器がUSBハードディスクの場合に連ドラ予約ができます。

1 番組表を押して、番組表を表示させる

- 番組表が表示されます。
- ミニ番組表 [36] から録画・録画予約ができます。

2 連ドラ予約をする番組を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す

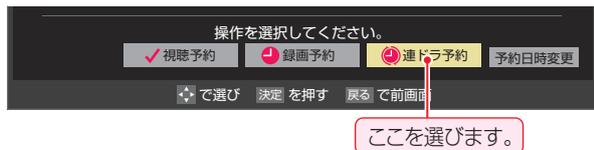
- 現在放送中の番組を選んだ場合は「番組指定録画」画面が、これから放送される番組を選んだ場合は、「番組指定予約」画面が表示されます。

3 番組の録画先をUSBハードディスクに設定する

- 「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」 [59] の操作で、「録画先」を設定します。

4 ▲・▼・◀・▶で「連ドラ予約」を選び、(決定)を押す

- 画面の図は、「番組指定予約」画面の場合の例です。



5 「連ドラ予約」画面で内容を確認する

- 番組名(連ドラ)や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認してください。

「連ドラ予約」がより正しく実行されるために

「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」 [59] の操作で「連ドラ設定」の画面を表示させ、「追跡キーワード」の確認・編集をすることをおすすめします。

6 ▲・▼・◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押す

7 「予約を設定しました。」が表示されたら、(決定)を押す

視聴中の番組を連ドラ予約するとき

- 1 [メニュー] を押し、▲・▼で「連ドラ予約」を選んで (決定) を押す
- 2 手順5～7の操作をする

連ドラ予約の動作について

- 連ドラ予約は、追跡基準(指定した番組の放送曜日と開始時刻)と、追跡キーワード(番組名など)をもとに、次の番組を検索して自動的に録画予約をする機能です。
 - ※ 追跡基準(開始時刻)の前後約2時間が検索されます。
- 追跡キーワードには連ドラ予約をした番組の番組名、追跡基準には番組の放送時間が自動で設定されます。

メッセージが表示されたとき

- 「メッセージが表示されたとき」 [56] に従って操作してください。



- 電源を「入」にしてからしばらくの間は連ドラ予約ができません。
- 連ドラ予約後に、番組情報が取得できなくなった場合や、追跡キーワードに該当する番組が検出できなかった場合は録画されません。
- 罫などの囲い文字は [映] などと表示されます。また、漢字の旧字などの特殊な文字は表示されない場合があります。
- 予約の確認や取消しについては [60] を、予約の優先順位については [61] をご覧ください。

日時を指定して予約をする / 番組を検索して録画・予約をする

日時を指定して予約をする

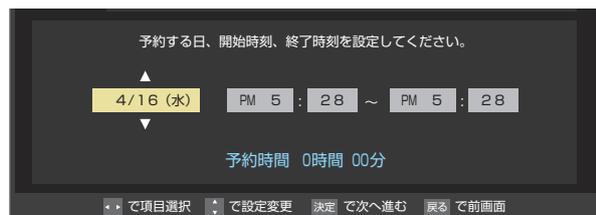
1 サブメニューを押し、▲・▼で「予約リスト」を選び、(決定)を押す

- 予約リストが表示されます。

2 青 [] を押す

- 日時指定予約画面が表示されます。

3 録画予約の日時を設定する

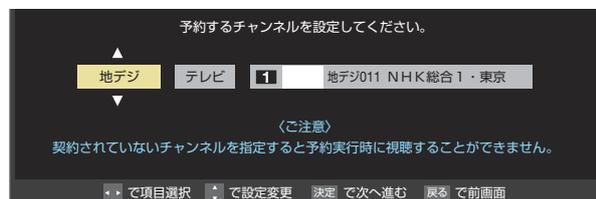


① 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で日時を設定する

- 6週間先まで指定できます。
- 特定の日のほかに、「毎日」、「毎週(日)」~「毎週(土)」、「月~木」、「月~金」、「月~土」などの繰り返し録画も選べます。
- 設定できる時間は最大23時間59分です。

② 設定が終わったら、(決定)を押す

4 録画するチャンネルを設定する



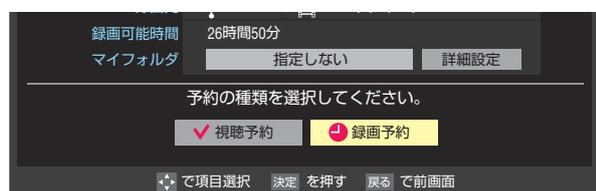
① 設定する項目を◀▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ

- 放送の種類……地デジ / BS / CS
- 放送メディア……テレビ / ラジオ (BS、110度CSのみ) / データ
- チャンネル……指定された放送の種類やメディアに該当するチャンネル

② 設定が終わったら、(決定)を押す

5 録画設定を変更する場合は、[59]の手順で操作をする

6 ◀▶で「視聴予約」または「録画予約」を選び、(決定)を押す



お知らせ

- 日時指定予約では放送時間連動の設定はできません。
- 予約の確認や取消しについては[60]を、予約の優先順位については[61]をご覧ください。

7 「予約を設定しました。」が表示されたら、(決定)を押す

メッセージなどが表示された場合

- 「設定した時間帯はこれ以上予約ができません。」「予約数がいっぱいです。」のメッセージ表示された場合の操作については、[56]をご覧ください。

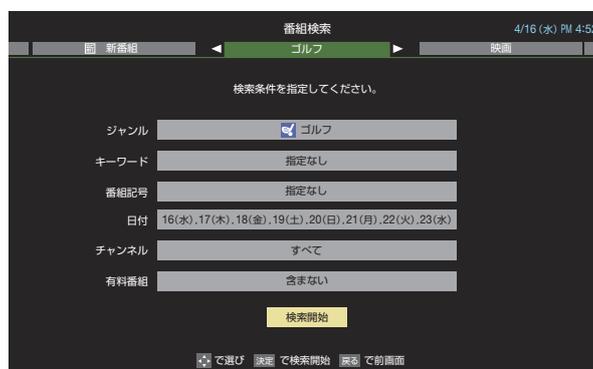
番組を検索して録画・予約をする

1 番組表を押す

- 番組表が表示されます。

2 緑 (番組検索) を押す

- 番組検索画面が表示されます。



3 「条件を絞りこんで番組を探す」[39]の手順3 ~ 5の操作をして、録画・予約したい番組を検索する

4 「番組検索結果」画面から録画したい番組を▲・▼で選び、(決定)を押す



5 録画・予約をする

- 操作方法は、「番組を録画する」[55]の手順3と同じです。
- 放送予定の番組を選んで予約をした場合には、「番組検索結果」の画面に戻ります。ほかの番組の予約を続けることができます。

録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき

1 録画・録画予約・連ドラ予約画面などで、「詳細設定」を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す

- 録画・録画予約の「マイフォルダ」の設定は、画面上の「マイフォルダ」を選んで変更します。

「マイフォルダ」を変更するとき

- 1 録画・録画予約画面で、「マイフォルダ」を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す
- 2 ▲・▼で設定したいフォルダグループを選び、(決定)を押す

2 設定する項目を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す

- ※ そのときの状況によって、設定や変更ができない項目があります。(「×」は設定がありません)

3 ▲・▼で内容を選び、(決定)を押す

4 ▲・▼で「設定完了」を選び、(決定)を押す

項目	内容	USB ハードディスク	レグザリンク対応 の東芝レコーダー
録画先	● 録画をする機器を選びます。	○	○*
マイフォルダ	● 番組の再生時に探しやすくするために、録画時にフォルダ分けします。再生のときに録画リストを「マイフォルダ別」の表示にすれば、保存した「マイフォルダ」の中から番組を探すことができます。「マイフォルダ」の名称は変更することができます。 69	○	×
保護	● 録画する番組を保護する(消さないようにする)かどうかを設定します。録画後に設定することもできます。 67	○	×
連ドラ	● 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラの名称を編集することができます。(再生の際に「連ドラ別」の録画リストから番組を探しやすい名称などに編集します) ● 文字入力のしかたは、 43 をご覧ください。 ● 連ドラの名称(連ドラグループ名)はあとで変更することもできます。 69	○	×
追跡キーワード	● 文字入力画面が表示され、必要に応じて連ドラ予約の追跡キーワードを編集することができます。(1回の放送に限られるようなキーワードは削除しておきます)	○	×
追跡基準	● 必要に応じて、連ドラ予約をする番組の録画曜日と時間を設定することができます。	○	×
上書き録画	● 連ドラ予約の場合に上書き録画の設定をします。上書き録画にすると前回の録画番組が削除されます。	○	×
放送時間	● 放送局から番組遅延の情報が送信されると、最大3時間までの遅れに連動して録画をする機能です。(放送時間の繰上げには対応できません) ● ほかの予約と時間帯の一部が重なったときの優先順については 61 をご覧ください。	○	○
録画品質	● 「録画品質」を選択すると、設定メニューが表示されます。 ● 「ハイビジョン画質(DR)」 デジタル放送をそのままの画質で録画します。 ● 「録画先の設定画質」 録画機器側で設定されている録画モードから選択します。	×	○

* レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画予約した番組は本機では確認や設定の変更などはできません。レコーダー側で確認や取消しなどの操作をしてください。

予約の確認・変更・取消しをする

- 予約の確認や取消し、録画設定や連ドラ設定の変更をすることができます。
- ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーに録画予約した番組は本機では確認や設定の変更などはできません。レコーダー側で確認や取消しなどの操作をしてください。

1 サブメニューを押し、▲・▼で「予約リスト」を選び、決定を押す

- 予約リストが表示されます。

2 予約の確認や変更、取消しをする番組を▲・▼で選び、決定を押す



録画や予約状況、上書き保存などのアイコンが表示されます。
 は他の番組と予約が重複していることを表します。

- 番組説明を見るには、決定を押す前に (番組説明) を押します。
- 予約の重複がある場合は、その中からどれか予約を取り消す番組を選択します。

3 以下の操作をする

予約を取り消すとき

- 1 ◀▶で「はい」を選び、決定を押す

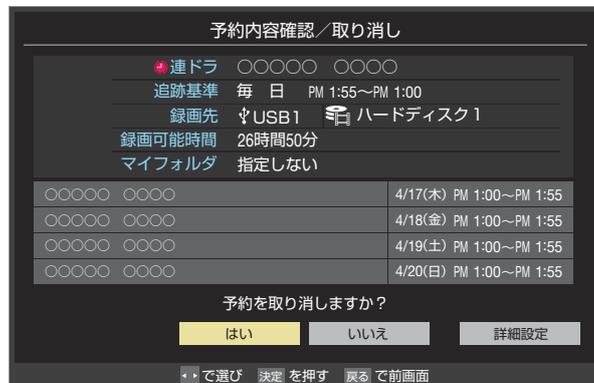


録画設定を変更するとき

- 前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の操作をします。

連ドラ予約を取り消すとき

- 1 ◀▶で「はい」を選び、決定を押す



予約内容を変更する場合

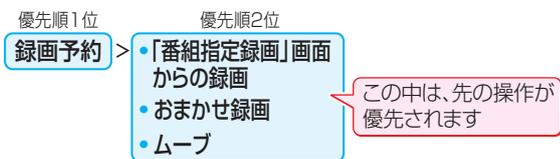
- 1 ▲・▼・◀▶で「詳細設定」を選び、決定を押す
- 2 ▲・▼・◀▶で設定を変更する項目を選び、決定を押す
 - 設定画面に表示されている項目の内容については、前ページの「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」の表を参照してください。
- 3 ▲・▼で「設定完了」を選び、決定を押す

予約・録画の優先順位と予約の動作について

予約・録画の優先順位について

「録画予約」が最優先されます

- 録画予約と他の録画が重なった場合、録画予約が優先されて、他の録画は中止または取消しになります。

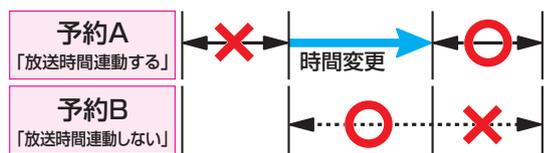


放送時間が変更されたとき

- 予約した番組の放送時間が変更されて、他の予約番組と重なったときは、以下の優先順位で録画されます。

「放送時間」を「連動する」に設定した予約番組と「連動しない」に設定した番組が重なった場合

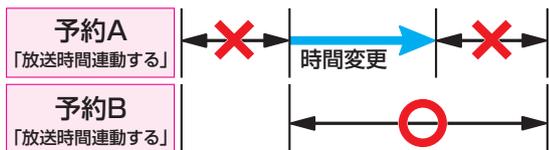
- 「放送時間」を「連動する」に設定した番組が優先されます。
- 例 「放送時間」を「連動する」に設定していた予約Aが時間変更に対応したため、予約Aと重なった部分の予約Bは録画されません。



「放送時間」を「連動する」に設定した複数の予約番組が重なった場合

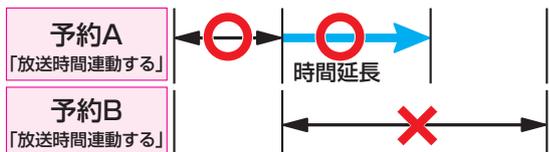
1 開始時刻が変更された場合

- 開始時刻の早い予約が優先されます。
- 例 予約Aの変更後の開始時刻よりも、予約Bの開始時刻が早くなるので、予約Aは取り消されます。



2 放送時間が延長された場合

- 先に録画を開始した番組の時間延長が優先されます。
- 例 先に録画を開始し、放送時間延長に対応した予約Aが優先されます。開始時刻の遅い予約Bは取り消されます。



3 複数の予約番組の開始時刻が同じになった場合

- 最初に予約設定した番組が優先され、2番目以降に設定した番組の予約は取り消されます。

- 番組情報が更新されるタイミングによっては正しく録画されることがあります。
- 終了時刻が未定のみで、継続して録画される時間は3時間までです。
- 番組情報(放送時間)が変更され、「録画予約」と「連ドラ予約」が同時刻で重なった場合は「録画予約」が優先録画されます。

予約の動作について

- 予約設定後、本機の動作は以下のようになります。
- ※ レグザリンク対応の東芝レコーダーに予約した場合は、予約終了の時点で本機の関与は終了し、以下の動作はしません。

予約した番組放送が始まる時

- 録画予約の場合は、予約した番組のチャンネルに切り換わる場合があります。
- 予約した視聴制限のある番組が始まる時は、メッセージが表示されます。(決定) を押し、暗証番号(1097)を入力してください。

予約した番組の放送中

- 録画予約した番組の録画中に操作できないボタンを押すと、録画中を知らせるメッセージが表示されます。
- 録画予約した番組の録画が始まると、左記の優先順に従って他の録画は中止されます。

予約した番組の終了後

- 本機を通常どおり使用できます。

おまかせ録画

- おまかせ録画はクラウドサービス情報を利用して、興味のあるキーワード(人物も含む)のコミュニティを選ぶだけで自動録画する機能です。

おまかせ録画は、USB(録画専用)端子に接続したUSBハードディスクに録画されます。おまかせ録画について詳しくは、ホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

※ おまかせ録画は、録画を保証するものではありません。確実に録画したい番組は、番組表などから録画予約をしてください。

おまかせ録画に必要な準備

- おまかせ録画を利用するには、以下の接続と設定が必要です。

必要な接続・設定	記載ページ
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットを利用するための接続をする。 ● インターネットを利用するための設定をする。 ● 「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定する。 ● おまかせ録画コミュニティ※を登録する。 	

※ おまかせ録画コミュニティについては、「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

おまかせ録画について

おまかせ録画の設定について

- **クラウド**を押して、クラウドサービスの画面を表示させ、クラウドサービスの画面から設定します。
 - おまかせ録画の設定については、クラウドサービスの画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

録画について

- 地上デジタル放送／BSデジタル放送／110度CSデジタル放送のテレビ放送を録画します。
 - 字幕放送・映像／音声ESは録画されます。
 - 視聴年齢制限番組、非契約番組は録画されません。
- おまかせ録画と番組表などから予約した通常録画予約が重なる場合は、通常録画予約が優先されます。
 - 通常録画予約とおまかせ録画の予約が同時時間帯に重なったときは、通常予約が優先されおまかせ録画は予約されません。おまかせ録画予約が先に行われている場合は、番組表などから通常予約の操作をすると、予約が重なっていることをお知らせする画面が表示されます。
- おまかせ録画の最大予約件数は32件です。
 - おまかせ録画予約の設定をすると、おまかせ録画予約用に予約件数を32件確保されます。このとき、通常録画予約の最大予約件数は96件になります。

USBハードディスクの録画領域について

- おまかせ録画は、通常録画とは別にUSBハードディスクに録画領域を用意します。
 - おまかせ録画領域の設定は、クラウドサービスの画面から行います。
 - 通常録画領域とおまかせ録画領域を合わせて、USBハードディスクの総容量となりますので、ご注意ください。
- 録画番組は、通常録画とおまかせ録画を合わせて2000件まで録画できます。

おまかせ録画を設定しているときの録画予約、録画済番組について

- おまかせ録画の設定をすると、録画リストの予約アイコンに「おまかせ」がつき、分類タブに「おまかせ」が追加されます。おまかせ録画された番組は、分類タブの「おまかせ」に表示されます。

おまかせ録画の自動削除について

- おまかせ録画番組は、おまかせ録画領域の要領が足りなくなると、古い番組から順に自動削除されます。
 - おまかせ録画の自動削除は解除できません。

おまかせ録画から通常録画への変更について

- おまかせ録画予約またはおまかせ録画番組は、以下の操作で通常録画予約または通常録画番組に変更することができます。
 - おまかせ録画予約は、予約内容確認画面で **青** を押すと通常録画予約に変更できます。
 - おまかせ録画番組は、録画リストで **サブメニュー** を押し、「通常番組に変更」を選ぶと、通常番組に変更することができます。
 - おまかせ録画番組は、ムーブすると自動的に通常番組に変更されます。

おまかせ録画でのご注意

- 画面に表示される録画可能時間は、USBハードディスクの通常録画領域の容量をもとに表示されます。
- おまかせ録画の設定を解除したり、おまかせ録画の録画先のUSBハードディスクを変更したりすると、おまかせ録画予約は、すべて削除されます。
 - おまかせ録画番組は削除されません。
- 「ネットワークサービス利用設定」 **86** を「利用しない」に変更すると、おまかせ録画の設定は解除されます。

録画した番組を再生する

- USBハードディスクに録画した番組を見るには、以下の操作をします。

再生の基本操作とさまざまな再生のしかた

1 録画リストを押す

2 必要に応じて録画リストの表示を変える

- 分類タブとグループタブについては、下の図を参照してください。

① 《 》で分類タブを切り換える

- すべて …… すべての録画番組が表示されます。
- 未視聴 …… 未再生の録画番組が表示されます。
- 曜日別 …… 録画した曜日ごとに表示されます。
- ジャンル別 …… ドラマや映画などのジャンルごとに表示されます。番組情報がない場合は、「その他」に分類されます。
- 連ドラ別 …… 「連ドラ予約」の予約ごとに表示されます。
- マイフォルダ別 …… 指定した「マイフォルダ」ごとに表示されます。

② ◀▶でグループタブを切り換える

- 分類が「すべて」と「未視聴」の場合はグループタブはありません。

3 見たい番組を▲・▼で選び、(決定)を押す

- 選んだ番組の再生が始まります。
- 前回、再生を途中で停止した番組を選んだ場合は、続きから再生されます(レジューム再生)。
- 番組を最後まで再生し終わると、そのまま静止状態になり、しばらくするとテレビの放送になります。
- 再生中にできるリモコン操作については、次ページをご覧ください。

4 番組再生を終了するには、[終了] または [終了]を押す

- 放送画面などに戻ります。

番組の冒頭から再生する— 頭出し再生

- 1 再生する番組を▲・▼で選び、[決定]を押す

録画中の番組を再生する— 追っかけ再生

- 1 録画中の番組を▲・▼で選び、(決定)を押す

再生中にタイムサーチで再生位置を指定する

- 1 サブメニューを押し、▲・▼で「サーチ」を選び、(決定)を押す

- 画面右上に「サーチ-----」が表示されます。

- 2 1~10(0)で時間を指定する

- 例 冒頭から1時間25分5秒後の位置を指定するとき
10(0) 1 2 5 10(0) 5の順に押します。

分類タブ

グループタブ

分類タブが「すべて」と「未視聴」では表示されません。

使用中の機器

選択中の録画番組が再生画面に表示されます。

選択中の録画番組の情報

コピー制御アイコン

自動削除機能が有効のときに表示

機器の情報

操作ガイド

録画リスト(例)



選んだ番組の番号 / 録画番組数

番組の並び順

放送日

録画中アイコン

未再生の番組

上書きアイコン

各マイフォルダのアイコン

保護アイコン

お知らせ

- 番組冒頭部分の約2秒間を飛ばして再生が始まります。(録画は番組開始時刻の約2秒前から開始されるようになっています)
- 録画リストについて
 - 録画開始直後の番組は、録画リストに表示されるまでに少し時間がかかります。
 - 録画リストに表示できる最大数は2000番組までです。これを超えて録画した機器は、正しく動作しないことがあります。
 - 機器に記録されている情報によっては、選択中の録画番組の情報が正しく表示されないことがあります。
 - コピー制御アイコンは番組の情報として表示されます。本機は録画番組のムーブにのみ対応しています。

録画した番組を再生する つづき

録画番組の再生中にできるリモコン操作



ボタン	内容
	一時停止、早送り/早戻し再生から通常の再生に戻します。 <ul style="list-style-type: none"> 再生中に繰り返し押し続けると、1.5倍の速さの音声付早送り再生「早見早聞」と通常の再生が交互に切り替わります。 放送番組の視聴中に押し続けると、USBハードディスクの録画番組の最後に視聴した番組の続きが再生されます。
	再生中に押し続けると一時停止になり、もう一度押し続けると一時停止が解除されます。
	再生を終了し、放送画面などに戻ります。
	早送り再生をします。(押し続けると速さが変わります)
	早戻し再生をします。(押し続けると速さが変わります)
	再生中または早見早聞での再生中に押し続けると、30秒ほど先に進んで再生します。(ワンタッチスキップ)
	再生中または早見早聞での再生中に押し続けると、10秒ほど戻って再生します。(ワンタッチリプレイ)
	再生中に押し続けると、録画リストが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 放送番組視聴時などに押し続けた場合も録画リストが表示されます。

- ※ 録画番組によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画中の番組再生での早送り/早戻し再生などの特殊再生機能は、正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画番組によっては、一時停止やワンタッチスキップなどの特殊再生操作をしたときに映像が表示されなくなる場合があります。その場合は、で通常再生に戻してから再度特殊再生の操作をしてください。

- ※ 録画番組によっては、「早見早聞」が正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画中の番組再生での早送り/早戻し再生などの特殊再生機能は、正しく動作しないことがあります。
- ※ 録画番組によっては、一時停止やワンタッチスキップなどの特殊再生操作をしたときに映像が表示されなくなる場合があります。その場合は、で通常再生に戻してから再度特殊再生の操作をしてください。

ワンタッチスキップ/ワンタッチリプレイの時間を変更する

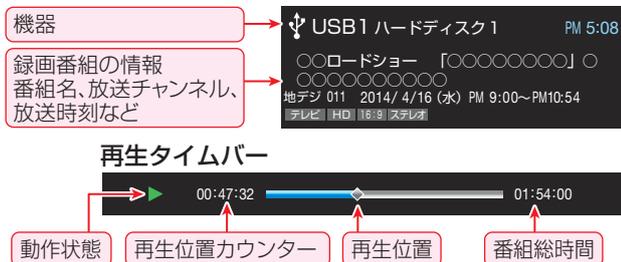
- ワンタッチスキップとワンタッチリプレイの時間を変更することができます。お買い上げ時の設定のように、飛ばす時間よりも戻す時間を短く設定しておく、飛ばしすぎて戻すときに便利です。
- ① **[設定]**を押し、▲・▼と**(決定)**で「接続機器設定」⇒「録画再生設定」の順に進む
- ② ▲・▼で「ワンタッチスキップ設定」または「ワンタッチリプレイ設定」を選び、**(決定)**を押し
- ③ ▲・▼で時間を選び、**(決定)**を押し

録画番組の情報や番組説明を見る

番組の情報を見る

① 再生中に「画面表示」を押す

- 再生中の番組の情報が表示されます。
- しばらくすると番組情報の表示は消えます。



② 表示を消すには、もう一度「画面表示」を押す

番組説明を見る

① 「サブメニュー」を押し、▲・▼で「番組説明」を選び、(決定)を押す

- 番組説明画面が表示されます。

② 番組説明画面を消すには、(終了)を押す

- しばらく放置した場合にも消えます。

録画番組を修復する

- 録画中に停電したり、電源プラグを抜いてしまったりすると録画番組が正しく保存されず、そのままでは再生できません。このような場合、「録画番組の修復」をすると、録画された内容を再生できるようになることがあります。

① 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「接続機器設定」⇒「USBハードディスク設定」の順に進む

② ▲・▼で「録画番組の修復」を選び、(決定)を押す

③ 番組を修復する機器を▲・▼で選び、(決定)を押す

④ 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

- 修復の処理が始まります。終わるまでそのままお待ちください。

⑤ 「録画番組の修復を行いました。」が表示されたら、(決定)を押す

- この操作には、30分程度かかる場合があります。
- 録画番組を修復できなかった場合は、「録画番組の修復ができませんでした。」が表示されます。
- ※ 録画番組が修復できた場合でも、通常再生以外の再生機能は正しく動作しないことがあります。

シーン検索機能について

- 「シーン検索」を押すと、録画をより便利に楽しくお使いいただけるクラウドサービスが利用できます。使いかた(操作方法など)については、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

シーン検索機能の利用に必要な準備

- インターネットへの接続と設定(84㉿～86㉿)が必要です。
- 「ネットワークサービス利用設定」の設定(86㉿)が必要です。

タグリストについて

- 録画した番組を再生中に「サブメニュー」を押して「タグリスト」を選ぶと、録画をより便利に楽しくお使いいただけるクラウドサービスが利用できます。使いかた(操作方法など)については、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

タグリストの利用に必要な準備

- インターネットへの接続と設定(84㉿～86㉿)が必要です。
- 「ネットワークサービス利用設定」の設定(86㉿)が必要です。

見たい録画番組を探して再生する

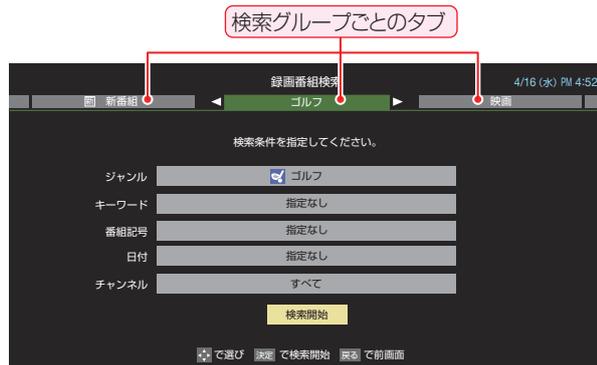
- USBハードディスクに録画した番組の中から、視聴したい番組を探ることができます。
- ジャンル、キーワードなどの検索条件を指定して録画番組を検索します。
- 録画番組のグループ(タブ)ごとに検索条件を設定できます。
- ※ USBハードディスクへの録画中は検索できません。

1 録画リストの表示中に「サブメニュー」を押す

2 ▲・▼で「番組検索」を選び、(決定)を押す

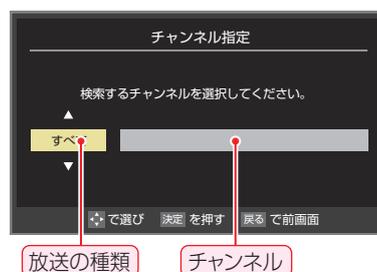
- 録画番組検索画面が表示されます。

3 検索するグループのタブを◀▶で選ぶ



「チャンネル」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「チャンネル」を選び、(決定)を押す
- 2 指定する項目を◀▶で選び、▲・▼で内容を選ぶ



- 放送の種類… すべて / BS / CS / 地デジ
- チャンネル… 指定した放送の種類に該当するチャンネル / すべて

- 3 指定が終わったら、(決定)を押す

4 検索条件を指定する

- 「ジャンル」、「キーワード」、「番組記号」の指定方法は、「条件を絞りこんで番組を探す」[39]の手順3と同じです。ほかの項目は以下の手順で指定します。

「日付」を指定するとき

- 1 ▲・▼で「日付」を選び、(決定)を押す



- 2 ◀▶で左端の欄に移動し、▲・▼で「指定する」を選ぶ
- 3 ◀▶で欄を移動し、検索範囲の開始～終了の年、月、日を▲・▼で選ぶ
- 4 指定が終わったら、(決定)を押す

5 ▲・▼・◀▶で「検索開始」を選び、(決定)を押す

- 検索にはしばらく時間がかかることがあります。
- 検索が終わると、検索結果画面が表示されます。

6 見たい録画番組を▲・▼で選び、(決定)を押す



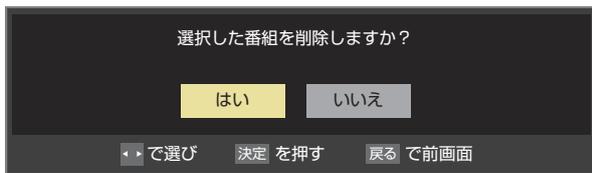
- 選んだ番組の再生が始まります。

不要な録画番組を消す／誤って消さないように保護する

● 見終わった録画番組などを消したり、消さないように保護したりする場合は、録画リストの表示中に以下の操作をします。

一つの録画番組を消す

- 1 消す番組を▲・▼で選び、赤  (削除)を押す
 - 保護されている録画番組を消す場合は、保護を解除(右下参照)してから赤  を押しください。
- 2 ▲・▼で「1件削除」を選び、 を押す
- 3 確認画面で、◀▶で「はい」を選んで  を押す



- 4 削除が終了したら、 を押す
 - 録画リストが表示されます。

複数の録画番組を消す

- 1 消す番組のどれかを▲・▼で選び、赤  (削除)を押す
- 2 ▲・▼で「複数削除」を選び、 を押す
- 3 消す番組を▲・▼で選び、 を押す
 -  を押すたびに、 と が交互に切り換わります。削除する番組に をつけます。
 - 保護された番組を消す場合は、その番組を選び、青  を押して保護を解除してから  を押します。

をつけた番組が削除されます  は  で解除してから



- 4 選択が終わったら赤  (削除実行)を押す
- 5 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、 を押す
- 6 削除が終了したら、 を押す
 - 録画リストが表示されます。

グループ内の録画番組をすべて消す

- 1 まとめて消すグループの録画リストを表示させる
 - 「録画した番組を再生する」 の手順2をご覧ください。
- 2 赤  (削除)を押し、▲・▼で「グループ内全削除」を選び、 を押す
- 3 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、 を押す
- 4 削除が終了したら、 を押す
 - 録画リストが表示されます。

自動的に消す(自動削除設定)

- お買い上げ時は、USBハードディスクの容量が足りなくなったときに、保護されていない古い録画番組が自動的に削除されるように設定されています。削除されないようにする場合は「削除しない」に設定してください。

- 1  を押し、▲・▼で「自動削除設定」を選び、 を押す
- 2 ▲・▼で「削除する」または「削除しない」を選び、 を押す

誤って消さないように保護する

- 自動削除機能で削除されたり、誤って消してしまったりしないように、録画番組を保護することができます。
※ 録画中にこの操作はできません。

- 1 保護する番組を▲・▼で選び、 を押す
- 2 ▲・▼で「保護」を選び、 を押す
 - 選択した番組が保護されます。 がつきます
 - 保護されている番組を選択してサブメニューを表示させると、「保護解除」ができます。

録画リストのさまざまな機能を使う

- 録画リストの表示中に以下のさまざまな機能を使うことができます。

繰返し再生の設定を変える

- 録画番組の繰返し再生(リピート再生)を設定することができます。
- 設定した状態は本機に記憶されます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「再生設定」を選び、**決定** を押す

2 ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す

- 1コンテンツリピート…選択した一つの番組の再生を繰り返します。
- リピート……………すべての番組の連続再生を繰り返します。
- オフ……………繰返し再生をしません。

- リピート再生をしているときは、画面左上にリピート再生アイコンが表示されます。(1コンテンツリピート: 、リピート: )
- 録画中の番組はリピート再生ができません。

番組を並べ替える

- 録画リストに表示される番組の並び順を変えることができます。
- 設定は機器ごとに記憶されます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「並べ替え」を選び、**決定** を押す

2 ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す

- 新しい順……………日付の新しい順に表示されます。
- 古い順……………日付の古い順に表示されます。

ほかの機器を選択する

- 再生する機器を変更するには以下の操作をします。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「機器選択」を選び、**決定** を押す

- 機器選択画面が表示されます。
- ※ 機器が1台しか接続されていない場合は、メッセージが表示されます。

2 使用する機器を▲・▼・◀・▶で選び、**決定** を押す

連ドラ予約をする

- 録画リストに表示されている番組を選んで、「連ドラ予約」をすることができます。

1 連ドラ予約にする番組を▲・▼で選び、**サブメニュー** を押す

2 ▲・▼で「連ドラ予約」を選び、**決定** を押す

3 「連ドラ予約」画面で内容を確認し、◀▶で「はい」を選び、**決定** を押す

- 番組名や追跡基準の曜日などが正しく表示されているか確認します。
- 設定を変更する場合は、「録画予約や連ドラ予約の設定を変更するとき」[59](#)の操作をします。

機器の情報を確認する

- 使用中の機器の情報を確認できます。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「機器の情報」を選び、**決定** を押す

- 機器情報画面が表示されます。

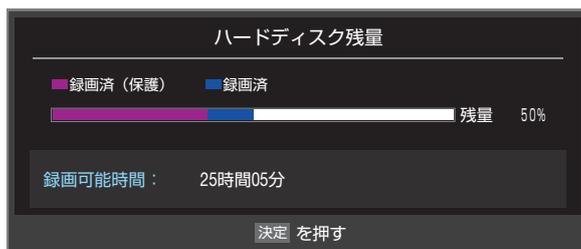
2 情報画面を消すには、**決定** を押す

ハードディスクの残量を確認する

- USBハードディスクの残量を画面で確認できます。
- ※ 残量表示や録画可能時間表示は、あくまでも目安であり、保証するものではありません。
- ※ USBハードディスクの残量は、BS・110度CSデジタルハイビジョン放送(24Mbps)を基準に算出しています。地上デジタルハイビジョン放送(約17Mbps)の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼で「ハードディスク残量表示」を選び、**決定** を押す

- 残量表示画面が表示されます。



2 残量表示画面を消すには、**決定** を押す

グループ名を変更する

- 「マイフォルダ別」の録画リストで表示されるグループのタブ名を変更することができます。
- 「連ドラ別」の場合にも同様の操作ができます。その場合は、グループ名を変更すると予約リストの予約番組名も同じ名前に変更されます。
- ハードディスクが複数接続されている場合、機器ごとにグループ名を変更することはできません。
- 番組の録画中にこの操作をすることはできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる(**63** 1~2)

- 連ドラグループ名を変更する場合は、「連ドラ別」の録画リストを表示させます。

2 名前を変更するグループのタブを ◀▶ で選ぶ

例 **わたし** のグループを選択



3 **サブメニュー** を押し、▲・▼ と **決定** で「マイフォルダ管理」⇒「マイフォルダ名の変更」の順に進む

- 「連ドラ別」のグループ名を変更する場合は、「マイフォルダ管理」の代わりに「連ドラグループ名の変更」を選びます。

4 文字入力画面でグループ名を入力する

- お好みの分類名にすることができます。
- 文字入力のしかたは、**43** をご覧ください。
- 全角文字で10文字まで入力できます。
- 文字入力の操作が終わると、録画リストのグループタブ名が変更されます。

例 **わたし** ⇒ **さやかのお気に入り** に変更



ほかのグループに移動する

- 録画番組をほかのグループに移動することができます。
たとえば、録画時の設定で「わたし」に分類した番組を、録画後に「お気に入り2」に移すことができます。
- ※ USBハードディスクでの録画中は、この操作はできません。

1 「マイフォルダ別」の録画リストを表示させる(63頁 1~2)

2 移動する番組が保存されているグループのタブを◀▶で選ぶ

3 移動する番組を▲▼で選ぶ

4 サブメニューを押し、▲▼と決定で「マイフォルダ管理」⇒「マイフォルダの変更」の順に進む

5 ▲▼で以下から選び、決定を押す

- 1件変更…………… 選択中の番組を別のグループに移動します。
- 複数変更…………… 複数の番組を選択して、まとめて別のグループに移動します。
- グループ内全変更… 選択中のグループの全番組を別のグループに移動します。

6 移動先のグループを▲▼で選び、決定を押す

- グループアイコンとグループ一覧(お買い上げ時の設定)

 みんな	 お気に入り1
 おとうさん	 お気に入り2
 おかあさん	 お気に入り3
 ぼく	 お気に入り4
 わたし	 お気に入り5
 おじいちゃん	 お気に入り6
 おばあちゃん	指定しない

7 「複数変更」の場合は以下の操作をする

1 移動する番組を▲▼で選び、決定を押す

- 決定を押すたびに、とが交互に切り換わります。移動する番組にをつけます。
- 保護されている番組も移動できます。

移動する番組にをつけます



2 移動する番組をすべて選び、黄を押す

8 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、決定を押す

録画番組をムーブ(移動)する

- 本機でUSBハードディスクに録画した番組を他のUSBハードディスクにムーブ(移動)することができます。
 - 機器の接続や設定については、「録画用USBハードディスクの接続をする」「USBハードディスクの設定をする」(51頁～53頁)をご覧ください。
- ※ USBハードディスクへの録画中はムーブできません。
- ※ ムーブ(移動)中に機器の接続を変更したり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

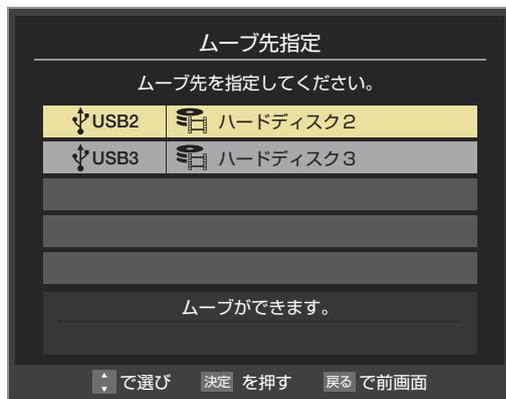
1 録画リストを表示させる(63頁1～2)

2 ムーブする番組を▲・▼で選び、**黄**を押す

3 ▲・▼で「1件ムーブ」または「複数ムーブ」を選び、**決定**を押す

4 ムーブ先を▲・▼で選び、**決定**を押す

- ムーブ先に指定できるUSBハードディスクが1台の場合、この手順はありません。



6 「ムーブ」画面で、◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す



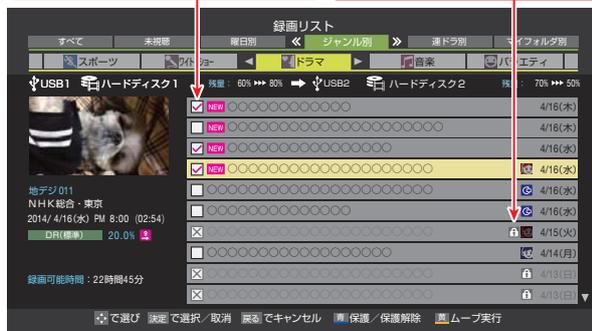
- ムーブが始まってしばらくすると、画面の右下に進行状況が表示されます。



5 「複数ムーブ」の場合は以下の操作をする

- 1 ムーブする番組を▲・▼で選び、**決定**を押す
 - **決定**を押すたびに、とが交互に切り換わり、をつけた番組がムーブされます。
 - 保護された番組をムーブする場合は、その番組を選び、**青**を押して保護を解除してから**決定**を押します。

をつけた番組がムーブされます **青**は **青**で解除してから

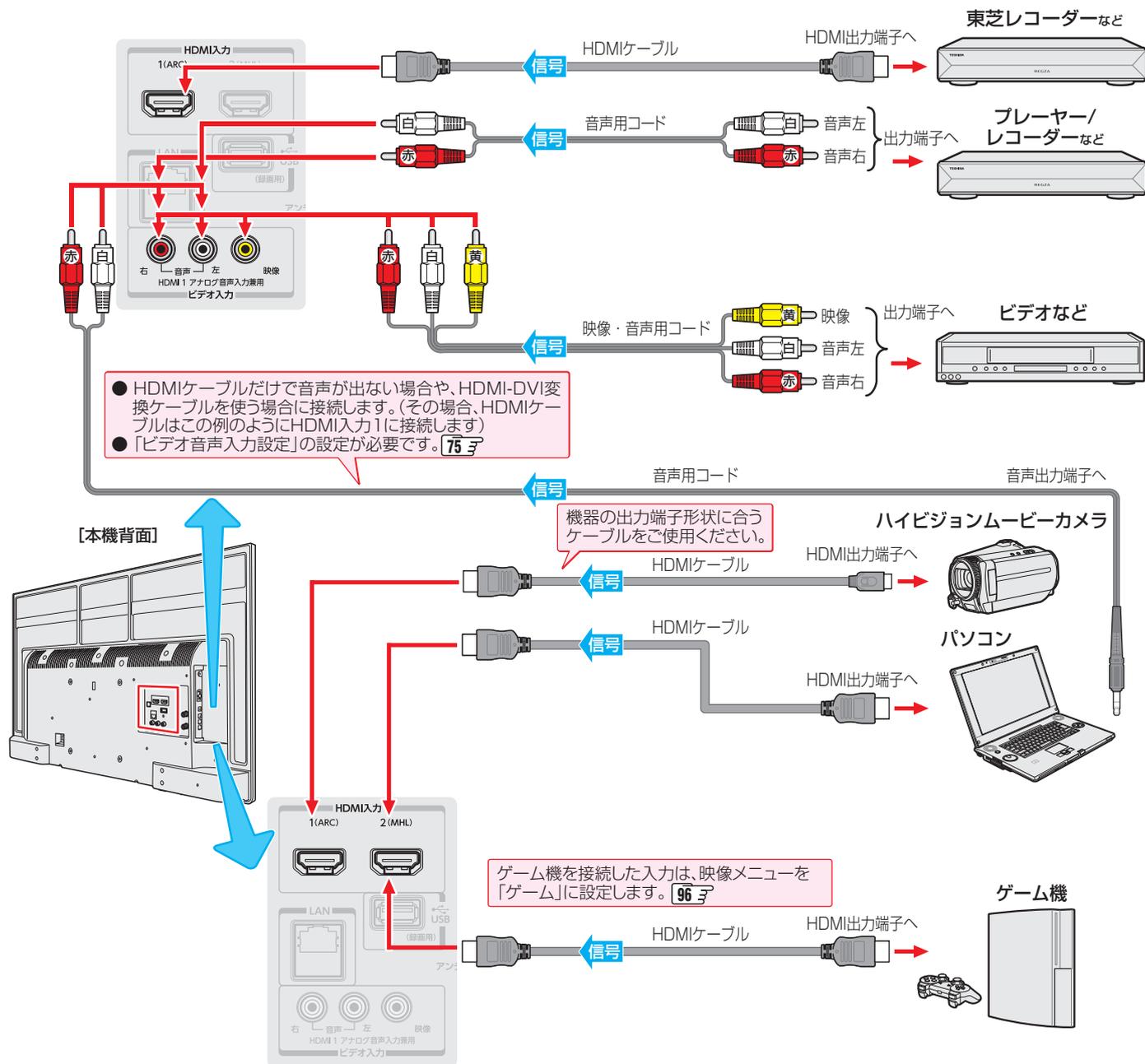


- 2 ムーブする番組をすべて選んだら **黄**を押す
 - 一度にムーブできるのは16番組までです。

外部機器を接続する

映像機器接続例

- レコーダーなどの録画機器の場合、アンテナの接続については、**[25]**をご覧ください。
- 接続が終わったら、「外部入力の機能を設定する」**[75]**を参照して必要な設定をしてください。
- HDMI連動機器(レグザリンク対応機器)では、本機との連動機能によって、ワンタッチプレイやシステムスタンバイの機能を使ったり、本機のリモコンで機器の基本操作をしたりすることができます。詳しくは、「接続機器の映像・音声を楽しむ(レグザリンク)」**[77]**をご覧ください。必要に応じて「HDMI連動機能」**[79]**の設定をしてください。

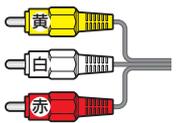
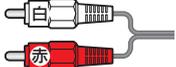


接続機器の映像・音声を楽しむ

お知らせ

- ※ 本機の「レゾリューションプラス」**[98]**と同様の高画質機能を備えた機器を接続した場合、本機の機能との相互作用で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の「レゾリューションプラス」をオフにしてください。
- レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/)をご覧ください。
- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては次ページをご覧ください。
- **パソコンについて**
 - 外部モニターで表示できるように設定し、本機が対応しているHDMI入力信号フォーマットの信号(**[132]**)を入力してください。(本機が対応している信号を入力しても、パソコンによっては本機が認識できないことがあります)
 - パソコンのDVD再生ソフトなどで再生した映像は、本機の画面で正しく表示されなかったり、映像の動きが不自然になったりする場合があります。

- 本機に接続できる接続ケーブル(接続コード)の種類と本機で対応している信号の種類および、これらの中で比較した画質・音質の関係を下表に示します。
- 接続ケーブルの端子形状などは一例です。設置場所や機器の仕様などに合わせて、適切な市販品をご使用ください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをご使用ください。また、外部機器から1080pの映像信号を入力する場合は、ハイスピードHDMI[®]ケーブルをご使用ください。(標準HDMI[®]ケーブルでは、正常に動作しないことがあります)

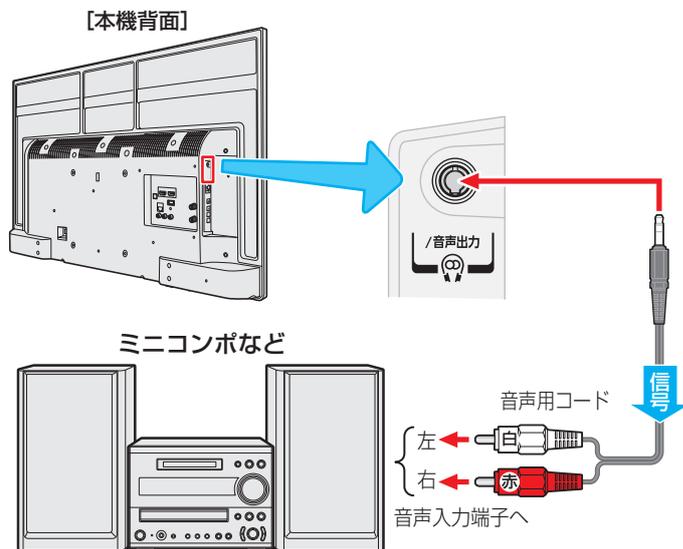
接続ケーブル(接続コード)	画質・音質	本機の入出力対応信号
HDMIケーブル(入力用) 	画質・音質ともに最高	デジタル映像信号 480i、480p、720p、1080i、1080p デジタル音声信号 リニアPCM、AAC サンプリング周波数： 48kHz、44.1kHz、32kHz
映像・音声用コード(入力用) 	画質・音質ともに標準	アナログ映像信号 480i アナログ音声信号
音声用コード(入力用) 	標準の音質	アナログ音声信号
オーディオ用光デジタルケーブル(コード)(出力用) 	最高の音質	デジタル音声信号(光) リニアPCM、ドルビーデジタル サンプリング周波数： 48kHz MPEG-2 AAC サンプリング周波数： 48kHz、44.1kHz、32kHz
音声用コード(出力用) 	標準の音質	アナログ音声信号

ご注意

- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

アナログ音声入力端子付のオーディオ機器で聴くとき

- ヘッドホーン／音声出力端子を使って、アナログ音声入力端子付のオーディオ機器に接続することができます。
- 「ヘッドホーン／音声出力設定」**[100F]**を「外部スピーカー用出力モード」に設定してください。
- 「外部スピーカー用出力モード」**[100F]**で「固定出力モード」または「可変出力モード」の設定ができます。



接続機器の映像・音声を楽しむ

お知らせ

- ヘッドホーン／音声出力端子について
 - ヘッドホーン／音声出力端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のアナログ信号が出力されます。ただし、音声調整の効果は得られません。

外部機器を接続する つづき

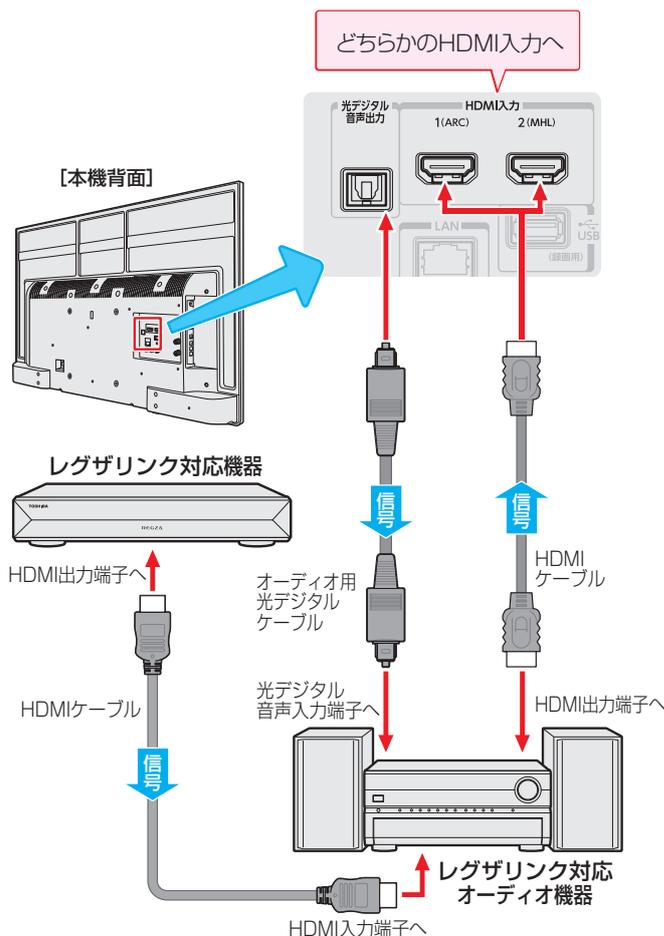
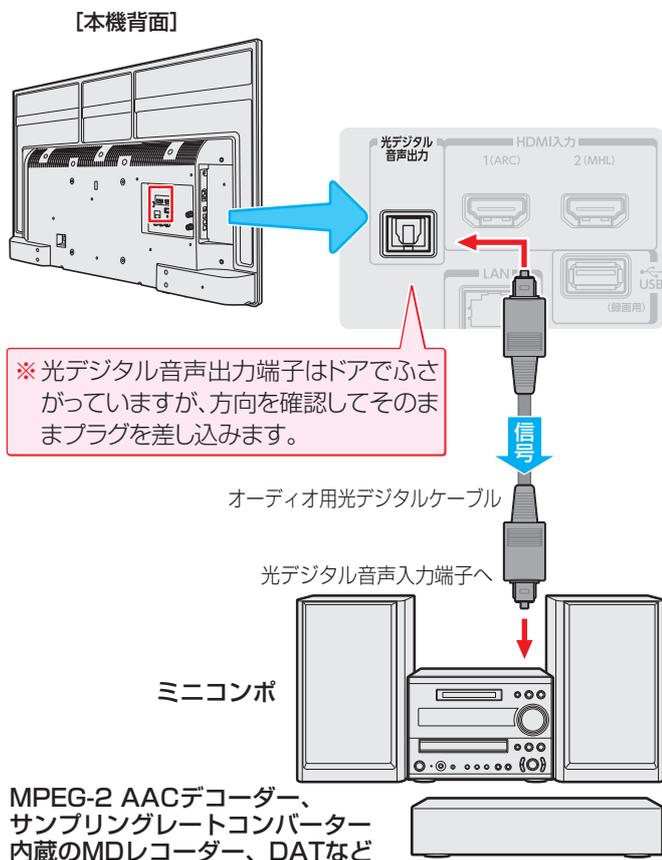
光デジタル音声端子付のオーディオ機器で聴くとき

- ミニコンポなどの音響システムに接続するとき
 - ・ 本機の音量を最小に調節し、ミニコンポなどの音響システム側で音量を調節してご使用ください。
 - ・ オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「光デジタル音声出力」**[101]** の設定をします。
- サンプリグレートコンバーター内蔵のMDレコーダーやDATに接続するとき
 - ・ MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子に接続すれば、高音質で録音して楽しむことができます。
 - ・ 「光デジタル音声出力」**[101]** を「PCM」に設定します。
- MPEG-2 AACデコーダーに接続するとき
 - ・ デジタル放送のMPEG-2 AAC方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーで楽しむことができます。
 - ・ 「光デジタル音声出力」**[101]** を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

レグザリンク対応のオーディオ機器で聴くとき

- レグザリンク対応のオーディオ機器を本機にHDMIケーブルで接続すれば、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節するなどの操作ができます。
- オーディオ機器のHDMI入力端子にレグザリンク対応機器（HDMI連動機器）を接続することができます。
- オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「光デジタル音声出力」**[101]** の設定をします。また、必要に応じて「HDMI連動設定」**[79]** をしてください。

接続機器の映像・音声を楽しむ



※ ARC対応のオーディオ機器を、ARC対応のHDMIケーブルでHDMI入力1 (ARC)端子に接続する場合は、光デジタル音声ケーブルの接続は不要です。

※ 光デジタルケーブルのプラグには2種類の形状があります。接続する機器の端子形状に合ったケーブルをお買い求めください。本機側に差し込むプラグの形状は、です。

お知らせ

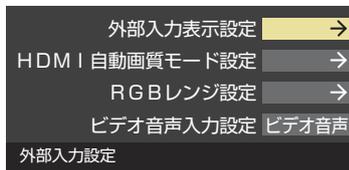
- 光デジタル音声出力端子からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のデジタル信号が出力されます。ただし、音声調整の効果は得られません。
- サンプリグレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
- MPEG-2 AAC音声のときは、主音声・副音声の切換えは本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダー側で切り換えてください。
- HDMI入力の選択時に、入力信号が著作権保護されている場合は、光デジタル音声出力端子から出力される信号を他の機器に録音することはできません。
- 本機のHDMI入力端子が対応している入力信号およびHDMIケーブルについては**[73]**をご覧ください。
- レグザリンク対応のオーディオ機器（推奨機器）については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

外部入力機能を設定する

- 外部入力のさまざまな機能を設定することができます。必要に応じて設定してください。

1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「機能設定」⇒「外部入力設定」の順に進む

2 以降の手順で設定する



入力切替時に画面に表示される機器名を設定する

- 入力切替をしたときに表示される機器の名称(ブルーレイ、DVDなど)を変更することができます。

1 ▲・▼で「外部入力表示設定」を選び、**決定** を押す

2 設定する外部入力を▲・▼で選び、**決定** を押す

- 「外部入力表示設定の初期化」を選択すると、お買い上げ時の設定に戻すことができます。



3 表示させる機器名を▲・▼・◀・▶で選び、**決定** を押す



HDMI入力の画質が自動設定されるようにする

- HDMI入力端子に入力される映像に適した画質になるように設定することができます。

1 ▲・▼で「HDMI自動画質モード設定」を選び、**決定** を押す

2 設定するHDMI入力を▲・▼で選び、**決定** を押す



3 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す

- コンテンツ連動オン…入力映像に「映画」などのコンテンツタイプを識別する情報がある場合に、そのタイプに適した画質に自動調整されます。
- 自動ゲームモード…入力映像がRGB信号の場合に、「映像メニュー」が自動的に「ゲーム」になります。
- オフ……………この機能は働きません。

HDMI入力のRGBレンジを設定する

- 本機がRGBレンジを自動識別できない機器を接続している場合は、機器の仕様に合わせて設定します。

1 ▲・▼で「RGBレンジ設定」を選び、**決定** を押す

2 設定するHDMI入力を▲・▼で選び、**決定** を押す



3 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す

- オート……………自動切替になります。
- フルレンジ……………RGBレンジが0～255の機器の場合に選びます。
- リミテッドレンジ……………RGBレンジが16～235の機器の場合に選びます。

ビデオ入力の音声入力を設定する

- HDMI入力1に接続した機器からの音声を本機から出したときに、ビデオ入力の音声入力端子をHDMI入力1のアナログ音声入力端子として使用するよう設定できます。

1 ▲・▼で「ビデオ音声入力設定」を選び、**決定** を押す

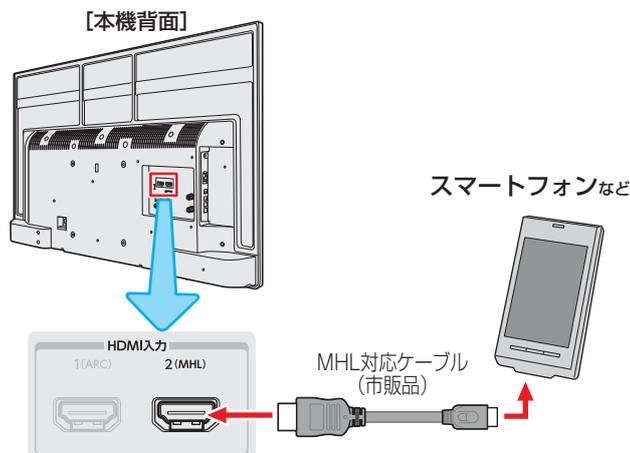
2 ▲・▼で以下の設定から選び、**決定** を押す



- ビデオ音声……………ビデオ入力の音声入力端子として使用します。(お買い上げ時の設定)
- HDMI1アナログ音声……………HDMI入力1のアナログ音声入力端子として使用します。

MHL対応機器を操作する

- MHL対応機器(スマートフォンなど)を、MHL対応ケーブル(市販品)でHDMI2端子に接続すると、MHL対応機器からの映像・音声を本機で再生、本機のリモコンでの操作やMHL対応機器(スマートフォンなど)への充電ができます。(機種や状態によっては充電できない場合があります)



MHL連動機器の設定をする

- MHL対応機器(スマートフォンなど)を、HDMI2端子に接続して使用する場合は設定をします。

1 **[設定]** を押し、**▲・▼** と **(決定)** で「**接続機器設定**」⇒「**MHL連動機器→テレビ入力切換**」の順に進む

2 **▲・▼** で「**連動する**」を選び、**(決定)** を押す

- 「連動する」を選ぶと、自動入力切換対応のMHL対応機器(スマートフォンなど)をテレビに接続すると、自動で入力をHDMI2に切り換えます。

MHL連動機器を操作する

- 「MHL連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定していない場合は、入力をHDMI2にします。
- MHL連動機器(スマートフォンなど)の画面がテレビに表示されたら、本機リモコンの**▲・▼・◀・▶** や **(決定)** を使ってMHL連動機器(スマートフォンなど)の操作ができます。(操作は、MHL連動機器(スマートフォンなど)や使用するアプリによって異なります)
※ MHL連動機器(スマートフォンなど)の操作は、MHL連動機器(スマートフォンなど)の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- HDMI2端子がMHLに対応しています。他の端子に接続しても動作しません。
- 本機は、MHL1をサポートしています。
- MHL対応機器(スマートフォンなど)を操作中に不具合が発生した場合は、MHL対応ケーブルを抜き差しします。対応ケーブルを抜き差ししても解決しない場合は、MHL対応機器(スマートフォンなど)の取扱説明書をご覧ください。
- テレビの電源コードがコンセントから抜けているときは、充電できません。
- すべてのMHL対応機器との接続動作を保証するものではありません。

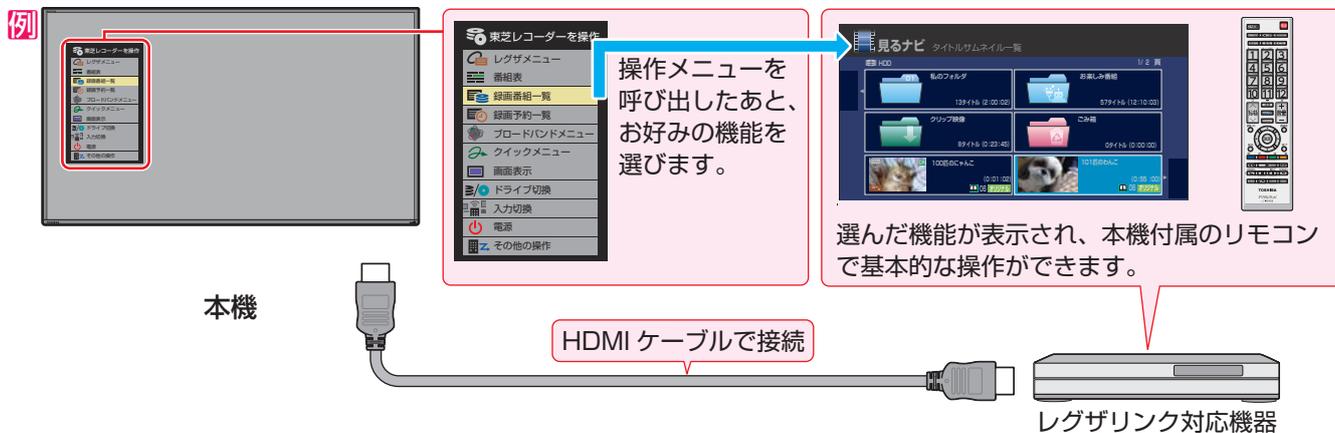
レグザリンクについて

レグザリンク機能でできること

- 本機は以下のレグザリンク機能(HDMI連動)に対応しています。

本機のリモコンで対応機器の操作をする

- 本機に接続したレグザリンク対応の録画機器や再生機器などの操作が本機のリモコンでできます。 **80**



電源の「入/切」や入力切換えの動作を連動させる

- ワンタッチプレイ …… レグザリンク対応機器を操作すると、機器に連動して本機の電源が入り、操作した機器に合わせて入力が切り換わります。
- システムスタンバイ …… 本機の電源を「切」にすると、接続機器も連動して電源が「切」(待機)になります。

対応機器に録画・予約をする

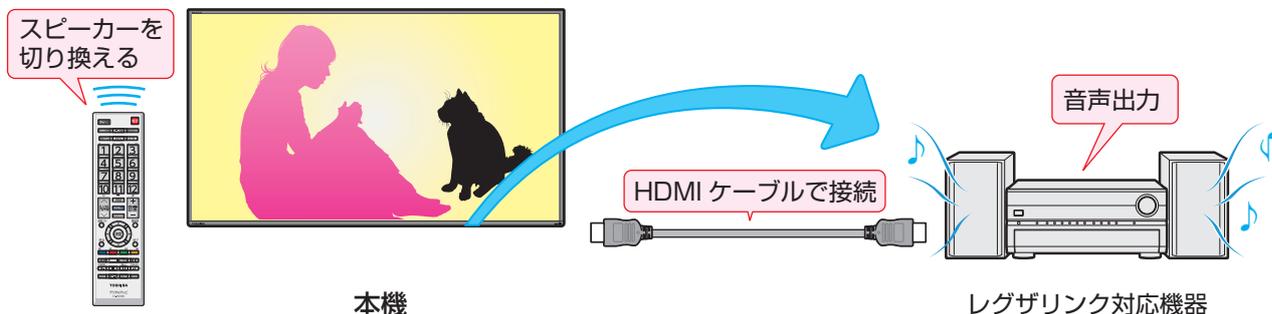
- 本機に接続したレグザリンク対応機器に録画や予約をすることができます。 **56**



オーディオ機器と連携させる

- オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。また、ジャンルに適した音声をオーディオ機器のスピーカーから出るようにすることもできます。 **83**

例 音声を対応機器のスピーカーで聴く



接続機器の映像・音声を楽しむ

レグザリンクについて つづき

準備をする

機器	接続・設定	機器についてのお知らせ
レグザリンク対応の東芝レコーダー	レコーダーの接続：  オーディオの接続：  本機の設定： 	<ul style="list-style-type: none"> ● レグザリンク(HDMI連動)機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。 ● レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)をご覧ください。

HDMI連動機能について

- 本機のレグザリンク(HDMI連動)機能では、HDMIで規格化されているHDMI CEC (Consumer Electronics Control)を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。
 - 本機とレグザリンク対応の東芝レコーダーなど東芝推奨の機器をHDMIケーブルで接続することで利用できます。
 - ・「録画・予約をする」の章に記載されているレグザリンク対応の東芝レコーダーへの録画・予約の操作も、HDMI連動機能を利用したものです。
 - 接続確認済機器以外の機器をHDMIケーブルで接続した場合に一部の連動操作ができることがありますが、その動作については保証の対象ではありません。
 - 接続確認済機器であっても、機器によっては一部の連動操作ができない場合があります。
 - HDMI連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。
 - ・ 接続機器の電源をすべて「入」の状態にして、本機の電源を入れ直してください。
 - ・ すべての接続機器の動作を確認してください。
- ※ 機器に割り振られる番号は、接続形態によって変化する場合があります。

オーディオ機器について

- オーディオ機器の入力状態によっては、本機から音声がでない場合があります。
- オーディオ機器の連動操作中にオーディオ機器側の入力を切り換えると、実際の映像と画面右上の接続機器表示が一致しない場合があります。

オンキヨー製オーディオ機器でHDMI連動機能を利用する場合のお願い

対象機種：オンキヨー製 TX-SA605(N)、TX-SA605(S)、TX-SA705(N)、TX-SA805(N)、TX-NA905(N)、DTX-5.8、DTX-7.8、DTX-8.8、DTC-9.8

- オーディオ機器の電源プラグをコンセントに差し込む前に、本機の電源を「入」にしてください。この順番が逆になると、HDMI連動機能を使用したときにオーディオ機器が正しく動作しないことがあります。その場合は本機の電源を入れた状態で、オーディオ機器の電源を入れ直してください。
 - ※ 停電のあとやブレーカーの操作などで本機とオーディオ機器の電源が同時に入った場合にも、上記の操作が必要になることがあります。



- レグザリンク対応機器について、最新情報はホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) でお知らせしています。
 - ※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。本機のリモコンで操作できないときは、接続機器のリモコンで操作してください。
- システムスタンバイについて
 - 省エネ設定の機能などで本機が待機状態になったときも同時に機器側の電源が「待機」になります。
 - 接続機器側がシステムスタンバイに対応している場合、接続機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」にすることができます。

本機のリモコンでHDMI連動機器を操作するための設定をする

- 本機のリモコンでHDMI連動機器の基本操作をしたり、各種の連動動作をさせたりするための設定をします。
- お買い上げ時、本機はHDMI連動機能を使用するように設定されています。接続機器側の設定も必要です。ご確認ください。

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「接続機器設定」⇒「HDMI連動設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選び、[決定] を押す

HDMI 連動機能	使用する
リモコン動作モード	テレビ優先
連動機器→テレビ入力切換	連動する
連動機器→テレビ電源	連動する
テレビ→連動機器電源オフ	連動する
AVシステム連動	使用する
AVシステム音声連動	使用する
優先スピーカー	テレビスピーカー
機器操作メニュー自動表示	使用しない

HDMI 連動設定

3 希望の設定を▲・▼で選び、[決定] を押す

- 以降の説明を参照して設定してください。

HDMI連動機能

- 本機のリモコンでのHDMI連動機器操作、東芝レコーダーの録画・予約、および以下の各種連動機能を使用するかどうかを設定します。

リモコン動作モード

- リモコン動作モードに対応した東芝レコーダーを接続している場合、「連動機器優先」に設定すると、本機のリモコンでレコーダーを操作できる機能が増えます。

連動機器→テレビ入力切換

- 連動機器の再生操作をしたときに、本機が自動的に入力切換をして、その機器を選択する機能です。本機の電源が「入」の場合に動作します。

連動機器→テレビ電源

- 連動機器の再生操作をしたときに本機の電源が「入」になり、連動機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」になる機能です。
- ※ この機能と、「連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定しておくと、本機の電源が「入」になったあとに自動的に入力が切り換わります。

テレビ→連動機器電源オフ

- 本機の電源を「待機」にしたときに、連動機器の電源も「待機」になる機能です。(録画中の機器など、動作状態によっては「待機」にならない場合があります)
- ※ 本機の「省エネ設定」([46] 頁)や「アートアラーム」([48] 頁)とも連動します。

AVシステム連動

- 「使用する」に設定すると、レグザリンク対応のオーディオ機器とそのスピーカーを接続している場合、本機のリモコンで以下のことができます。
 - 音声をテレビから出すか、オーディオ機器のスピーカーから出すかの切換
 - オーディオ機器の音量調節や消音

AVシステム音声連動

- レグザリンク対応のオーディオ機器との音声連携機能を使うかどうかを設定します。
- オーディオ機器が本機と音声連携可能な機種であり、かつオーディオ機器から音声が出力されている状態になっているときに設定できます。

優先スピーカー

- 「AVシステム連動」を「使用する」に設定した場合に、優先するスピーカーを選択します。
 - **テレビスピーカー**
本機のスピーカーから音声が出力されます。
 - **AVシステムスピーカー**
オーディオ機器の電源が「入」のときは、オーディオ機器のスピーカーから音声が出力されます。
- サブメニューでスピーカーを切り換えることもできます。([83] 頁)
- ※ 本機のヘッドホーン端子は、本機のスピーカーから音声が出力される条件のときに使用できます。

機器操作メニュー自動表示

- 「使用する」に設定すると、本機に接続したレグザリンク対応機器に入力を切り換えたときに、機器操作メニューを自動的に表示します。



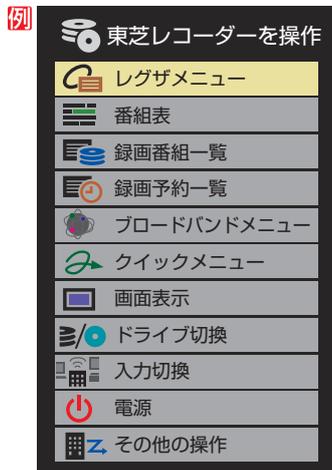
- 本機が認識できるレグザリンク対応機器の台数は、オーディオ機器：1台、東芝レコーダー：3台までです。
- 「AVシステム音声連動」の対応機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

本機のリモコンで対応機器を操作する

機器を操作する

- [入力切換] の操作でレグザリンク (HDMI 連動) 対応機器が接続された入力 (HDMI 1 または HDMI 2) を選んだあと、「サブメニュー」の「機器操作」を選べると、操作メニューが表示されます。

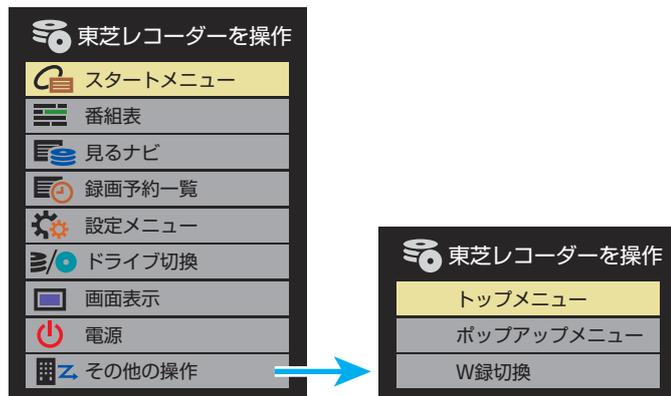
- 1 [サブメニュー] を押し、▲・▼ で「機器操作」を選び、(決定) を押す



- 本機のリモコンで、レグザリンク対応のレコーダーやプレーヤーなどの基本操作をすることができます。
- 本機のリモコンでできる操作については、[82頁] をご覧ください。
- 機器を操作すると機器操作メニューが消えます。(機器操作メニューを再表示させるには、手順①の操作をします)
- 以降は一例です。ほかのHDMI連動機器でも、本機のリモコンで操作できる場合があります。

東芝レコーダー

- 機器によって表示される操作メニューの内容や、操作できる内容が異なります。
- 「その他の操作」を選べるとその他の操作項目が表示されます。



レグザメニュー (スタートメニュー)

- 東芝レコーダーのレグザメニューが表示されます。(スタートメニューがある東芝レコーダーの場合は、スタートメニューが表示されます)

番組表

- 東芝レコーダーの番組表が表示されます。

録画番組一覧(見るナビ)

- 東芝レコーダーの録画番組一覧が表示されます。([見るナビ] または [見ながら選択] がある東芝レコーダーの場合は、[見るナビ] または [見ながら選択] 画面が表示されます)

録画予約一覧

- 東芝レコーダーの「録画予約一覧」画面が表示されます。

ブロードバンドメニュー

- 東芝レコーダーのブロードバンドメニューが表示されます。

クイックメニュー

- 東芝レコーダーのクイックメニューが表示されます。

画面表示

- 状態表示の表示/非表示を切り換えます。

ドライブ切換

- ハードディスクとブルーレイ (または DVD) を切り換えます。

入力切換

- 東芝レコーダーの入力を切り換えます。

電源

- (決定) で電源の「入」、「待機」ができます。

その他の操作項目について

トップメニュー

- ディスク再生時に選ぶとディスクのトップメニューが表示されます。

ポップアップメニュー

- ディスク再生時に選ぶとディスクのポップアップメニューが表示されます。

W録切換

- W録選択を切り換えます。

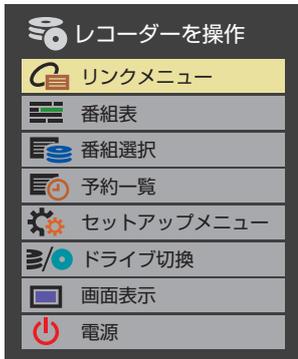
タイムシフトマシン機能搭載機器の過去番組表を表示する

- タイムシフトマシン対応機器の過去番組表を、本機のリモコンを使って表示させることができます。
 - タイムシフトマシン対応東芝レコーダーについては、ホームページ (<http://www.toshiba.co.jp/regza/>) をご覧ください。

- 1 [サブメニュー] を押し、▲・▼ で「タイムシフトマシン」を選び、(決定) を押す
 - 機器の過去番組表が表示されます。
- 2 ▲・▼・◀・▶ で再生したい番組を選び、(決定) を押す
 - 「番組指定再生」画面が表示されます。
- 3 ◀・▶ で「見る」を選び、(決定) を押す
 - 選択した番組の再生 (タイムシフトマシン再生) が始まります。
- 4 タイムシフトマシン再生を終了するには、(終了) を押す
 - ほかの操作によってもタイムシフトマシン再生が終了する場合があります。
 - 番組を選び直すには、上記手順①～④をします。

HDMI-CEC対応の機器

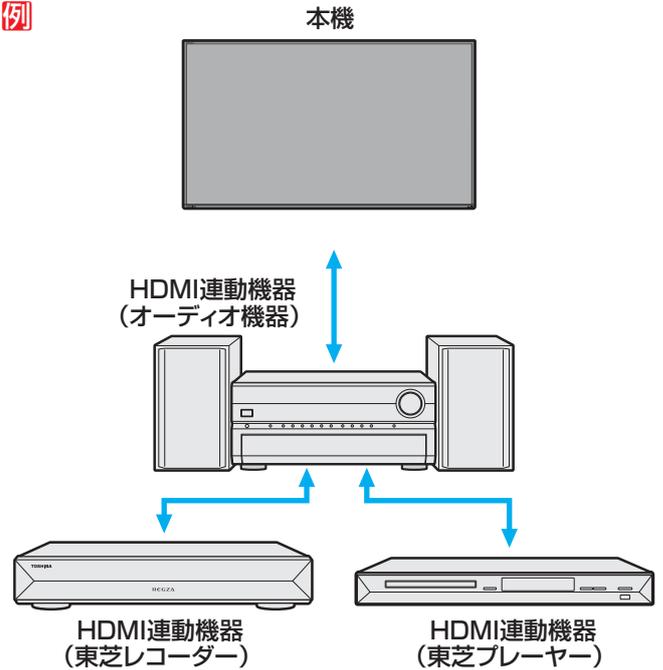
- HDMI CEC対応の機器を操作します。
- ※ すべての製品でメニューに表示されたすべての機能の操作ができることを保証するものではありません。



HDMI連動機器に接続された機器

- HDMI連動対応のオーディオ機器などにHDMI連動機器が接続されている場合は、以下のようになります。

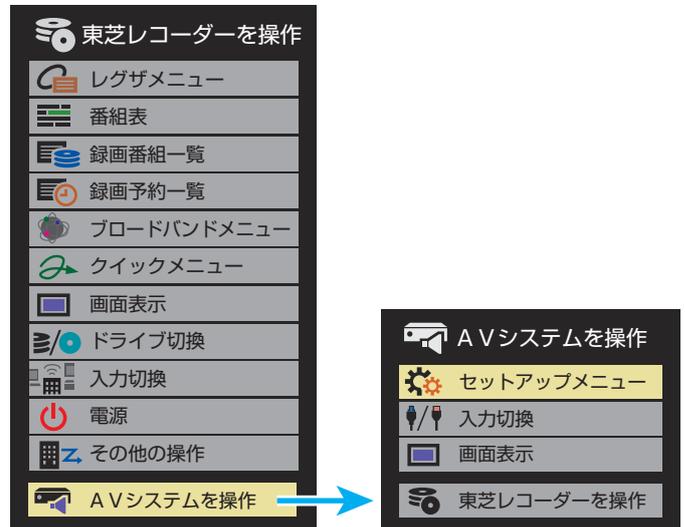
例



接続機器の映像・音声を楽しむ

東芝レコーダーなどを選択したとき

- 「AVシステムを操作」を選ぶと、オーディオ機器の機器操作メニューが表示されます。



お知らせ

- レグザリンク対応の東芝レコーダーについては、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。
- レグザリンク対応のオーディオ機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

本機のリモコンで対応機器を操作する つづき

本機のリモコンでできるおもな操作

- HDMI連動機器を接続した場合、本機のリモコンで以下の操作をすることができます。
- ※ 以下は代表的な動作です。操作する機器によっては、動作が異なる場合があります。



本機のリモコンボタン	動作の内容
	番組を再生します。
	再生中に押すと一時停止になります。もう一度押すと、一時停止が解除されます。
	録画や再生を停止します。
	再生中に押すと早送り再生になります。
	再生中に押すと早戻し再生になります。
	再生中に押すと少し先に進んで再生します。
	再生中に押すと少し戻って再生します。
	メニューなどで項目を選択します。
	選択した内容を決定したり、選択した操作を実行したりします。
	一つ前の操作に戻ります。
	操作を終了します。
	各機器でカラーボタンに割り当てられた機能进行操作します。
	オーディオ機器の音量を調節します。
	オーディオ機器の音を消します。

オーディオ機器で聴く

オーディオ機器のスピーカーで聴く

- オーディオ機器に接続されているスピーカーで聴いたり、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節したりすることができます。
- 本機とオーディオ機器をHDMIケーブルおよび光デジタル音声ケーブルで接続します。(74頁)
- 光デジタルケーブルの代わりに音声用コードで接続することもできます。その場合は、「ヘッドホーン／音声出力設定」(100頁)を「固定出力モード」に設定します。
- HDMI連動(レグザリンク)に非対応のオーディオ機器の場合、本機のスピーカーから音声を出不さいときは、以下の操作をするか、または本機の音量を最小に調節してください。

1 サブメニューを押し、▲・▼と(決定)で「その他の操作」⇒「スピーカー切替」を選び、(決定)を押す

2 ▲・▼で「AVシステムのスピーカーで聴く」または「外部スピーカーで聴く」を選び、(決定)を押す

- 以下の場合に「AVシステムスピーカーで聴く」が表示されます。
 - 本機と音声連携が可能なオーディオ機器(AVアンプなどとそのスピーカー)がHDMIケーブルで接続されていて、動作状態になっている。(スピーカーから音声が出力されている)
 - 「HDMI連動設定」(79頁)が以下のように設定されている。
 - HDMI連動機能……………使用する
 - AVシステム連動……………使用する
 - AVシステム音声連動……………使用する
- 本機のスピーカーで聴くときは、「テレビのスピーカーで聴く」を選びます。

スピーカーを切り換える

テレビのスピーカーで聴く

AVシステムのスピーカーで聴く

3 音量を調節する

- レグザリンク対応のオーディオ機器では、本機のリモコンで音量調節と消音の操作ができます。
- ※ レグザリンク非対応のオーディオ機器を音声用コードで接続している場合は、「ヘッドホーン／音声出力設定」(100頁)に従った方法で音量を調節してください。
 - 固定出力モード……………オーディオ機器で音量を調節します。
 - 可変出力モード……………本機のリモコンで音量を調節します。

オーディオ機器の音声を設定する

- AVシステム音声連動対応のオーディオ機器が接続されている場合、オーディオ機器のサラウンドメニューからお好みの音声を選択したり、ユニボリュームの機能を使用したりすることができます。(オーディオ機器によっては、サラウンドメニューまたはユニボリュームのどちらか一方しか使用できない場合があります)
- 以下の条件①と②の両方が満たされるときにこの操作ができます。
 - ① 本機と音声連携が可能なオーディオ機器(AVアンプなどとそのスピーカー)がHDMIケーブルで接続されていて、動作状態になっている。(スピーカーから音声が出力されている)
 - ② 「HDMI連動設定」(79頁)が以下のように設定されている。
 - HDMI連動機能……………使用する
 - AVシステム連動……………使用する
 - AVシステム音声連動……………使用する

1 サブメニューを押し、▲・▼で「AVシステム音声設定」を選んで(決定)を押す

2 ▲・▼で「サラウンドメニュー」または「ユニボリューム」を選び、(決定)を押す

3 お好みに設定する

- 以下の説明を参考にしてください。

サラウンドメニュー

- AVシステム機器のサラウンドモードを設定します。サラウンドメニューから、視聴中の番組に適した音声を選ぶことができます。
- ※ 画面に表示されるサラウンドメニューは目安です。AVシステム機器側のサラウンドメニューの内容と一致しない場合があります。
- ※ 「おまかせ」に設定すると、番組が変わるたびに本機が取得した番組ジャンル情報がAVシステム機器に送られ、AVシステム機器のスピーカーからジャンルに適した音声が出力されます。

ユニボリューム

- 「オン」に設定すると、番組とコマーシャルの音量差、チャンネル間の音量差、外部入力間の音量差が少なくなるように補正され、テレビの音が聞きやすくなります。
- ※ クラシック音楽などの番組では、音量差を小さくすると音の強弱表現が損なわれます。そのような番組を視聴する場合や、映画などでシーンによって変わる音量差の迫力を味わいたい場合などは、この機能を「オフ」にしてください。



- 音量表示が「AVシステム音量」に変わっているとき、本機のスピーカーおよび「通常モード」(100頁)選択時のヘッドホーン端子から音は出ません。
- レグザリンク対応のオーディオ機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。
- AVシステム音声連動対応のオーディオ機器については、ホームページ (www.toshiba.co.jp/regza/) をご覧ください。

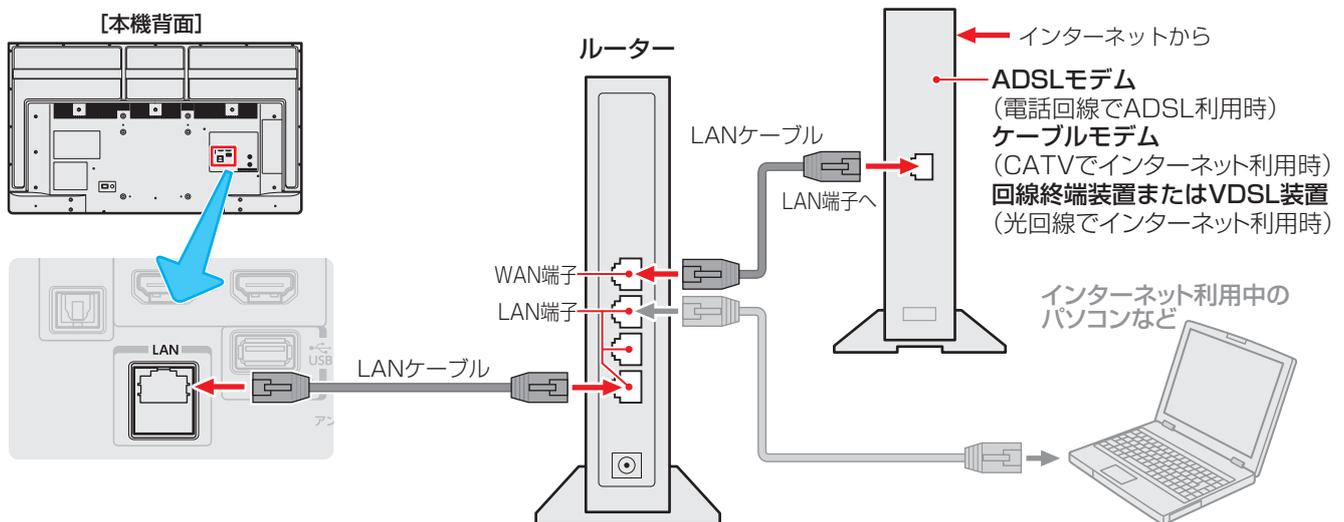
インターネットを利用するための接続をする

本機をインターネットに接続したときにできること

できること	内容	記載ページ
ネットワークサービス	● クラウドサービスなどのネットワークサービスを楽しむことができます。	88頁
データ放送の 双方向サービス	● データ放送の双方向サービスを利用して、クイズ番組に参加したり、ショッピング番組で買物をしたりすることができます。 ※ 本機は電話回線を利用した双方向サービスには対応していません。	41頁
ソフトウェアの更新	● 東芝サーバーから本機の最新ソフトウェアをダウンロードすることができます。	124頁

接続のしかた

- はじめてインターネットを利用する場合は、通信事業者やプロバイダー(インターネット接続業者)との契約が必要です。通信事業者または取扱いの電気店などにご相談ください。
- 接続方法でご不明な点は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にお問い合わせください。
- 接続が終わったら、必要に応じて次ページの「ネットワーク設定」をしてください。
- すでにパソコンでインターネットを利用している場合は、本機のLAN端子とルーターのLAN端子を市販のLANケーブルで接続するだけです。「ネットワーク設定」は必要ありません。
- モデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。



ご注意

- LANケーブルを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

お願い

- LANケーブルは、カテゴリ5 (CAT5) と表示された規格以上のものをご使用ください。テレビ・ビデオサービスや動画サービスなどを利用する場合、カテゴリ3と表示されたケーブルでは、正しく視聴できないことがあります。
- 本機のLAN端子は、必ず電気通信端末機器の技術基準認定品ルーターなどに接続してください。
- 通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、ご自身でお支払いください。
- 以下の場合やご不明な点は、ご契約の回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーなどにお問い合わせください。
 - ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
 - 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
 - プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
 - 回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
 - モデムについてのご不明な点など。

お知らせ

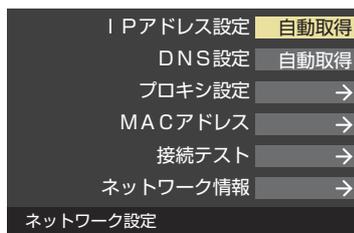
- 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
- 本機はダイヤルアップ通信やISDN回線などでインターネットを利用することはできません。
- この取扱説明書で図示していない機器が接続されている場合は、正常に通信できないことがあります。
- ルーターなどが正しく設定されていない回線に本機のLAN端子を接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。

インターネットを利用するための設定をする

- お買い上げ時の設定でインターネットが利用できない場合やネットワークの設定をし直す場合などに、必要に応じて設定します。
- ネットワーク設定の変更をブラウザ(89頁)に反映するためには、本機の電源を入れ直してください。

1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「初期設定」⇒「ネットワーク設定」の順に進む

2 設定する項目を▲・▼で選び、**決定** を押す

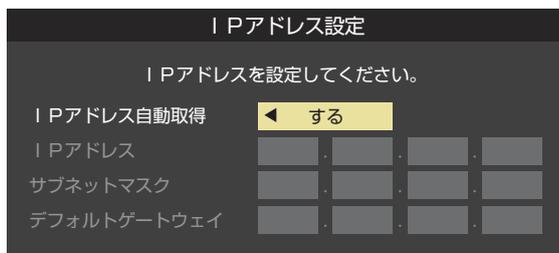


3 以降の手順で設定する

IPアドレス設定

- インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。
- ※ 「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

1 IPアドレスを自動取得できる場合は、◀▶で「する」を選ぶ



自動取得できないネットワーク環境の場合

- 1 ◀▶で「しない」を選ぶ
 - 2 ▲・▼で「IPアドレス」を選び、**1**～**10**₍₀₎で入力する
 - 3 ▲・▼で「サブネットマスク」を選び、**1**～**10**₍₀₎で入力する
 - 4 ▲・▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、**1**～**10**₍₀₎で入力する
 - ②～④では0～255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。
 - 欄を移動するには、▶を押します。
- 2 **決定** を押す

DNS設定

- ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。
- ※ 「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。その場合は、DNSアドレスを手動で設定します。

1 DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀▶で「する」を選ぶ

自動取得できないネットワーク環境の場合

- 1 ◀▶で「しない」を選ぶ
- 2 ▲・▼で「DNSアドレス(プライマリ)」を選び、**1**～**10**₍₀₎で入力する
- 3 ▲・▼で「DNSアドレス(セカンダリ)」を選び、**1**～**10**₍₀₎で入力する
 - ②と③では0～255の範囲の数字(左端の欄は0以外)を4箇所の欄に入力します。
 - 欄を移動するには、▶を押します。

2 **決定** を押す

プロキシ設定

- インターネットとの接続時にプロキシ(代理)サーバーを経由する場合に設定します。
- ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定します。
- ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。

1 ▲・▼で「使用する」を選び、**決定** を押す

2 ▲・▼で「サーバー名」を選び、**決定** を押す

- 3 サーバー名を入力する
- 文字入力方法については、83頁をご覧ください。
 - 入力できる文字は半角英字/半角数字で、記号は半角の!"#\$%&()*+,-.:;<=>@[¥]^\`?_ / です。

4 ▲・▼で「ポート番号」を選び、**1**～**10**₍₀₎でポート番号を入力する

5 ▲・▼で「設定完了」を選び、**決定** を押す

MACアドレス

- ネットワーク上に接続されている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。
- MACアドレスの確認が終わったら、**終了** を押してメニューを消します。

接続テスト

- 「ネットワーク設定」が正しいかテストします。テストが終わると「接続テスト結果」画面が表示されます。「インターネットに接続できました。」と表示された場合は、「終了」を選んで**決定** を押します。
- 正しく接続できなかった場合は、「再テスト」を選んで**決定** を押します。再度接続テストを行い、接続テスト結果画面が表示されます。再テストを行っても接続できない場合は、「ネットワーク設定」を選んで**決定** を押し、設定をやり直してください。

インターネットを利用するための設定をする つづき

ネットワーク情報

- 現在利用しているネットワーク情報が表示されます。

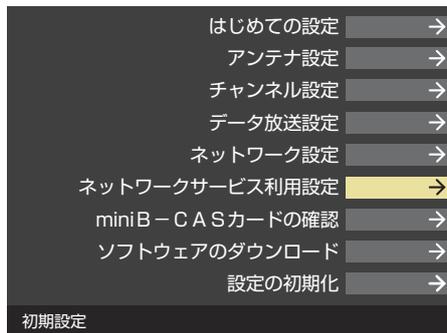
例

ネットワーク情報	
接続タイプ	有線
IPアドレス設定	自動取得
IPアドレス	---:---:---:---
サブネットマスク	---:---:---:---
デフォルトゲートウェイ	---:---:---:---
DNS設定	自動取得
DNSアドレス (プライマリ)	XXX.XXX.XXX.XXX
DNSアドレス (セカンダリ)	XXX.XXX.XXX.XXX
プロキシ設定	使用しない
サーバ名	
ポート番号	
有線MACアドレス	---:---:---:---:---

ネットワークサービスを利用するための設定をする

- インターネットに接続して、クラウドサービス(88)などのネットワークサービスを利用するには、「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定します。
- ※「クラウドサービス」の使用には、ソフトウェアの更新が必要な場合があります。

1 「設定」を押し、▲▼と決定で「初期設定」⇒「ネットワークサービス利用設定」の順に進む



2 内容を最後まで読む

例

はじめての設定 ネットワークサービス利用設定

本機をネットワークに接続すると、進化するレガクラウドサービス「TimeOn」やビデオ・オンデマンドサービスなどの各種ネットワークサービス(本サービス)を利用できます。 「TimeOn」は、再生可能な番組の中から好きなシーンを探して再生できる「おどろきシーン再生」や番組を自動で録画できる「おまかせ録画コミュニティ」など、各種サービスの総称です。

以下を最後まで読んでネットワークサービスを利用するかを選んでください。

「利用する」に設定すると、本機の操作情報(チャンネル切替、録画予約、検索履歴など)やご登録いただいた都道府県、性別などの情報がインターネットサーバーで記録されますが、これらの情報から利用者個人を特定することはありません。

※「TimeOn」は、再生可能な番組の中から好きなシーンを探して再生できる「おどろきシーン再生」や番組を自動で録画できる「おまかせ録画コミュニティ」など、各種サービスの総称です。

本サービスの詳しい内容については、クラウドメニューの「クラウド操作ガイド」でご確認ください。

<本サービスについて>

- ・本サービスのご利用には、住所・氏名・連絡先等の個人情報の入力が必要です。
- ・サーバーが収集した情報は、本サービスの提供以外に、統計情報としてマーケティングなどの目的で利用することがあり、この目的の範囲内で第三者に提供される場合があります。
- ・本設定は、初期設定から変更できます。
- ・「利用しない」に設定を変更した場合、それまでにサーバーが収集した本機に関する情報はサーバーから消去されます。
- ・本サービスは、予告なく休止、終了、または内容を変更する場合があります。
- ・本サービス中において、本サービス以外のソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)などのサービスをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、本サービス以外の第三者により提供されるサービスおよびこれに関連する事項について、一切の責任を負いません。

利用しない 利用する 設定完了

3 ◀▶で「利用する」または「利用しない」を選び、決定を押す

4 ◀▶で「設定完了」を選び、決定を押す



■ ネットワークサービス利用設定について

- ネットワークサービス利用設定を「利用する」に設定すると、本機の操作情報(チャンネル切替、録画予約、検索履歴など)やご登録いただいた都道府県、性別などの情報がインターネットサーバーで記録されますが、これらの情報から利用者個人を特定することはありません。
- クラウドサービスの詳しい内容については、クラウドメニューの「クラウド操作ガイド」から確認できます。
- クラウドサービスなどのネットワークサービス(以下「本サービス」と表します)のご利用には、住所・氏名・連絡先等の個人情報への入力が必要です。
- サーバーが収集した情報は、本サービスの提供以外に、統計情報としてマーケティングなどの目的で利用することがあり、この目的の範囲内で第三者に提供される場合があります。
- 本サービスは、予告なく休止、終了、または内容を変更する場合があります。
- 本サービス中において、本サービス以外のソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)などのサービスをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、本サービス以外の第三者により提供されるサービスおよびこれに関連する事項について、一切の責任を負いません。
- ネットワークサービス利用設定を「利用しない」に設定を変更した場合、それまでにサーバーが収集した本機に関する情報は、サーバーから消去されます。

お知らせ・用語

お知らせ

■ IPアドレス設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能(IPアドレスを自動的に割り当てる機能)がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定します。
- 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスが重複しないように設定します。設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
- 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスのネットワークID部分がそれぞれ同じであることを確認します。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

■ DNS設定について

- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定します。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定します。(プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください)

お知らせ

■ ネットワーク設定の接続テスト結果について

- 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認します。
 - (1) LAN端子の接続状態と「ネットワーク設定」を確認する
 - 正しく接続・設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。(ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください)
 - (2) ネットワーク環境の接続確認
 - 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。
 - ① パソコンのインターネット・ブラウザ(Internet Explorerなど)を起動する
 - ② URL欄に「www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する
 - ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコンやルーターの設定が正しいか確認します(詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください)。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

■ PPPoE設定について

- 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)

用語

■ IPアドレス

インターネットに接続する場合に、端末に割り当てられる固有の番号です。形式は、最大3ケタの数字4組を点で区切った形になっています。(例: 111.112.xxx.xxx)

■ DNSサーバー

ドメイン名(www.co.jpなど)をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、本機では自動的に取得されます。自動で取得できない場合は、手動で、プロバイダーからの資料で指定されたDNSアドレスを「プライマリ」に入力します。二つある場合は、もう一方を「セカンダリ」に入力します(例: 111.112.xxx.xxx)。ご契約のプロバイダーによっては、「ネームサーバー」、「DNS1/DNS2サーバー」、「ドメインサーバー」などと呼ばれることがあります。

■ サブネットマスク

ネットワークを区切るために、端末に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するためのものです。(例: 255.255.xxx.xxx)

■ デフォルトゲートウェイ

ネットワーク外のサーバーにアクセスする際に、使用するルーターなどの機器を指定するためのものです。IPアドレスで特定されています。(例: 111.112.xxx.xxx)

■ プロキシ

ご契約のプロバイダーから指定があるときだけ設定してください。(例: proxy.xxx.xxx.xxx)
この設定をすると、HTTPプロキシサーバーからファイアウォール(外部からの不正侵入防護壁)を越えて通信先のブラウザにデータを高速で送ることができます。

■ MACアドレス

ネットワーク上に接続されている機器の識別のために、各機器ごとに割り当てられる固有の番号です。

クラウドサービスとネットワークサービスについて

- ネットワークサービスとはネットワーク機能を使ったサービスです。
- 本書では、ネットワークサービスの一例として「インターネット」(89頁～95頁)の操作方法を記載しています。
- クラウドサービスはネットワークサービスの一部で、東芝や他社が提供するサービス、および動画再生などテレビ本体の機能へリンクを提供します。クラウドサービスを使って番組情報を友人と交換したり、お好みの動画やショッピングを楽しんだりすることができます。
- ※ サービスは順次追加されます。対応ソフトウェアの更新時期やサービスの概要などについてはホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

クラウドサービスやネットワークサービスに必要な準備

- クラウドサービスやネットワークサービスを楽しむ前に、以下の接続と設定が必要です。

必要な接続・設定	記載ページ
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットを利用するための接続をする。 ● インターネットを利用するための設定をする。 ● 「ネットワークサービス利用設定」を「利用する」に設定する。 ● インターネットの利用制限を設定する。 	<p>84頁 85頁～86頁 86頁 110頁</p>

クラウドサービスの基本操作

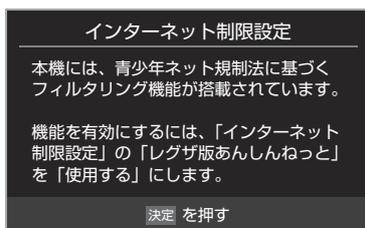
1 クラウドメニューを押す

- クラウドサービスの画面が表示されます。
- クラウドメニューの操作や項目などについては、画面に表示される「クラウド操作ガイド」やホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/>)をご覧ください。

2 ▲・▼・◀・▶でお好みのクラウドサービスを選び、決定を押す

はじめて使用するとき

- 「インターネット制限設定」(110頁)が未設定の場合、一部の機能をはじめて利用する際に、「インターネット制限設定」の説明画面が表示されます。



1 画面の説明を読み、決定を押す

- 説明画面が消えます。

2 暗証番号の入力画面が表示された場合は、1～10(0)で入力する

- 暗証番号の入力画面は、「ブラウザ制限設定」(110頁)を「制限する」に設定している場合に表示されます。

閲覧制限の説明画面が表示されたとき

- 「レグザ版あんしんねっと設定」(110頁)で「閲覧設定」をしている場合、設定した制限レベルを超えるサイトにアクセスすると、閲覧制限の説明画面が表示されます。

1 画面の説明を読み、決定を押す

- 前のページに戻ります。

一時的に閲覧制限を変更するとき

1 サブメニューを押す

2 ▲・▼で「閲覧制限一時変更」を選び、決定を押す

3 1～10(0)暗証番号を入力する

- 「制限するために暗証番号を設定する」(109頁)で設定した暗証番号を入力します。
- 閲覧制限が解除されます。
- 制限が解除された状態は、対象のサービスを終了するまで継続されます。
- 利用中に再び閲覧制限を有効にする場合は、サブメニューを押して「閲覧制限再設定」を選びます。

3 見たい項目を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

4 クラウドサービスを終了するには、終了を押す

- 確認のメッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、決定を押します。



- クラウドサービスの名称およびサービス内容は、予告なく変更・終了する場合があります。
- クラウドサービスの利用アプリやネットサービスによっては、事前に利用者登録などが必要なサービスがあります。
- ご利用の回線業者やプロバイダーが採用している接続方式・契約約款によっては、サービスを利用できない場合があります。
- クラウドサービスの利用できるアプリやネットサービス提供者が提供するサービスやコンテンツに関して当社は一切の責任を負いません。
- クラウドサービスの内容は録画することはできません。
- クラウドメニューを押してもクラウドサービスの画面が表示されない場合は、終了を2秒以上押してから、クラウドメニューを押します。終了を2秒以上押すと、クラウドサービス終了後再読み込みが行われ、クラウドメニューを押すと再読み込み後の画面が表示されます。

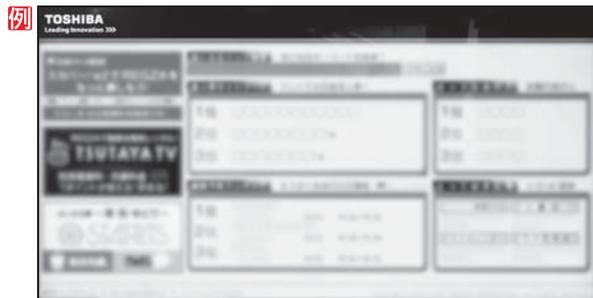
「インターネット」で情報を見る

- 「インターネット」を使って、さまざまな情報を見たり、調べたりすることができます。
- 接続や設定などの準備については、「インターネットに接続する」(84頁～86頁)および、「インターネットの利用を制限する」(110頁)をご覧ください。

基本操作

1 クラウドメニューを押し、▲・▼・◀・▶と(決定)でクラウドメニューの項目から「インターネット」の順に進む

- 「インターネット」のブラウザ画面が表示されます。
- ※ 回線の状態によって時間がかかることがあります。



- ※ 「インターネット制限設定」の説明画面が表示された場合や、暗証番号の入力画面が表示された場合の操作については、88頁の手順2の説明をご覧ください。

2 見たい項目を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押す

- 選んだ項目にオレンジ色の太い枠がつかます。
- 画面上部の検索欄など、キーワードなどを入力して情報を探す項目を選択した場合は、文字入力画面が表示されます。(文字入力のしかたは43頁をご覧ください)
- ※ 閲覧制限の説明画面が表示された場合の操作については88頁の説明をご覧ください。

3 「インターネット」を終了するには、(終了)を押す

- 確認のメッセージが表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押します。



- 通信中に本体の電源ボタンを押して電源を「切」にしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。お気に入りや履歴、Cookieなどの情報が正しく保存されなかったり、クラウドメニューの更新に失敗する場合があります。クラウドメニューの更新に失敗すると、クラウドメニューが正しく表示されなくなることがあります。その際は、本機を「初期化」(112頁)をすると、正しく表示されるようになります。
- ※ 初期化をすると、設定内容がお買い上げ時の設定状態になり、初期化前の状態に戻すことはできませんので、ご注意ください。



- インターネットを利用中に、LANケーブルを抜いたり、ネットワーク接続環境を変更したりすると、本機やWebコンテンツの操作ができなくなることがあります。その場合は、本体の電源ボタンで電源を「切」にしてから、もう一度電源を「入」にしてください。
- ページが表示されるまでの時間は、接続業者との契約の種類や回線の混み具合などによって大きく異なります。
- インターネット機能使用時の文字入力では改行ができません。(記号一覧末尾に改行記号が追加されます)
- 暗号(SSL/TLS暗号)やセキュリティソフトなどで保護されたサイト(セキュアなサイト)に接続されると、URL表示欄に鍵アイコンが表示されます。

「インターネット」で情報を見る つづき

便利機能を使う

- よく使う機能を便利機能のメニューから操作することができます。

1 ページの表示中に **dデータ** を押す

- 便利機能のメニューが表示されます。
- 見たい情報を新しいウィンドウで開く場合は、見たい情報を選び、**dデータ** を押します。(前ページ右下の説明をご覧ください)

2 ◀▶で機能のアイコンを選び、**決定** を押す

- ※一部のネットサービスを利用しているときは、いくつかの機能は使用できません。使用できない機能は、薄くなって表示されます。



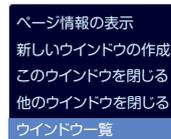
アイコン、機能	内容
「ウィンドウ」	なにも表示していない新規ウィンドウを開いたり、複数開いているウィンドウから見たいウィンドウを選んだり、不要なウィンドウを閉じたりします。
「戻る」	一つ前のページに戻ります。履歴がないときは選択できません。
「進む」	一つ先のページに進みます。履歴がないときは選択できません。
「再読み込み」	🔄 表示しているページの情報が更新されます。
「中止」	✕ 読込中に読み込みを中止します。(読込中のときは✕が表示され、それ以外のときは🔄が表示されます)
「ホーム」	ホームに設定されているページに戻ります。設定のしかたは「ホームページに設定する」 93 をご覧ください。
「お気に入り」	よく見るページを「お気に入り」に登録したり、「お気に入り」の中から見たいページを選んだりすることができます。 91
「履歴表示」	表示履歴の中から、見たいページを選んだり、履歴を削除したりすることができます。 92
「URL / 検索」	見たいページのアドレス(URL)を入力してページを表示させたり、インターネット検索やページ内検索をします。(右の説明)
「ポインター」	ポインターのオン/オフを切り換えます。 93
「設定」	ページ操作や各種設定をするときに使います。

新規ウィンドウを開くには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、**決定** を押す
- ▲▼で「新しいウィンドウの作成」を選び、**決定** を押す
 - ウィンドウは最大五つまで開くことができます。

表示させるウィンドウを選ぶには

- ウィンドウが複数開いているときに、表示させたいウィンドウを選ぶことができます。
- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、**決定** を押す
 - ▲▼で「ウィンドウ一覧」を選び、**決定** を押す



複数ウィンドウを開いているとき、開いているウィンドウ数を表示します。

- ▲▼で表示させたいウィンドウを選び、**決定** を押す

ウィンドウを閉じるには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、**決定** を押す
- ▲▼で「このウィンドウを閉じる」を選び、**決定** を押す
 - ウィンドウが複数開いているときに、表示しているウィンドウ以外を閉じたいときは、「他のウィンドウを閉じる」を選びます。

開いているページの情報を確認するには

- ◀▶で「 ウィンドウ」を選び、**決定** を押す
- ▲▼で「ページ情報の表示」を選び、**決定** を押す
 - 現在見ているページの情報が表示されます。

アドレスを入力してページを見る

- アドレス(URL)がわかっている場合は、それを入力してページを見ることができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「URL/検索」を選び、**決定** を押す

- アドレス入力画面が表示されます。

2 ▲▼・◀▶でアドレス入力欄を選び、**決定** を押す



アドレス入力欄

- 入力履歴がある場合は入力欄下に履歴が表示されます。入力履歴から選ぶ場合は、▲▼で選び、**決定** を押します。

3 見たいページのアドレスを入力する

- 文字入力画面で文字を入力します。文字入力のしかたは「**43**」をご覧ください。文字切替で「定型文」を選ぶと、定型文を簡単に入力することができます。
- 入力できる文字数は、半角英数字と半角記号で254文字までです。
- 文字入力が終わったら「決定」を押して、文字入力画面から手順2のアドレス入力画面に戻ります。
- 新しいウィンドウで開く場合は、「新しいウィンドウで開く」を選び、「決定」を押して、をにします。「決定」を押すたびに、とが交互に切り換わります。

4 ▲・▼・◀・▶で「OK」を選び、「決定」を押す

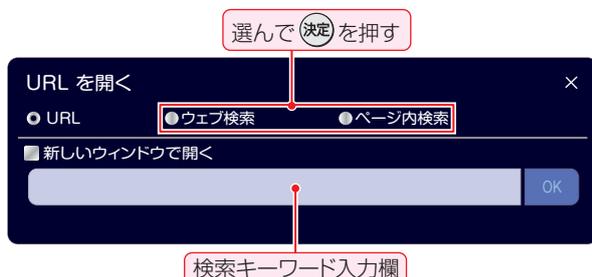
情報を検索する

- 検索サービスを使った検索ができます。

1 便利機能のメニューから、◀・▶で「URL/検索」を選び、「決定」を押す

- アドレス入力画面が表示されます。

2 ▲・▼・◀・▶で「ウェブ検索」または「ページ内検索」を選び、「決定」を押す



3 ▲・▼・◀・▶で入力欄を選び、「決定」を押す

4 検索キーワードを入力し、「決定」を押す

- 文字入力画面で検索キーワードを入力します。文字入力のしかたは「**43**」をご覧ください。
- 入力できる文字は、半角英数字・半角記号で254文字までです。

5 ▲・▼・◀・▶で「OK」を選び、「決定」を押す

「お気に入り」に登録する

- お買い上げ時に登録されているものを含めて50個までのページを「お気に入り」に登録できます。

1 登録したいページを開く

2 便利機能のメニューから、◀・▶で「♡お気に入り」を選ぶ

3 ▲・▼で「お気に入りに登録」を選び、「決定」を押す



- 「お気に入り」一覧に追加されます。

「お気に入り」からページを見る

1 便利機能のメニューから、◀・▶で「♡お気に入り」を選ぶ

2 ▲・▼で「お気に入り一覧」を選び、「決定」を押す



3 見たいページを▲・▼で選び、「決定」を押す



- 見たいページを新しいウィンドウで開く場合は、先に「新しいウィンドウで開く」を選んで「決定」を押して、をにします。「決定」を押すたびに、とが交互に切り換わります。

「インターネット」で情報を見る つづき

登録した「お気に入り」を削除する

- お気に入りに登録したアドレスを整理することができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「♡お気に入り」を選ぶ

- 「お気に入り」一覧が表示されます。

2 ▲▼◀▶で「編集」を選び、(決定)を押す



3 ▲▼で削除したいお気に入りをを選び、(決定)を押す



- (決定)を押して、☑を☑にします。(決定)を押すたびに、☑と☑が交互に切り換わります。
- すべて削除するときは「すべて選択」を選び、(決定)を押します。

4 ▲▼◀▶で「削除」を選び、(決定)を押す

- 選択したお気に入りが一覧から削除されます。

5 ▲▼◀▶で「完了」を選び、(決定)を押す

- 画面右上の「×」を選び、(決定)を押すと、ブラウザ画面に戻ります。

閲覧履歴から選んでページを見る

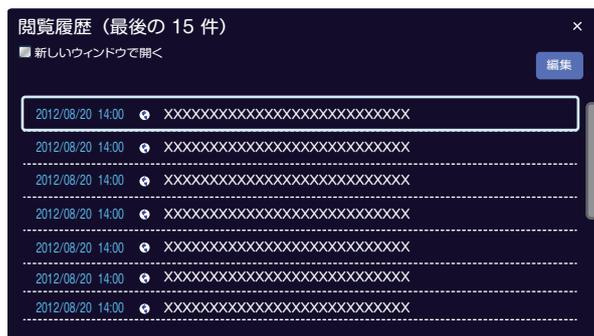
- 今までに見たページの履歴から選ぶことができます。
- 履歴は15件前まで記録されています。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「履歴表示」を選び、(決定)を押す



- 「閲覧履歴」の一覧が表示されます。

2 見たいページを▲▼で選び、(決定)を押す



閲覧履歴を削除する

- 閲覧履歴を削除することができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「履歴表示」を選び、(決定)を押す

2 ▲▼◀▶で「編集」を選び、(決定)を押す

3 ▲▼で削除したい閲覧履歴を選び、(決定)を押す

- (決定)を押して、☑を☑にします。(決定)を押すたびに、☑と☑が交互に切り換わります。
- すべて削除するときは「すべて選択」を選び、(決定)を押します。

4 ▲▼◀▶で「削除」を選び、(決定)を押す

- 選択した閲覧履歴が一覧から削除されます。

5 ▲▼◀▶で「完了」を選び、(決定)を押す

- 画面右上の「×」を選び、(決定)を押すと、ブラウザ画面に戻ります。

ポインターを切り換える

- 画面を操作するときのツールを「ポインター」に変更することができます。

1 便利機能のメニューから、◀▶で「ポインター」を選び、決定を押す



決定を押すたびに切り換わります



- 決定を押すたびに、「ON」と「OFF」が交互に切り換わります。

ブラウザの設定をする

1 便利機能のメニューから、◀▶で「設定」を選び、決定を押す

2 ▲▼◀▶で設定項目を選び、決定を押す

カテゴリ	設定項目
基本設定	<p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在表示されているページをホームページとして設定します。 <p>デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ダイアログの背景を設定します。 <p>検索サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用する検索サービスを設定します。
詳細設定	<p>ウェブコンテンツ：エンコード</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文字が化けている場合は、文字コードを変更してみてください。一般的に日本語のページは「Shift-JIS」ですが、「EUC-JP」の場合があります。 <p>ウェブコンテンツ：表示倍率</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ページの表示を拡大・縮小することができます。 ※ ページによっては拡大・縮小できない場合があります。 <p>Cookie</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Cookieを受信し、「受信する/サードパーティのCookieを受信しない/受信しない/受信前に確認する」のどれかに設定できます。 <p>キャッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保存されている閲覧履歴データを削除することができます。 <p>リセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブラウザの設定をお買い上げ時の設定に戻します。

カテゴリ	設定項目
セキュリティ	<p>HTTPS/SSL</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護のないページに移動するとき、メッセージが表示されるように設定できます。 ● 使用するSSLまたはTLSバージョンを選択できます。 ● ルート証明書証明書の内容確認と有効/無効の設定ができます。
About	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラウザについての情報などが表示されます。

3 終わったら、戻るを押す

基本設定をする

ホームページに設定する

- 1 ホームページにしたいページを開く
- 2 ◀▶で「設定」を選び、決定を押す
- 3 ▲▼で「基本設定」を選ぶ
- 4 ▲▼◀▶で「ホームページ」を選び、決定を押す



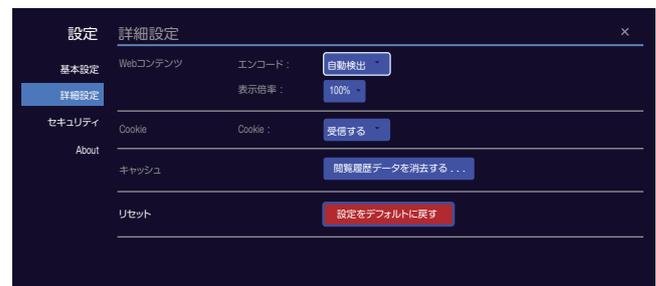
使用する検索サービスを設定する

- 1 ▲▼で「基本設定」を選ぶ
- 2 ▲▼◀▶で「検索サービス」を選び、決定を押す
- 3 ▲▼でお好みの検索サービスを選び、決定を押す

詳細設定をする

表示させたページが文字化けしているとき

- 1 ▲▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲▼◀▶でWebコンテンツの「エンコード」を選び、決定を押す



- 3 ▲▼で文字コードを選び、決定を押す

「インターネット」で情報を見る つづき

ページの表示倍率を変更する

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「表示倍率」を選び、**決定**を押す
- 3 ▲・▼でお好みの倍率を選び、**決定**を押す

Cookie (クッキー)の設定を変更する

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「Cookie」を選び、**決定**を押す
- 3 ▲・▼で設定を選び、**決定**を押す

閲覧履歴を消去する

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶でWebコンテンツの「キャッシュ」を選び、**決定**を押す



- 3 ▲・▼で消去する項目を選び、**決定**を押す



- **決定**を押して、をにします。**決定**を押すたびに、とが交互に切り換わります。

ブラウザの設定をお買い上げ時に戻す

- 1 ▲・▼で「詳細設定」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「リセット」を選び、**決定**を押す



セキュリティ設定をする

- 1 ▲・▼で「セキュリティ」を選ぶ



- 2 ▲・▼・◀・▶でセキュリティ設定を選び、**決定**を押す



証明書を管理する

- 1 ▲・▼で「セキュリティ」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀・▶で「証明書の管理」を選び、**決定**を押す



- 証明書のリストが表示されます。(ルート証明書の例)



- 以降の操作で、証明書の内容確認、証明書の有効/無効の設定ができます。

※ この設定は一部のネットワークサービスでも有効です。

その他のネットサービス

証明書の内容を確認する

- 1 確認する証明書をリストから▲・▼で選び、(決定)を押す
 - ルート証明書情報が表示されます
- 2 確認したら◀▶で「閉じる」を選び、(決定)を押す

証明書の有効/無効を切り換える

- 1 設定する証明書をリストから▲・▼で選び、(決定)を押す
- 2 ◀▶で「無効にする」を選び、(決定)を押す
 - (決定)を繰り返し押すと、「有効にする/無効にする」の切換えができます。
- 3 ◀▶で「閉じる」を選び、(決定)を押す
 - リストに戻り、有効の場合は冒頭に☑が表示されます。

ブラウザの情報を見る

- 1 ▲・▼で「About」を選ぶ
- ブラウザ情報が表示されます。

ソフトウェアのオープンソースを確認する

- 1 ▲・▼で「About」を選ぶ
- 2 ▲・▼・◀▶で「オープンソース ソフトウェア」を選び、(決定)を押す
 - 本ブラウザで使用しているソフトウェアのオープンソース情報が表示されます。

用語

■ Cookie (クッキー)

ユーザーの情報やアクセスした履歴などの情報をWebサーバーからの指示で本機内に自動的に受信、記録して、インターネットブラウザとWebサーバー間でやりとりをするための仕組み、またはその受信・記録されるファイルのことです。Netscape社によって開発され、本機をはじめ、各種のインターネットブラウザが対応しています。多くの場合、ユーザーがWebサイトをより使いやすくするために使用されますが、個人情報の流出につながるなどの指摘もされています。

※ Cookieを受信しないように設定すると、Webサイトによっては利用できない場合があります。

■ キャッシュ

以前表示したページを再度見る場合に、本機に保存されている過去のデータを表示して表示時間を短縮することで

- サブメニューからもネットサービスを利用することができます。
- 接続や設定などの準備については、「インターネットに接続する」(84頁～86頁)および、「インターネットの利用を制限する」(110頁)をご覧ください。

1 サブメニューを押し、▲・▼で「ネットサービス」を選び、(決定)を押す

2 ネットサービスを▲・▼で選び、(決定)を押す

- 以下のネットサービスが利用できます。

YouTube	YouTubeに接続します。 ※ YouTubeは、YouTube, LLCによって運営されている動画共有サービスです。
TSUTAYA TV	TSUTAYA TVに接続します。 ※ 「TSUTAYA TV」は、株式会社T-MEDIAホールディングスが提供するテレビ向け動画配信サービスです。
GyaO!ストア	GyaO!ストアに接続します。
スカパー！オンデマンド	スカパー！オンデマンドに接続します。
T's TV	T's TVに接続します。 ※ 「T's TV」は、ブロードメディア株式会社が提供するテレビ向け動画配信サービスです。
U-NEXT	U-NEXTに接続します。
アクトビラ	アクトビラに接続します。 ※ 「アクトビラ」は、株式会社アクトビラが提供するテレビ向けインターネット・サービスです。
Yahoo! JAPAN	Yahoo! JAPANに接続します。 ※ 「Yahoo! JAPAN」は、ヤフー株式会社が提供するインターネット・ポータルサイトです。
インターネット	「インターネット」のブラウザ画面が表示されます。89頁

- ネットサービスによっては、有料または登録が必要な場合があります。

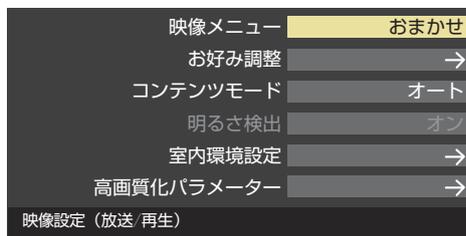
お知らせ

- YouTubeの場合、すべての動画コンテンツの再生を保証するものではありません。

お好みの映像メニューを選ぶ

- 見る映像の種類に応じて、お好みの映像メニューを選ぶことができます。
- 映像メニューは、放送/再生の映像や各入力端子の映像などでそれぞれ記憶させることができます。

1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「映像設定」⇒「映像メニュー」の順に進む



2 お好みの映像メニューを▲・▼で選び、[決定] を押す

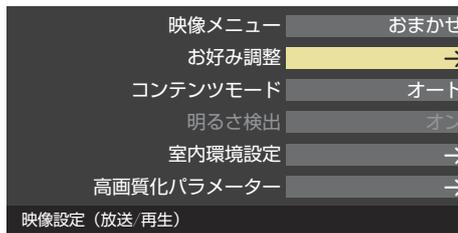
- 選択できる映像メニューは、視聴している映像の種類によって異なり、選択できない映像メニューは表示されません。



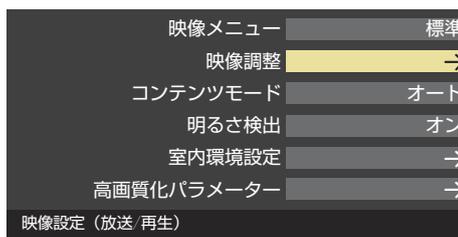
映像メニュー	内容
おまかせ	映像の内容と周囲の明るさに合わせて、常に見やすい画質に自動調整されます。
あざやか	日中の明るいいりびングで、迫力ある映像を楽しむときに適した設定です。
標準	室内で落ち着いた雰囲気を楽しむときに適した設定です。(日常、ご家庭で使用するときの推奨設定です)
ライブプロ	暗くした部屋でテレビ番組を見るときに適した設定です。
映画プロ	暗くした部屋で映画を見るときに適した設定です。(暖かみのある色あいが再現されます)
ゲーム	ゲームのレスポンスを重視した、ゲームをするのに適した設定です。(HDMI入力、ビデオ入力の際に選択できます)
PC	パソコンの画面を表示するのに適した設定です。(HDMI入力の際に選択できます)

お好みの映像に調整する

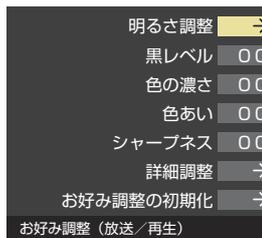
1 [設定] を押し、▲・▼と [決定] で「映像設定」⇒「お好み調整」または「映像調整」の順に進む



- 「映像メニュー」が「おまかせ」以外の場合は、「映像調整」に進みます。



2 調整する項目を▲・▼で選び、[決定] を押す



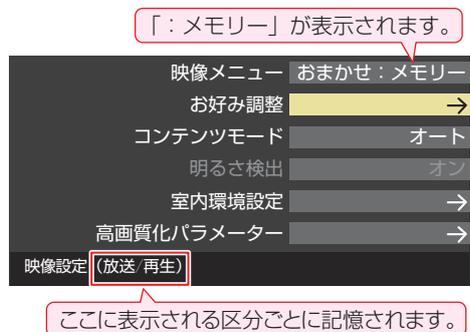
- 「お好み調整」と「映像調整」では、調整できる項目が一部異なります。

3 以降の手順([99]まで)でお好みの映像に調整する

- 他の項目を調整するときは、手順2から繰り返します。「バックライト」、「ユニカラー」、「黒レベル」、「色の濃さ」、「色あい」、「シャープネス」の調整時は、▲・▼を押せば調整項目を切り換えることができます)

「お好み調整」や「映像調整」をした場合

- 映像を調整すると、そのときに選択していた「映像メニュー」に調整状態が記憶され、「映像メニュー」の表示に「：メモリー」が加わります。
- 調整状態は、放送/再生や各入力端子などの区分ごとに記憶されます。たとえば、(放送/再生)の「おまかせ：メモリー」と(HDMI1)の「おまかせ：メモリー」は、異なる調整をして記憶させることができます。



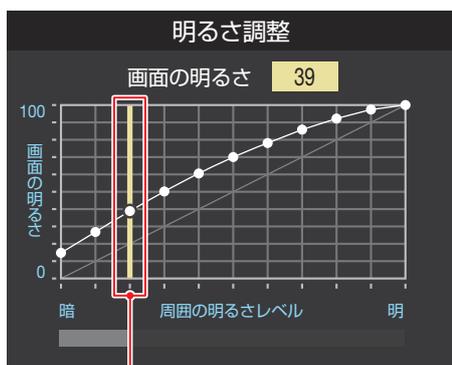
明るさ調整

- この調整項目は、「映像メニュー」が「おまかせ」の場合や、「明るさ検出」が「オン」に設定されているときに表示されます。
- 明るさ検出機能によって自動調整される画面の明るさを調整することができます。

1 (決定) を押す

2 明るさを変えたいレベルを◀・▶で選び、▲・▼で明るさを調整する

- 必要に応じて異なるレベルの調整を繰り返します。
- 青 [] を押すと、調整前のレベルに戻ります。
- 赤 [] を押すと、お買い上げ時の調整に戻ります。



明るさセンサーで感知した明るさレベル部分が選ばれます。

3 調整が終わったら、(決定) を押す

バックライト

- この調整項目は、「明るさ検出」が「オフ」に設定されているときに表示されます。
 - お好みの見やすい画面の明るさに調整できます。
- 1 ◀・▶でお好みの明るさに調整し、(決定) を押す
- 「00」～「100」の範囲で調整できます。(調整値が大きくなるほど画面が明るくなります)

ユニカラー

- この調整項目は、「映像メニュー」が「おまかせ」以外の場合に表示されます。
- 映像のコントラスト、明るさ、色の濃さをバランスよく同時に調整します。

1 ◀・▶でお好みの映像に調整し、(決定) を押す

- 「00」～「100」の範囲で調整できます。(数値が大きくなるほど映像のコントラストが強くなります)

黒レベル

- 映像の暗い部分(黒)の再現性(明るさ)を調整します。

1 ◀・▶でお好みの明るさに調整し、(決定) を押す

- 「-50」(暗く)～「+50」(明るく)の範囲で調整できます。

色の濃さ

- 映像の色の濃さを調整します。

1 ◀・▶でお好みの濃さに調整し、(決定) を押す

- 「-50」(淡く)～「+50」(濃く)の範囲で調整できます。

色あい

- 肌の色に注目して、色合いを調整します。

1 ◀・▶でお好みの色あいに調整し、(決定) を押す

- 「-50」(紫を強く)～「+50」(緑を強く)の範囲で調整できます。

シャープネス

- 映像の鮮明さを調整します。

1 ◀・▶でお好みの映像に調整し、(決定) を押す

- 「-50」(やわらか)～「+50」(くっきり)の範囲で調整できます。

お知らせ

■ 「明るさ調整」と明るさセンサーについて

- 調整中に照明をつけるなど、周囲の明るさを変えた場合は、調整後に画面の明るさが変わらないことがあります。
- 明るさセンサーの近くに物を置いたり、ふさいだりすると、明るさセンサーが正しく動作しなくなることがあります。明るさセンサーの位置は **16** をご覧ください。

お好みの映像に調整する つづき

詳細調整

● 「詳細調整」を選択して **(決定)** を押すとメニューが表示されます。

① 調整する項目を▲・▼で選び、**(決定)**を押す

- 視聴する映像の種類および「映像メニュー」の設定によっては調整や設定ができない項目があります。

レゾリューションプラス設定	→
ノイズリダクション設定	→
ヒストグラムバックライト制御	オン
ファインシネマ	オン
色温度	00
ダイナミックガンマ	00
ガンマ調整	00

詳細調整

② 以降の手順で調整する

- 他の項目を調整する場合は、手順①から繰り返します。

レゾリューションプラス設定

- 緻密で精細感のある映像を表示します。
- 「レゾリューションプラス設定」を選択して **(決定)** を押すと、「レゾリューションプラス」、「ゲイン調整」の選択メニューが表示されます。それぞれ以下の要領で設定します。
- ※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

レゾリューションプラス

- レゾリューションプラスの機能を使うかどうかを設定します。「オフ」に設定した場合は、「ゲイン調整」は機能しません。
- ※ レゾリューションプラスと同じ高画質処理機能を持った機器を接続した場合、画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、本機のレゾリューションプラス、または、接続した機器の高画質処理機能をオフにしてください。

① ▲・▼で「レゾリューションプラス」を選び、**(決定)**を押す

② ▲・▼で以下から選び、**(決定)**を押す

- オート……映像の種類に応じて自動的にレゾリューションプラスの機能が働きます。
- オフ……この機能は働きません。

ゲイン調整

- レゾリューションプラスの効果(強さ)を調整します。

① ▲・▼で「ゲイン調整」を選び、**(決定)**を押す

② ◀・▶で調整し、**(決定)**を押す

調整範囲	数値が大きくなるほど、映像の精細感が強調されます。
01 ~ 05	

ノイズリダクション設定

- 「ノイズリダクション設定」を選択してを押すと、「MPEG NR」と「ダイナミックNR」の選択メニューが表示されます。
- ※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。

MPEG(エムペグ) NR

- デジタル放送やDVDなどの動きの速い映像のブロックノイズ(モザイク状のノイズ)と、モスキートノイズ(輪郭のまわりにつく、ちらつきノイズ)を減らす機能です。

① ▲・▼でお好みの設定を選び、**(決定)**を押す

- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
- 強、中、弱…MPEG NRの効果が切り換わります。強くするほどノイズをより抑える方向に働きます。
- オフ……この機能は働きません。
- ※ 効果を強くすると精細感を損なう場合があります。
- ※ 「オート」は「映像メニュー」が「おまかせ」のときにだけ選択できます。

ダイナミックNR

- 映像のざらつきやちらつきを減らす機能です。

① ▲・▼でお好みの設定を選び、**(決定)**を押す

- オート……映像の種類に応じて自動的に制御されます。
- 強、中、弱…ダイナミックNRの効果が切り換わります。
- オフ……この機能は働きません。
- ※ 通常は「オート」に設定してください。効果を強くすると残像が目立つ場合があります。

ヒストグラムバックライト制御

- 映像の明るさに応じてエリアごとにバックライトの明るさを自動調整し、メリハリのある映像にします。

① ▲・▼で以下から選び、**(決定)**を押す

- オン……ヒストグラムバックライト制御の機能が働きます。
- オフ……この機能は働きません。

ファインシネマ

- 映画ソフト(フィルム映像)のもつスムーズな映像の動きと画質を再現します。

- ※ 映像によっては、効果がわかりにくい場合があります。
- ※ 映像に違和感がある場合は、「オフ」に設定してください。

① ▲・▼で以下から選び、**(決定)**を押す

- オン……ファインシネマの機能が働きます。
- オフ……この機能は働きません。

色温度

- 画面全体の色味を調整します。

① ◀・▶で調整し、**(決定)**を押す

映像メニュー	調整範囲	調整値が小さくなるほど暖色系、大きくなるほど寒色系になります。
おまかせ	-05 ~ +05	
おまかせ以外	00 ~ 10	

ダイナミックガンマ

- 映像の内容に応じて、暗い部分から明るい部分にかけての階調が自動的に調整されます。

① ◀▶で調整し、(決定)を押す

映像メニュー	調整レベル	
おまかせ時	-05 ~ +05	数値が大きくなるほどメリハリが強調されます。
おまかせ以外	00 ~ 10	

ガンマ調整

- 映像の暗い部分と明るい部分の階調のバランスを調整することができます。

① ◀▶で調整し、(決定)を押す

調整範囲	
-04 ~ +04	調整値が大きくなるほど画面全体が明るくなります。

お好み調整の初期化／映像調整の初期化

- 「お好み調整」、「映像調整」の内容を、お買い上げ時の設定・調整に戻します。

① ◀▶で「はい」を選び、(決定)を押す

その他の映像設定

- 「映像設定」のメニューに表示されている「コンテンツモード」、「明るさ検出」、「室内環境設定」は、項目を選択してから以下の手順で設定します。

映像メニュー	おまかせ
お好み調整	→
コンテンツモード	オート
明るさ検出	オン
室内環境設定	→
高画質化パラメーター	→

映像設定 (放送 再生)

コンテンツモード

- 視聴する映像のコンテンツに合った画質になるように設定することができます。
- ※ 「映像メニュー」が「ゲーム」、「PC」のときはコンテンツモードは設定できません。
- 選択できる項目は、視聴している映像の種類や解像度によって異なり、選択できない項目は表示されません。

① ▲▼で以下から選び、(決定)を押す

・オート	本機が自動的に切り換えます。
・ゴルフ/サッカー	ゴルフ番組やサッカー観戦などに適した画質で表示されます。
・テレビアニメ	デジタルアニメ番組に適した画質で表示されます。
・レトロアニメ	古い(画質などが粗い)アニメ番組に適した画質で表示されます。

明るさ検出

- 明るさセンサーで検出した周囲の明るさに応じて、画面の明るさが自動で調整されます。

※ 「映像メニュー」が「おまかせ」に設定されている場合は「オン」になり、設定を変えることはできません。

① ▲▼で以下から選び、(決定)を押す

- ・オン …… 明るさ検出機能が働きます。
- ・オフ …… この機能は働きません。

室内環境設定

① ▲▼で「室内環境設定」を選び、(決定)を押す

② ▲▼で「照明の色」を選び、(決定)を押す

③ ◀▶で室内の照明の色を選び、(決定)を押す

- ・電球色 …… 電球など、暖か味のある色の照明の場合に選択します。
- ・蛍光灯色 …… クールな白色の照明の場合に選択します。

④ ▲▼で「外光設定」を選び、(決定)を押す

⑤ ◀▶で「外光あり(通常)」または「外光なし」を選び、(決定)を押す

- ・外光あり(通常) …… 日中、屋外から光がはいる場合に選択します。
- ・外光なし …… 日中、屋外からはいる光が少なく、室内照明を使用している場合に選択します。

- 「外光あり」に設定した場合、③で設定した照明の色と外光に合わせた画質に自動調整されます。(この機能にはデジタル放送の時刻情報が利用されます)

- 「外光なし」に設定した場合、③で設定した照明の色に合わせた画質に自動調整されます。

高画質化パラメーター

- (決定)を押すと、映像の明るさ分布や映像の動き量などが確認できます。

※ 「映像設定」の設定によっては、パラメーターに表示されない項目があります。

お好みの音声に調整する

- 見る番組や映像に応じて、お好みの音声に調整することができます。

1 **設定** を押し、▲・▼で「音声設定」を選び、**決定** を押す

2 調整する項目を▲・▼で選び、**決定** を押す

高音	00
低音	00
バランス	中央
ヘッドホン/音声出力設定	→
光デジタル音声出力	PCM
デジタル音声出カタイミング	-1
スピーカー設置設定	スタンド
音声調整の初期化	→
音声設定 (放送/再生)	

3 以降の手順でお好みの音声に調整する

高音

- 高音の強さを調整します。
- 1** ▲・▼で「高音」を選び、**決定** を押す
- 2** ◀▶で調整し、**決定** を押す
 - 「-50」(弱く)～「+50」(強く)の範囲で調整できます。

低音

- 低音の強さを調整します。
- 1** ▲・▼で「低音」を選び、**決定** を押す
- 2** ◀▶で調整し、**決定** を押す
 - 「-50」(弱く)～「+50」(強く)の範囲で調整できます。

バランス

- 左右のスピーカーの音量バランスを調整します。
- 1** ◀▶で調整し、**決定** を押す
 - 「左50」(右を弱く)～「中央」(左右同じ)～「右50」(左を弱く)の範囲で調整できます。

ヘッドホン/音声出力設定

- ヘッドホン/音声出力端子の設定をします。
- 1** ▲・▼で「ヘッドホン/音声出力設定」を選び、**決定** を押す
 - 以下、「出力モード設定」、「ヘッドホン用出力モード」、「外部スピーカー用出力モード」を設定します。

出力モード設定

- ヘッドホン/音声出力端子に接続する機器にあわせて設定します。
- ※ ヘッドホンで聴くときは、必ず「ヘッドホン用出力モード」に設定してください。
- 1** ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す
 - **ヘッドホン用出力モード**：
 - ヘッドホン/音声出力端子にヘッドホンを接続する場合に選択します。
 - **外部スピーカー用出力モード**：
 - ヘッドホン/音声出力端子に外部スピーカーに接続しているアンプを接続する場合に選択します。

ヘッドホン用出力モード

- 「出力モード設定」で「ヘッドホン用出力モード」を選んだときに設定します。
- 1** ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す
 - **通常モード**……ヘッドホン/音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーからの音が消え、ヘッドホンから音が聞こえます。
 - **親切モード**……ヘッドホン/音声出力端子にヘッドホンを接続すると、テレビのスピーカーとヘッドホンの両方から音が聞こえます。

外部スピーカー用出力モード

- 「出力モード設定」で「外部スピーカー用出力モード」を選んだときに設定します。
- 1** ▲・▼で以下から選び、**決定** を押す
 - **固定出力モード**……ヘッドホン/音声出力端子から一定の音量レベルで音声が出力されません。外部接続機器で音量を調節してください。
 - **可変出力モード**……ヘッドホン/音声出力端子からの音量を本機のリモコンで調整することができます。

光デジタル音声出力

- 光デジタル音声出力端子から出力する音声信号の設定です。
- オーディオ機器が対応している音声信号については、オーディオ機器の取扱説明書でご確認ください。
- オーディオ機器から音声が出ない場合は、「PCM」に設定してください。

① ▲・▼で信号を選び、**決定**を押す



- **PCM**……………
常にリニアPCM信号が出力されます。
オーディオ機器がリニアPCM信号のみに対応している場合は、この設定にします。
- **Dolby Digital**……
コンテンツの音声信号をドルビーデジタル信号に変換して出力します。(入力信号がリニアPCMの場合は、そのまま出力されます)
オーディオ機器がAACに非対応でもドルビーデジタルのサラウンド音声に対応している場合は、この設定にすることでサラウンド音声が楽しめます。
- **デジタルスルー** ……
入力信号がそのまま出力されます。
オーディオ機器がAAC信号に対応している場合に、この設定にすることができます。
- **サラウンド優先** ……
コンテンツの音声信号がサラウンド音声(5.1chや4.1chサラウンド音声など)の場合にそれらの信号が出力されます。それ以外の場合はリニアPCM信号が出力されます。オーディオ機器がAACのサラウンド音声に対応している場合は、この設定にすることでサラウンド音声が楽しめます。



- 光デジタル音声出力設定が「PCM」以外に設定されている場合で、MPEG-2 AAC音声の場合には、データ放送の一部の音声(効果音など)が光デジタル音声出力端子から出力されないことがあります。
- ビデオ入力を選択しているときは、光デジタル音声出力端子からは設定にかかわらずリニアPCM信号が出力されます。
- HDMI入力の選択時に、HDMI入力端子が対応していない音声信号が入力された場合は、設定にかかわらず光デジタル音声出力端子から信号は出力されません。(HDMI入力端子が対応している音声信号については、**73**をご覧ください)

デジタル音声出力タイミング

- 光デジタル音声出力端子から出力するデジタル音声信号のタイミングを設定することができます。

① ◀・▶で好みのタイミングに調整し、**決定**を押す

- 数値が小さくなるほど、音声を出力するタイミングが早くなります。



- 映像の遅延が小さい場合、設定を変えても音声のタイミングは変わりません。

スピーカー設置設定

- テレビの設置状況に合わせた音質に設定します。

① ▲・▼で「スタンド」または「壁掛け」を選び、**決定**を押す

音声調整の初期化

- 音声設定の高音と低音の設定がお買い上げ時の設定・調整に戻ります。

① ◀・▶で「はい」を選び、**決定**を押す

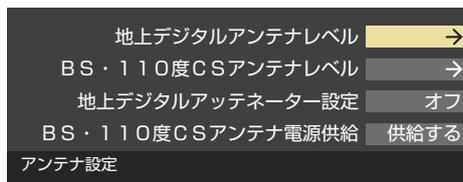
アンテナを調整する

電波の強さ(信号強度)を確認する

- テレビが全く映らない、または画面が乱れるなどの場合は、以下の手順でアンテナレベルを確認します。

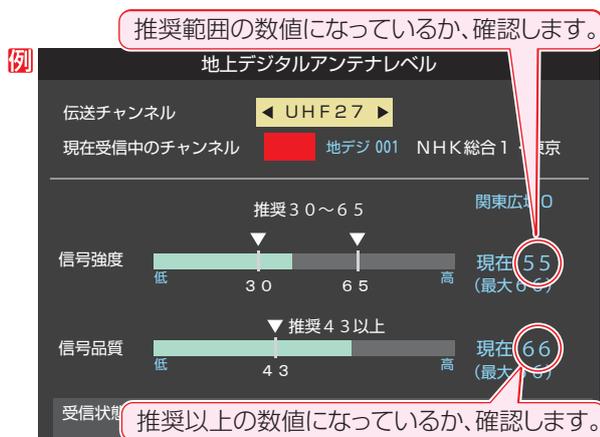
地上デジタル用アンテナの場合

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「地上デジタルアンテナレベル」の順に進む



- 2 ◀▶で「伝送チャンネル」を選ぶ

- お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選びます。(お買い上げの販売店などにお聞きください)
- ◀▶を押すたびに以下のように切り換わります。
VHF1~VHF12 ↔ UHF13~UHF62 ↔ CATV13~CATV63
- 信号強度(○印の数値)が推奨範囲内になっているか、信号品質(○印の数値)が推奨の数値以上になっているかを確認します。



BS・110度CS用アンテナの場合

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「BS・110度CSアンテナレベル」の順に進む

- 2 **BS** または **CS** で放送の種類を選ぶ

- 3 **秘秘** でチャンネルを選ぶ

- 無料チャンネルまたは契約済チャンネルを選びます。
- アンテナレベルの数値が推奨の数値以上になっているか確認します。

アンテナを調整する

- アンテナレベルが不足している場合は、「アンテナレベル」の画面を確認しながらアンテナの調整をします。
- ※ 高所での作業は危険です。アンテナの調整については、販売店にご相談ください。

- 1 アンテナをゆっくり動かして、アンテナレベルの数値が最大となるように調整する

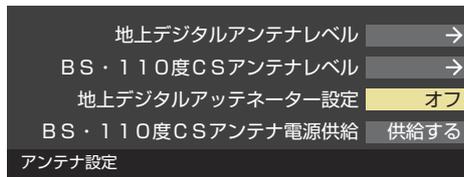
- アンテナレベルが増えると ↗ が表示され、減ると ↘ が表示されます。
- 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認します。

- 2 アンテナを固定して、**決定** を押す

地上デジタルアッテネーター設定を変更する

- 信号強度が高すぎて受信障害が発生している場合は、「地上デジタルアッテネーター設定」を「オン」にします。
- お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「地上デジタルアッテネーター設定」の順に進む

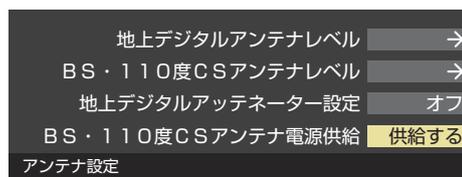


2 ▲・▼で「オン」または「オフ」を選び、**決定** を押す

BS・110度CS用アンテナの電源供給の設定を変更する

- BS・110度CS用アンテナは電源を必要とします。
- お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。マンションなどで、他の機器からアンテナに電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「初期設定」⇒「アンテナ設定」⇒「BS・110度CSアンテナ電源供給」の順に進む



2 ▲・▼で「供給する」または「供給しない」を選び、**決定** を押す



お知らせ

- 地上デジタルアンテナレベルの信号強度の数値は、受信入力電力を換算したものです。
- 地上デジタルアンテナレベルの信号品質の数値は、受信C/Nを換算したものです。(「受信C/N」とは放送電波と雑音電波の比を表すもので、電波の品質を知るときの目安となります)
- BS・110度CS用アンテナのレベル表示画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示された場合は、電源を切ってから電源プラグを抜き、ショートの原因を取り除いてからもう一度電源を入れてアンテナレベル表示の操作をしてください。
- 「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「切」または「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外はアンテナ電源が供給されません。(BS・110度CSデジタル放送を録画機器単独で録画するときなどは、録画機器からアンテナ電源を供給する必要があります)

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき

地上デジタルチャンネルを自動で設定する

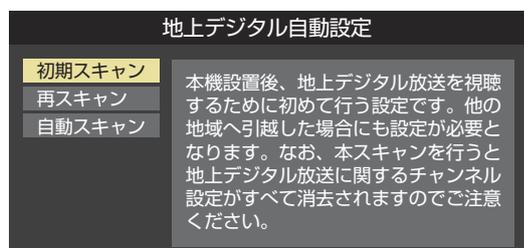
- 地上デジタル放送には以下の3種類のチャンネル自動設定機能があります。
 - 初期スキャン……「はじめての設定」の「① 地上デジタルチャンネル設定」で行われる「初期スキャン」だけをやり直すことができます。
 - 再スキャン……放送局が増えたなど、放送チャンネルに変更があったときに、ワンタッチ選局ボタンに設定できます。
 - 自動スキャン……本機の電源が「切」や「待機」のときに自動的に探し、変更されたチャンネルがあればワンタッチ選局ボタンに自動で設定されます。
- ※ 初期スキャンをしていないと、再スキャンや自動スキャンはできません。

初期スキャンをするとき

- 受信可能なチャンネルを本機が探し、ワンタッチ選局ボタン(1~12)に放送の運用規定に基づいて設定します。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「初期スキャン」の順に進む

- 画面の説明をよくお読みください。



- 2 お住まいの地方を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押し

- 3 お住まいの都道府県または地域を▲・▼・◀・▶で選び、(決定)を押し

- 下図の画面が表示された場合は「データ放送用メモリの割当て」108Fをしてください。

例

初期スキャン	放送局	受信状態	メモ割当
放送局の数がデータ放送用のメモリの数を超過しています。メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。			
<input checked="" type="checkbox"/> 11	テレ玉	○	あり
<input checked="" type="checkbox"/> 12	テレビ東京	○	あり
<input type="checkbox"/> --	NHK総合・新潟	○	あり
<input type="checkbox"/> --	NHK Eテレ新潟	○	あり
<input type="checkbox"/> --	BSN	○	あり

選択した放送局の数：12

- 4 初期スキャン終了の画面が表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押し

- 5 設定内容を確認したら、(決定)を押し

再スキャンをするとき

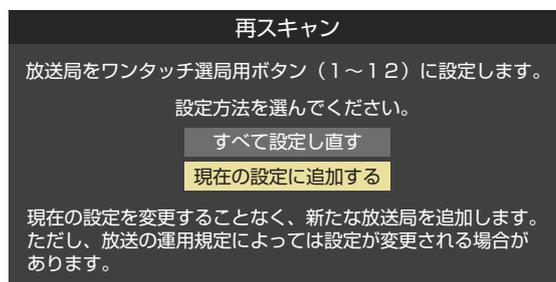
- 新たに放送局が開局してチャンネルが増えた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすればチャンネルを追加設定することができます。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「再スキャン」の順に進む

- データ放送用のメモリー割当画面(左記手順3参照)が表示された場合は108Fをご覧ください。

- 2 下図の画面が表示されたら、▲・▼でどちらかを選び、(決定)を押し

- 画面の説明を読んで、1~12への設定方法を選びます。



- 3 再スキャン終了の画面が表示されたら、◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押し

- 4 設定内容を確認したら、(決定)を押し

自動スキャンの設定を変えるとき

- お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定の内容が自動変更されないようにする場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

- 1 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「地上デジタル自動設定」⇒「自動スキャン」の順に進む

- 2 ▲・▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、(決定)を押し

チャンネルをお好みに手動で設定する

- お好みに、リモコンのワンタッチ選局ボタン(1~12)で選局するチャンネルを変更したり、空いているワンタッチ選局ボタンに設定を追加したりすることができます。
- はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、前ページの「初期スキャン」をしてください。「初期スキャン」をしていない状態では「手動設定」はできません。

1 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「手動設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定するデジタル放送の種類を▲・▼で選び、(決定)を押し

3 設定するボタン(1~12)の番号を▲・▼で選び、(決定)を押し

- 図は手順2で「地上デジタル」を選んだ場合の例です。



4 ▲・▼で「チャンネル」を選び、◀▶で受信チャンネルなどを選ぶ



- ◀▶を押すと次のように切り換わります。
 - ・ 「地上デジタル」の場合
「テレビ」↔「データ」
地デジのチャンネルを順に選択
 - ・ 「BS」の場合
「テレビ」↔「ラジオ」↔「データ」
BSデジタルのチャンネルを順に選択
 - ・ 「110度CS」の場合は放送メディア(テレビ/ラジオ/データ)の指定はできません。
 - ・ ◀▶を押し続けると、チャンネルを速く切り換えることができます。

放送メディアを選んだ場合

- 放送メディア(テレビまたはデータまたはラジオ)を選んだ場合は、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルまたは複数のラジオ放送チャンネルが、手順3で選んだ番号のボタンにまとめて設定されます。

- 以下の操作で放送局名を設定します。

① ▲・▼で「放送局」を選ぶ

② 設定したい放送局名を◀▶で選ぶ

- 例 手順2で「地上デジタル」を選び、手順3で「6」を選び、ここで「テレビ」を選んで「放送局」を「TBS」に設定すると、地上デジタル放送視聴時の操作で「6」を押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次に選局できます。

チャンネルを選んだ場合

- 手順3で選んだ番号のボタンに、ここで選んだチャンネルだけが設定されます。

- ※ 「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(放送局名を変えることはできません)。

- 例 手順2で「地上デジタル」を選び、手順3で「6」を選び、ここで「地デジ061」を選ぶと、地上デジタル放送視聴時の操作で「6」を押したときに061チャンネルだけが選局できます。

地デジ難視対策衛星放送を登録する場合

- 手順2でどちらかの「BS グループ」を選び、手順3で選んだ番号のボタンに地デジ難視対策衛星放送のチャンネルを設定します。

- 例 手順3で「BS グループA」を選び、手順3で「4」を選び、ここで「BS294」を選ぶと、「BS グループA」視聴時の操作で「4」を押したときに地デジ難視対策衛星放送の「日本テレビ」が選局できます。

- ※ お買い上げ時に設定されていた「BS日テレ」のワンタッチ選局はできなくなります。

5 設定が終わったら▲・▼・◀▶で「設定完了」を選び、(決定)を押し

- ※ 「設定削除」を選ぶと、そのボタンの設定を削除することができます。「チャンネル」の欄が「---」の表示になります)

- 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3~5を繰り返します。



- 手動設定をしたあとで、「初期スキャン」や「はじめての設定」をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

チャンネルを追加したり設定を変更したりするとき つづき

視聴しないチャンネルをスキップする

-  で選局するとき、視聴しないチャンネルを飛ばすことができます。
- 「スキップ」に設定したチャンネルは番組表()に表示されません。また、番組検索()の対象になりません。

1 を押し、▲・▼と で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「チャンネルスキップ設定」の順に進む

- 放送の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定する放送の種類を▲・▼で選び、 を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを▲・▼で選び、 を押す

 チャンネルスキップ設定 地上デジタル

チャンネル	放送局	スキップ
地デジ011	NHK総合1・東京	受信
地デジ012	NHK総合2・東京	受信
地デジ021	NHKEテレ1東京	受信
地デジ022	NHKEテレ2東京	スキップ
地デジ023	NHKEテレ3東京	スキップ
地デジ031	テレ玉1	受信

手順2で「地上デジタル」を選んだ場合

-  を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
- 放送メディア(テレビ/ラジオ/データ)を変えるとときは  を押します。
- 他のチャンネルの設定をする場合は、手順3の操作を繰り返します。(違う放送のチャンネルを設定する場合は  を押し、手順2からの操作を繰り返します)

チャンネル設定を最初の状態に戻すには

- すべてのチャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。
- チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。受信するには、「初期スキャン」()をしてください。
- この操作をしても、「データ放送用メモリーの割当て」()や、双方向サービスの利用で本機に記憶された住所・氏名、ポイント数などの利用者個人の情報はそのままです。

1 を押し、▲・▼と で「初期設定」⇒「チャンネル設定」⇒「チャンネル設定の初期化」の順に進む

- 確認画面が表示されます。

2 ◀▶で「はい」を選び、 を押す



■ チャンネルスキップ設定について

- 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
- 放送局の代表チャンネルを「スキップ」に設定すると、その放送局の代表チャンネル以外のチャンネルもスキップされます。代表チャンネル以外のチャンネルを「スキップ」に設定した場合は、代表チャンネルは選局できます。

データ放送の設定をする

郵便番号と地域を設定する

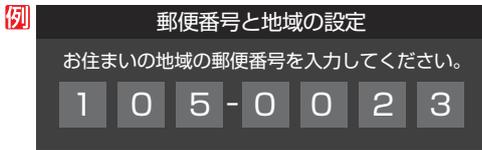
- お住まいの地域に応じたデータ放送や緊急警報放送などを視聴するための設定です。
- 「はじめての設定」で設定した状態から変更したいときに以下の操作をします。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「郵便番号と地域の設定」の順に進む

- 郵便番号の入力画面が表示されます。

2 お住まいの地域の郵便番号を **1**～**10**₍₀₎ で入力し、**決定** を押し

- 上3ケタを入力して **決定** を押し、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。



3 該当する地方を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押し

- 「設定しない」を選んだ場合は、これで終わりです。

4 該当する地域を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押し

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

災害発生時に文字情報を表示させる

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、表示する言語を選択することができます。
- お買い上げ時は、文字スーパーが日本語優先で表示されるように設定されています。

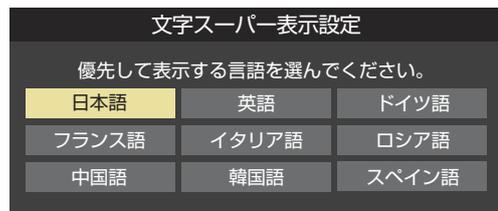
1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「文字スーパー表示設定」の順に進む

- 「文字スーパー表示設定」の画面が表示されます。

2 ▲・▼で「表示する」を選び、**決定** を押し

- 「表示しない」を選んだ場合、操作はこれで終わりです。

3 優先する言語を ▲・▼・◀・▶ で選び、**決定** を押し



ルート証明書の番号を確認する

- 地上デジタル放送の双方向サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されるルート証明書の番号を確認することができます。
- ルート証明書は地上デジタル放送で放送局から送られます。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「データ放送設定」⇒「ルート証明書番号」の順に進む

- ルート証明書番号のリストが表示されます。

2 ルート証明書番号を確認し、**決定** を押し

用語

- **ルート証明書** サーバーを認証する第三者機関(認証局)を証明するものです。この証明書をもとにして、「サーバ証明書」のデジタル署名を検証し、「サーバ証明書」が信頼できることを確認します。

お知らせ

- **郵便番号と地域の設定について**
 - データ放送を視聴している状態で設定を変更した場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を選局し直してください。
- **文字スーパー表示の設定について**
 - 設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示されます。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。
 - 「表示しない」を選択した場合でも、災害時などの速報は、放送局指定により放送受信時に強制表示することがあります。

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら

- 「はじめの設定」の「地上デジタルチャンネル設定」や、「初期スキャン」**104**の手順**3**、「再スキャン」**104**の手順**1**でデータ放送用メモリーの割当画面が表示された場合は、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

- 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があります、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。

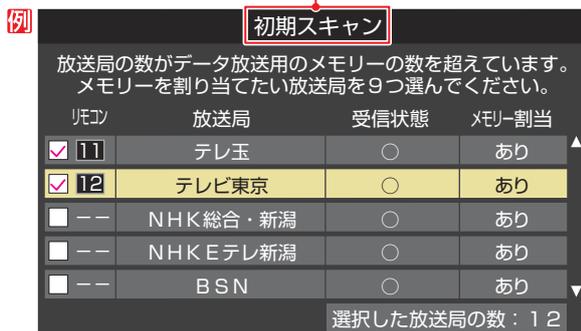
その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順**1**の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。

- メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

1 メモリーを割り当てる放送局を▲▼で選び、**決定**を押す

- 選んだ放送局にチェックマーク**☑**がつきます。もう一度**決定**を押すと、指定が取り消されます。
- ワンタッチ選局ボタン（**1**～**12**）に設定されている放送局については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
- このあと、手順**2**～**4**の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。



2 手順**1**を繰り返し、九つの指定をする

- **1**～**12**については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

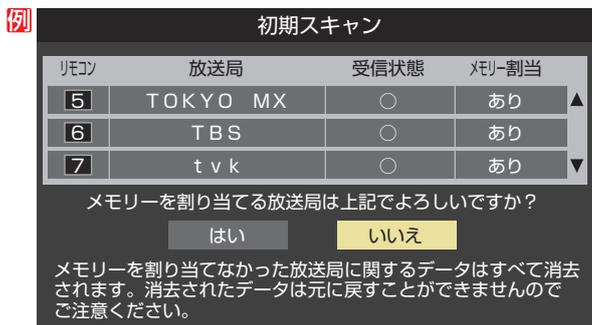
3 ▶を押す

- 手順**4**の画面になります。（確認メッセージが表示されます）
- 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。**決定**を押したあと、手順**1**～**2**の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀▶で「はい」を選び、**決定**を押す

- 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、ここでの設定をする前の場面に自動的に戻ります。

指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。



5 このページの設定をする前の操作を続ける

- 「初期スキャン」の場合
「初期スキャン」**104**の手順**4**へ
- 「再スキャン」の場合
「再スキャン」**104**の手順**2**へ

視聴できる番組を制限する

制限するために暗証番号を設定する

- 暗証番号は、インターネット利用時の閲覧制限機能を使用したり、視聴年齢制限のある番組を見たりするときが必要です。
- 暗証番号を設定した場合には、暗証番号の変更・削除および「すべての初期化」**112**をするときにも暗証番号の入力が必要になります。



- 暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、裏表紙に記載の「東芝テレビご相談センター」にご連絡ください。

※ 必要としない場合は、登録しないことをおすすめします。

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「放送・インターネット制限設定」⇒「暗証番号設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面が表示されます。

- 2 暗証番号を変更する場合は、変更前の暗証番号を **1**～**10**₍₀₎ で入力する

- 新規設定の場合、この手順はありません。

- 3 登録したい暗証番号を **1**～**10**₍₀₎ で入力する

- 間違えて入力した場合は、◀ を押し、もう一度入力します。
- 入力した数字は画面には「*」で表示されます。



- 4 **1**～**10**₍₀₎ でもう一度同じ暗証番号を入力する

- 5 確認画面で **決定** を押す

暗証番号を削除するとき

- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「放送・インターネット制限設定」⇒「暗証番号削除」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

- 2 **1**～**10**₍₀₎ で暗証番号を入力する

- 3 確認画面で、◀▶で「はい」を選び、**決定** を押す

番組の視聴を制限する

- デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されています。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
- お買い上げ時には、番組の視聴制限は設定されていません。
- 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定します。

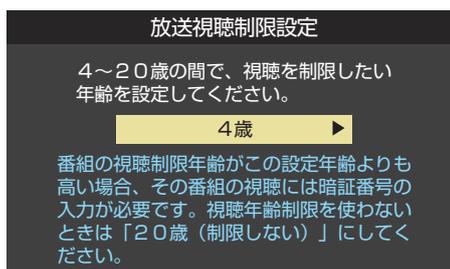
- 1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「放送・インターネット制限設定」⇒「放送視聴制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

- 2 **1**～**10**₍₀₎ で暗証番号を入力する

- 3 ◀▶で年齢を設定し、**決定** を押す

- 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
- 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳(制限しない)」に設定します。



- 視聴時の動作および必要な操作は以下のとおりです。

番組の制限年齢が設定した年齢よりも上の場合

- メッセージが表示されます。
- **決定** を押し、**1**～**10**₍₀₎ で暗証番号を入力します。

視聴年齢制限が設定されていない場合

- 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
- **決定** を押し、設定が必要な項目を設定します。

視聴できる番組を制限する つづき

インターネットの利用を制限する

- ネットワークサービスを使用する際に、青少年を有害サイトから保護することを意図した以下の閲覧制限機能を使用することができます。
- 「レグザ版あんしんねっと」のフィルタリングによるアクセス制限(プロキシ制限機能)と、アクセス先にかかわらずブラウザ起動時にパスワードで利用を制限する機能(パスワードロック機能)の2種類があります。
- 暗証番号を設定していない場合は、先に前ページの手順で暗証番号を設定します。

レグザ版あんしんねっと設定(プロキシ制限機能)

- 閲覧できるサイトを制限することができます。
- 右記の「ブラウザ制限設定」を「制限する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「放送・インターネット制限設定」⇒「インターネット制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 **1**～**10**₍₀₎ で暗証番号を入力する

3 ▲・▼で「レグザ版あんしんねっと設定」を選び、**決定** を押す

4 ▲・▼で「レグザ版あんしんねっと」を選び、**決定** を押す

5 ▲・▼で「使用する」または「使用しない」を選び、**決定** を押す

- 「使用しない」に設定した場合は、**終了** を押します。

6 「ご利用上の注意」を読み、同意する場合は◀▶で「はい」を選んで **決定** を押す

- 「いいえ」を選択した場合は、**終了** を押します。

7 ▲・▼で「閲覧設定」を選び、**決定** を押す

8 制限するレベルを▲・▼で選び、**決定** を押す

- 設定するレベルに応じて、それぞれ以下のサイトの閲覧が制限されます。

- 小学生以下……有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット、ブログ、ショッピング
- 中学生……有害サイト、ウェブメール、掲示板、チャット
- 高校生……有害サイトのみ
- 大人……フィッシング詐欺サイトのみ

※ インターネットの利用時に、パスワードを使って一時的に閲覧設定を「大人」に変更することができます。詳しくは、「一時的に閲覧制限を変更するとき」(88頁)をご覧ください。

「レグザ版あんしんねっと」について

「レグザ版あんしんねっと」はYahoo! JAPANが運営する「Yahoo!あんしんねっと」のフィルタリング用URLデータベースを使用したサービスです。

有害サイトの判定にあたっては、利用者がリクエストしたURL情報がYahoo! JAPANに送付されることをあらかじめご了承ください。(Yahoo! JAPANのプライバシーの考え方については、<http://privacy.yahoo.co.jp/> をご参照ください)

ブラウザ制限設定(パスワードロック機能)

- ネットワークサービスを使用する際に、暗証番号の入力が必要となるように設定することができます。
- 左記の「レグザ版あんしんねっと」を「使用する」に設定している場合は、この設定はできません。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「機能設定」⇒「放送・インターネット制限設定」⇒「インターネット制限設定」の順に進む

- 暗証番号の入力画面になります。

2 **1**～**10**₍₀₎ で暗証番号を入力する

3 ▲・▼で「ブラウザ制限設定」を選び、**決定** を押す

4 ▲・▼で「制限する」または「制限しない」を選び、**決定** を押す

- 制限する……ネットワークサービスを起動したときに、暗証番号の入力が必要です。
- 制限しない……暗証番号入力不要です。

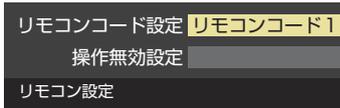
リモコンの設定を変更する

2台のREGZAをそれぞれのリモコンで操作する

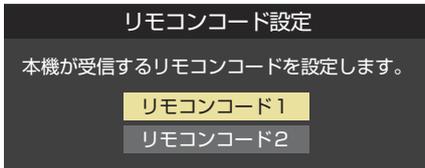
- 同じ室内で東芝製のテレビを2台使用している場合などに、リモコンを操作すると2台とも反応してしまうことがあります。このような場合、リモコンコードの設定を変えれば1台だけが操作できるようになります。

※ 必ず以下の手順で操作してください。手順が異なるとリモコン操作ができなくなります。

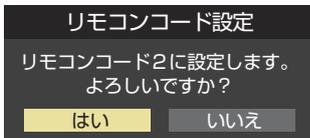
- 1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「機能設定」⇒「リモコン設定」⇒「リモコンコード設定」の順に進む



- 2 ▲・▼で「リモコンコード1」または「リモコンコード2」を選び、**決定** を押す



- 3 ◀▶で「はい」を選び、**決定** を押す



- 今までと異なるコードに設定した場合、次の手順4を終えるまでの間リモコン操作ができなくなります。

- 4 **決定** を押したままで、**1** または **2** を約2秒間以上押し続ける

- 手順2～3で「リモコンコード1」に設定した場合は**1**を、「リモコンコード2」に設定した場合は**2**を押し続けます。

※ この操作ができるのは、付属のリモコンだけです。

- 5 リモコンでテレビが操作できることを確認する

リモコンの乾電池を取りはずした場合(電池交換などの際)、「リモコンコード1」になることがあります。

テレビ本体のボタンで設定するとき

- テレビ本体のリモコンコードを、本体の操作ボタンを使って以下の手順で設定することもできます。

- 1 本体の**機能切換** を押し続ける
 - 「リモコンコード設定」のメニュー画面が表示されたらボタンから手を離します。

- 2 **音量** でリモコンコードを選び、**機能切換** を押す

- 3 **音量** で「はい」を選び、**機能切換** を押す

使わない放送選択ボタンの操作を無効にする

- リモコンの放送選択ボタン**地デジ**、**BS**、**CS**のうち、使用しないボタンの操作を無効にすることができます。

- 1 **設定** を押し、▲・▼と**決定** で「機能設定」⇒「リモコン設定」⇒「操作無効設定」の順に進む

- 2 ▲・▼でボタンを選び、**決定** を押す

ボタン	操作
地デジ	有効
BS	有効
CS	有効

- **決定** を押すたびに「有効」と「無効」が交互に切り換わります。



- テレビ本体とリモコンのリモコンコードが一致していない場合、電源が「待機」のときにリモコンの**電源** を押すと、本体の「電源」表示が赤色に点滅します。その場合は、リモコンまたは本体のリモコンコードを変更してください。

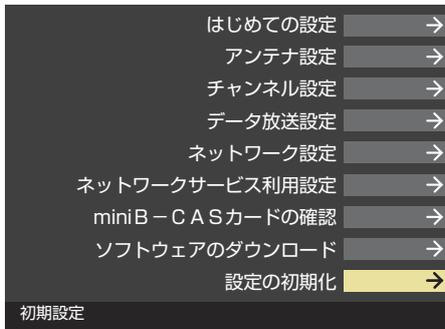
お買い上げ時の設定に戻すには (設定内容を初期化するには)

- お買い上げ時の設定(工場出荷設定)に戻します。
- 本機に設定された「リモコンコード設定」**111**以外のすべての内容がお買い上げ時の状態に戻ります。
- ※ データ放送の個人情報(住所、氏名、視聴ポイント数など)、ネットワークサービスの登録情報などについてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合に行ってください。



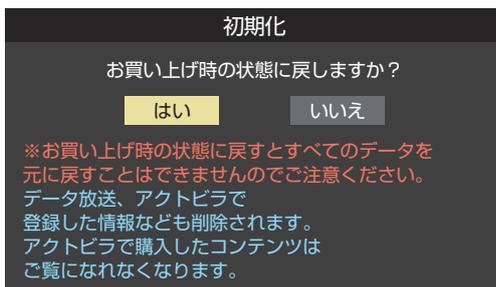
※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

1 「設定」を押し、▲・▼と(決定)で「初期設定」⇒「設定の初期化」の順に進む



- 暗証番号を設定している場合は暗証番号入力画面が表示されます。暗証番号を入力します。

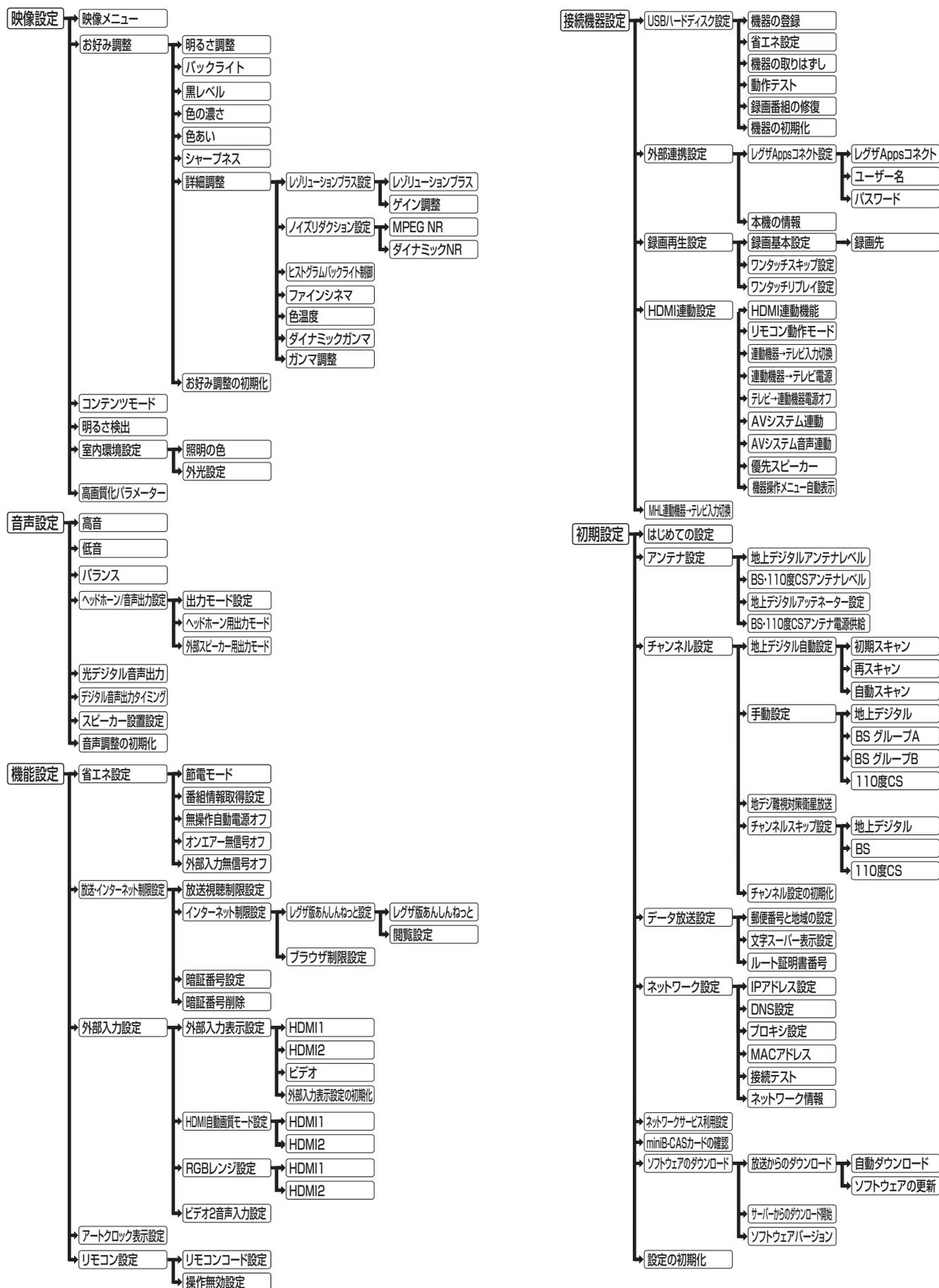
2 初期化する場合は◀▶で「はい」を選び、(決定)を押し



3 初期化終了の画面が表示されたら、電源を切る

設定メニュー一覽

- メニューに表示される項目や項目名、選択できる項目などは、設定状態や接続機器の有無などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄くなつて表示されます。
- 「映像設定」のメニューは、「映像メニュー」で「おまかせ」を選んでいる場合の内容です。



調整・設定をする

こんな場合は故障ではありません

悪天候でのBS・110度CSデジタル放送の受信障害

- 降雨や降雪などで電波が弱くなったときには、映像にノイズが多くなったり、映らなくなったりすることがあります。
- 天候が回復すれば正常に映るようになります。

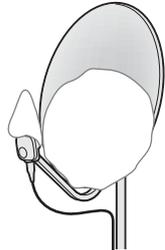
大雨が降っている



大雪が降っている



アンテナに雪が積もっている



放送が受信できません。

1. テレビ背面と壁面のアンテナ線の接続を確認してください
2. リモコンで見たい放送（**BS** **CS**）ボタンを押してください
3. リモコンの **音** ボタンを押してアンテナレベルを確認してください

コード：E202

現在放送されていません。

コード：E203

本機内部からの動作音

- 電源待機時に番組情報取得などの動作を開始する際、「カチッ」という音が聞こえることがあります。
- 「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえることがあります。

キャビネットからの「ピシッ」というきしみ音

- 「ピシッ」というきしみ音は、部屋の温度変化でキャビネットが伸縮するときに発生する音です。画面や音声などに異常がなければ心配ありません。

使用していないのに温まる

- 使用していない場合でも、番組情報取得などの動作をしているときなどは、本機の温度が多少上昇します。

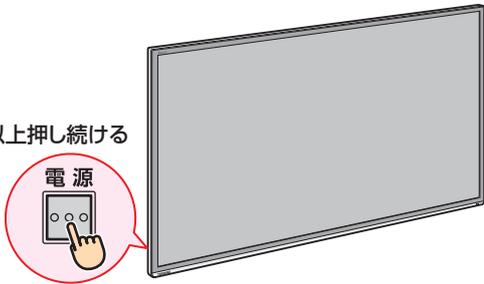
症状で調べる

症状に合わせて解決法を調べる

- テレビが正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
- 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 表の「ページ」の欄は関連事項が記載されているページです。

テレビが操作できなくなったときーテレビをリセットする

- リモコンでもテレビ本体の操作ボタンでも操作できなくなった場合は、以下の操作を試してみてください。

電源プラグを抜いてリセットする	本体の電源ボタンを長押ししてリセットする
<ol style="list-style-type: none"> 1 電源プラグをコンセントから抜く 2 1分間以上待つ 3 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる 	<ol style="list-style-type: none"> 1 テレビ本体の電源ボタンを押し続ける 8秒以上押し続ける  2 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す 32G9  40G9  50G9  <ul style="list-style-type: none"> ● しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。

操作

電源がはいらない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグが抜けていませんか。	• 電源プラグをコンセントに差し込みます。	—
「電源」表示が消えていませんか。	• 本体の電源ボタンを押して電源を入れます。 ※ 「電源」表示が消えているときは、リモコンで電源を入れることはできません。	27
「電源」表示が赤色に点滅していますか。	• 電源プラグをコンセントから抜き、一分以上たってからもう一度コンセントに差し込みます。	—

リモコンで操作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
リモコンとテレビ本体のリモコン受光部の間に障害物はありませんか。	• 障害物を取り除きます。 リモコン受光部の位置は、右記のページでご確認ください。	26
リモコンの乾電池が消耗していませんか。	• 新しい乾電池に交換します。	26
リモコンの乾電池の向き(+、-)が合っていますか。	• 向き(+、-)を確認し、正しく入れてください。	26
リモコンコードが変更されていませんか。	• リモコンとテレビ本体に同じリモコンコードを設定してください。	111
本体のボタンでは操作ができますか。	• 上記の対処をした上で、なおリモコンだけで操作ができない場合は、リモコンの故障が考えられます。	—

映像

放送の映像が出ない、またはきれいに映らない

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ線がはずれていたり、切れていたり、ショートしたりしていませんか。	• アンテナ線を確認して正しく接続します。 ※ 屋外の接続については、販売店にご相談ください。	24
アンテナ線プラグの芯線が曲がっていませんか。	• 確認して、まっすぐにします。(折らないようにご注意ください)	—
アンテナ線プラグの芯線が折れたり、短くなっていたりしていませんか。	• アンテナ線を交換します。	—
レコーダーなどを經由してアンテナ線を接続していませんか。	• アンテナ線を本機に直接接続して映像が出る場合は、本機の故障ではありません。 • アンテナ線を分配して接続します。	—
電波が弱くありませんか	• アンテナレベルを確認します。 • アンテナの向きを調整してみます。(販売店にご相談ください)	102
アンテナ線の差込みがゆるんでいたり、接触不良になっていたりしていませんか。	• 確認して、しっかりと接続します。	24
アンテナ線(端子)がさびていませんか。	• 販売店にご相談ください。	—

接続した機器の映像が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
機器が正しく接続されていますか。	• 確認して正しく接続します。	72
機器の電源がはいっていますか。	• 機器の電源を入れます。	—
接続した機器の入力に切り換えましたか。	• リモコンの[入力切換]で、外部機器を接続した入力端子を選びます。	42

症状に合わせて解決法を調べる つづき

画面が暗い、または暗くなるときがある

確認すること	解決法・その他	ページ
部屋の明るさに合った適切な映像メニューや調整になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 明るい部屋では、「あざやか」や「おまかせ」を選択してみます。 「バックライト」や「明るさ調整」で適切な明るさに調整します。 	<p>96</p> <p>97</p>
映像メニューが「おまかせ」の場合、明るさセンサーの前に障害物はありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 明るさセンサーの前から障害物を取り除きます。 ※映像メニューが「おまかせ」の場合は、明るさセンサーで検出した周囲の明るさに合わせて、画面の明るさが自動調整されます。 	16

色がおかしい

確認すること	解決法・その他	ページ
お好みの映像メニューや映像調整になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 視聴している番組や映像に合わせて、お好みの映像メニューを選択します。 お好みの映像に調整することもできます。 	96

音声

音が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
音量が最小になっていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> で音量を上げます。 	31
画面に「消音」マークが表示されていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> を押すと消音を解除できます。 (でも解除されます) 	31
「外部スピーカーで聴く」になっていませんか。	サブメニューの「スピーカー切替」で「テレビのスピーカーで聴く」に設定します。	47

地上デジタル放送

地上デジタル放送が映らない、または映像が乱れる

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナレベルが推奨値以下ではありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> サブメニューの「その他の操作」の「アンテナレベル表示」でアンテナレベルを確認します。 ※推奨値よりも低い場合は、放送を受信できない場合があります。お買い上げの販売店にご相談のうえ、アンテナの向きを確認・調整してください。 	102
「初期スキャン」をしましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 「初期スキャン」をします。 	104
お住まいの地域は地上デジタル放送の受信可能エリアですか。	社団法人デジタル放送推進協会のホームページ(www.dpa.or.jp/)で確認することもできます。	—
共聴システムやCATVをご利用の場合、地上デジタル放送のパススルー方式に対応していますか。	<ul style="list-style-type: none"> CATVの場合はご契約のCATV会社に、その他の場合は共聴システムの管理者にお問い合わせください。(CATVがパススルー方式でない場合はCATV用チューナーが必要な場合があります) 	—

引越しをしたら、地上デジタル放送が映らなくなった

確認すること	解決法・その他	ページ
引越し後、「初期スキャン」または「再スキャン」をしましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 県外に引越しをした場合は、「初期スキャン」をします。 県内で引越しをした場合は、「再スキャン」をします。 	104

BS・110度CSデジタル放送

BS・110度CSデジタル放送が映らない、または映像が乱れる

確認すること	解決法・その他	ページ
アンテナ接続に分配器を使用していますか。	<ul style="list-style-type: none"> 分配器は「全端子通電型」を使用します。 	25
有料放送ではありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 有料放送を視聴するには契約が必要です。視聴の申込みや視聴料金などについては、放送事業者にご相談ください。 ※ 同梱の「ファーストステップガイド」をご覧ください。 	—
マンションなどで、壁のアンテナ端子が一つだけになっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 視聴できる放送の種類についてマンションなどの管理会社にご確認ください。 ご自身で確認する場合は、アンテナ線を本機のBS・110度CSアンテナ入力端子に直接接続してみます。(地上デジタル放送を確認する場合は、地上デジタルアンテナ入力端子へ) BS・110度CSデジタル放送と地上デジタル放送の両方が受信できる場合は、分波器を使用してアンテナ線をBS・110度CSアンテナ入力端子と地上デジタルアンテナ入力端子に接続します。 	25

番組表

番組表に内容が表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
電源プラグを抜いていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをコンセントに差し込んでおきます。 「番組表を更新する」の操作をします。 	— 36

番組表の文字が小さい

確認すること	解決法・その他	ページ
—	<ul style="list-style-type: none"> 番組表を表示中に  を押すと、文字の大きさを変更することができます。 	37

放送局のすべてのチャンネルが表示されない

確認すること	解決法・その他	ページ
「1チャンネル表示」にいませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 番組表のサブメニューで「マルチ表示」を選択します。 	37
「チャンネルスキップ設定」で「スキップ」に設定していませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 「チャンネルスキップ設定」で「受信」に設定します。 	106

お知らせアイコン が消えない

確認すること	解決法・その他	ページ
「お知らせ」の内容を確認しましたか。	<ul style="list-style-type: none"> サブメニューの「その他の操作」⇒「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 未読のお知らせが1件でも残っていると、アイコンは消えません。 	125

症状に合わせて解決法を調べる つづき

録画・再生

USBハードディスクが使用できない(認識されない)

確認すること	解決法・その他	ページ
本機で接続確認済のUSBハードディスクですか。	<ul style="list-style-type: none"> 本機で接続確認済のUSBハードディスクはホームページ www.toshiba.co.jp/regza/ でお知らせしています) ※ 本機で接続確認済の機器でない場合は、使用できないことがあります。 	—
機器が正しく接続されていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「USBハードディスクを接続する」に従って、正しく接続します。 	51
機器の電源がはいっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> USBハードディスクの電源を入れます。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。 	—
機器が本機に登録されていますか。	<ul style="list-style-type: none"> USBハードディスクを本機に登録します。 	52
USBハブを使用している場合、本機で使用できるようになっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)でUSBハブが推奨機器であることを確認します。 ※ 推奨機器でない場合は使用できないことがあります。「USBハードディスクを接続する」の「お知らせ」をご覧ください。 ※ USBハードディスクは専用のACアダプターを接続してご使用ください。 	—

録画ができない、または録画されなかった

確認すること	解決法・その他	ページ
USBハードディスクの残量が足りていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 残量を確認する。 不要な番組を削除する。 「自動削除設定」を「削除する」に変更する。 	68 67
コピー禁止の番組ではありませんか	<ul style="list-style-type: none"> 録画はできません。 	—
外部入力からの番組、独立データ放送番組、外部機器からの映像、ネットサービスの映像などではありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 本機は左記の番組や映像の録画には対応しておりません。 	—
予約した番組の放送時間が繰り上げられませんでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> 本機は放送時間が繰り上げられた番組の録画はできません。 ※ 「詳細設定」の「放送時間」を「連動する」に設定した場合でも、放送時間の繰り上げには対応できません。 	—
連ドラ予約の場合、「追跡基準」、「追跡キーワード」は正しく設定されていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「詳細設定」で「追跡キーワード」を正しく設定します。 ※ 1回限りのキーワード(「第〇〇話」や出演者名など)を削除します。 	59
「お知らせ」のアイコンが表示されていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> サブメニューの「その他の操作」⇒「お知らせ」で内容を確認します。 ※ 番組の重複や、放送時間の変更などで録画できなかった場合は、「本機に関するお知らせ」が発行されます。 	125

録画した番組が消えた

確認すること	解決法・その他	ページ
「自動削除設定」が「削除する」になっていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 「自動削除設定」を「削除しない」に設定する。 または、消したくない番組を保護する。 	67
録画中に電源プラグや接続ケーブルを抜きましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 録画中や録画設定をしたときは電源プラグを抜かない。 ※ 左記の場合、録画中の番組は残りません。また、録画したすべての番組が消えることがあります。 「録画番組を修復する」の操作をすれば、録画された内容を再生できるようになることがあります。 	— 65

ほかのレグザで再生できない

確認すること	解決法・その他	ページ
—	<ul style="list-style-type: none"> USBハードディスクに録画した番組は、録画したテレビでしか再生できません。(同じ形名のほかのテレビでも再生できません) 	—

レグザリンク機能(HDMI連動)

機器を接続しても連動動作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> HDMIロゴ表示のついた規格に合ったHDMIケーブルで正しく接続します。 ※ はじめてレグザリンク対応のHDMI連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。 	<p>72</p> <p>73</p>
推奨機器(対応機器)ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ www.toshiba.co.jp/regza/ でお知らせしています。 ※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。本機のリモコンで操作できないときは、接続機器のリモコンで操作してください。 	—
本機と接続機器の設定は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> 接続機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください) 本機の「接続機器設定」にある「HDMI連動機能」を確認します。 	—

オーディオ機器に接続されているスピーカーから音が出ない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続機器側の設定は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> オーディオ機器側の連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください) 	—
本機の設定やスピーカーの選択は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> 「HDMI連動設定」の「AVシステム連動」を「使用する」に設定します。また、「HDMI連動設定」の「優先スピーカー」を「AVシステムスピーカー」に設定しておく、オーディオ機器の電源が「入」のときは、オーディオ機器のスピーカーから音が出ます。 サブメニューの「スピーカー切替」で「AVシステムのスピーカーで聴く」に切り換えます。 	<p>79</p> <p>47</p>

クラウドサービスやネットワークサービスが利用できない

確認すること	解決法・その他	ページ
プロバイダーなどとのインターネット利用契約はお済みですか。	<ul style="list-style-type: none"> 契約、費用などについては、プロバイダーまたはお買い上げの販売店にご相談ください。 	—
接続や設定は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> 確認して、正しく接続・設定します。 	<p>84</p> <p>87</p>
ルーターから機器に対してプライベートアドレスが割り当てられるようになっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ルーターの取扱説明書を参照し、プライベートアドレスが機器と本機に割り当てられるように設定します。 	—
本機のネットワーク設定はIPアドレスを自動取得する設定になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「IPアドレス自動取得」を「する」に設定します。 	85
ネットワークサービス利用設定を「利用する」にしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「利用する」に設定します。 	86
本機のソフトウェアバージョンが該当のクラウドサービス(機器側の機能へのリンクや、他社サービスを除く)を利用できるソフトウェアバージョンですか。	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアのバージョンによっては、ご利用いただけないサービスがあります。クラウドサービスについて、詳しくは、ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/regza/)をご覧ください。 ※ 「インターネット」を利用しているときに、本機の電源状態を「切」にしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。クラウドメニューの更新に失敗する可能性があります。クラウドメニューが正しく表示されない場合、本機を初期化すると、正しく表示されるようになります。 	<p>—</p> <p>88</p>

症状に合わせて解決法を調べる つづき

PPPoE設定ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
—	<ul style="list-style-type: none"> 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。(設定にはパソコンが必要です)。 	87

IPアドレスが取得できない

確認すること	解決法・その他	ページ								
IPアドレスの表示が空欄ですか。	<ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 上記の確認でIPアドレスが取得できていない場合(すべて空欄になっている場合)は以下を確認をします。 <ol style="list-style-type: none"> ① 本機とルーターが接続されているか確認する ② ルーターのアクセスランプ(ルーターのLANポートにある小さなランプ)が点滅しているか確認する(正常に通信できていればランプが点滅します) ③ ルーターに他のネットワーク機器(パソコンなど)があるときは、機器からインターネット接続が可能か確認する <ul style="list-style-type: none"> 接続しているときに可能であれば、以下のテストをします 機器に接続されているLANケーブルを本機に接続し、接続テストをする 接続できたとき 最初に本機と接続されていたLANケーブルまたはルーターの不具合の可能性が高いです。 接続できなかったとき ルーター、LANケーブルに問題がある可能性は低いです。 ④ インターネット接続可能なほかの機器(パソコンなど)のIPアドレスを確認し、本機のIPアドレスを手動で設定する ⑤ クラウドサービスなど、ネットワークを利用する機能が使用できるか確認する <ul style="list-style-type: none"> 上記の確認をしても接続できない場合は、本機をリセットします。 	85								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リセットのしかた</th> <th>操作で対処したいとき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 電源プラグをコンセントから抜く</td> <td>① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける</td> </tr> <tr> <td>② 1分間以上待つ</td> <td>② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す</td> </tr> <tr> <td>③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる</td> <td>③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。</td> </tr> </tbody> </table>	リセットのしかた	操作で対処したいとき	① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける	② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す	③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。	114
リセットのしかた	操作で対処したいとき									
① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける									
② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す									
③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。									
	<ul style="list-style-type: none"> リセットをしても接続できない場合は、本機の初期化をします。 上記の確認をすべてしても接続できないときは、東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。 	112								

IPアドレスが取得できているのに接続できない

確認すること	解決法・その他	ページ								
取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> お使いのルーターは、ブロードバンドルーターか確認します。 「ネットワーク設定」の「IPアドレス設定」を確認します。 取得しているIPアドレスが「192.168.～」から始まっていればルーターから正常にアドレスを取得できています。クラウドサービスなど、ネットワークを利用する機能が使用できるか確認します。接続できずエラーメッセージで「DNSからの応答がありません」と表示される場合は、ルーターにPPPoE設定が必要なため、ご契約の回線事業者(NTT東日本、NTT西日本など)にご相談ください。 「169.254.～」から始まっているときは、本機がルーターからのIPアドレスの取得に失敗しています。その場合は、以下の操作をしてみてください。 <ul style="list-style-type: none"> ルーターを再起動する。 本機をリセットする 	85								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リセットのしかた</th> <th>操作で対処したいとき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 電源プラグをコンセントから抜く</td> <td>① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける</td> </tr> <tr> <td>② 1分間以上待つ</td> <td>② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す</td> </tr> <tr> <td>③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる</td> <td>③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。</td> </tr> </tbody> </table>	リセットのしかた	操作で対処したいとき	① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける	② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す	③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。	114
リセットのしかた	操作で対処したいとき									
① 電源プラグをコンセントから抜く	① テレビ本体の電源ボタンを押し続ける									
② 1分間以上待つ	② 本体前面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す									
③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる	③ しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。									
	<ul style="list-style-type: none"> 本機のIPアドレスを確認する 	85								

エラーメッセージが表示されたとき

● 代表的なエラーメッセージについて説明しています。

全般

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「電波の受信状態が良くありません。サブメニューから降雨対応放送に切り換えられます。コード：E201」	気象条件などによって信号レベルが下がり、降雨対応放送切換が可能な状態になった。	降雨対応放送に切り換えることができません。	45
「放送が受信できません。 1. テレビ背面と壁面のアンテナ線の接続を確認してください 2. リモコンで見たい放送(【地デジ】【BS】【CS】)ボタンを押してください 3. リモコンの【青】ボタンを押して、アンテナレベルを確認してください コード：E202」	<ul style="list-style-type: none"> アンテナが放送に適合していない。 アンテナ線がはずれたり、切れたりしている。 アンテナの方向ずれや故障。 BS・110度CSアンテナの場合、アンテナ電源が供給されていない。 電波が弱くて視聴できない。 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない。 ※ 放送が休止中の場合も表示されることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> 放送に適合したデジタル放送用アンテナであることを確認します。 アンテナとアンテナ線の状態や接続を確認します。(販売店にご相談ください) BS・110度CSアンテナに電源が供給されるようにします。 	24 25 103
「現在放送されていません。 コード：E203」	選局したチャンネルでの放送が休止中、または放送が終了している。 ※ 雨や雷、雪などの気象条件によって一時的に受信できない場合も表示されることがあります。	番組表などで放送時間を確認します。	—
「該当するチャンネルはありません コード：E204」	放送のないチャンネルを選局した。	番組表などでチャンネルを確認します。	—
「miniB-CASカードが挿入されていません。カードを挿入している場合には取扱説明書の『miniB-CASカードを挿入する』を見ながら向きと裏表を確認して、もう一度奥まで入れ直してください。」	<ul style="list-style-type: none"> miniB-CASカードが挿入されていない。 miniB-CASカードが正しく挿入されていない。 miniB-CASカードが抜けている。 	miniB-CASカードを正しく挿入します。	21
「miniB-CASカードが認識できません。カードの接点に汚れがある場合には取扱説明書の『miniB-CASカードを挿入する』を見ながら汚れをふき取ってください。」	miniB-CASカードが接触不良を起こしている。	miniB-CASカードをカチッと音が鳴るまで押し取り出し、金色端子部に汚れが無いか確認し、乾いた布でふき取り、もう一度入れ直します。	21
「このカードはご使用になれません。カードをご確認ください。」	無効なminiB-CASカードが挿入されている。	付属のminiB-CASカードの所有権は、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にあります。認識しないなど、破損した場合の再発行については、付属のminiB-CASカード台紙の記載されている、ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ社にお問い合わせください。	—

エラーメッセージが表示されたとき っつき

USBハードディスクに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「機器に接続できません。」	接続ケーブルがはずれている。	接続を確認します。	—
	USBハードディスクの電源が切れている。	USBハードディスクの電源を入れます。	—
	USBハードディスクにエラーが発生した。	USBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「再生できません。」	視聴制限のある番組を録画した。	「放送視聴制限設定」で、録画した番組が視聴できる設定にします。	109
	録画中になんらかの原因でコピーワンスなどの情報が破損した。	再生できません。	—
	再生時にテレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。または、接続ケーブルがはずれてしまった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。また、接続を確認します。	—
「録画機器のエラーにより録画を中止しました。詳しくは取扱説明書をご覧ください。」	テレビとUSBハードディスクと通信に障害があった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「録画機器のエラーにより指定した録画品質で録画できません。」	テレビとUSBハードディスクの通信に障害があった。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
	USBハードディスクにエラーが発生した。	テレビとUSBハードディスクの電源を入れ直してみます。	—
「情報取得中にエラーが発生しました。」	録画した番組が正常に保存されなかった。	「録画番組を修復する」の操作をしてみます。	65
「USB端子の電源容量を越えました。接続機器をはずし、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れてください。」	USBバスパワーで動作するUSBハードディスクを本機に接続し、使用電力が本機の供給限界を超えた。	以下の手順で復帰させます。 ① 本体の電源ボタンで電源を切る ② USBハードディスクの接続ケーブルを抜く ③ 本機の電源プラグをコンセントから抜き、約10秒後に差し込む ④ 本機の電源を入れる ⑤ USBハードディスクを接続する ※ 再び同じエラーメッセージが表示される場合は、USBハードディスクにACアダプターを接続してください。	—

東芝レコーダーに録画・予約をするときのエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「録画機器で設定が変更されました。録画機器で設定内容をご確認ください。」	レコーダー側で録画設定が変更されている。	レコーダーで録画設定の内容を確認します。	—
「録画機器の動作により設定できません。しばらく待ってからもう一度操作してください」	レコーダーの動作との競合(何らかの操作、動作、表示をしている)がある。	しばらくしてからやり直すか、または、レコーダーの操作などを中止します。	—
「録画機器の予約数がいっぱいです。」	レコーダーの予約数が制限を超えている。	レコーダーで予約を取り消します。	—
「指定した時刻情報では予約を設定できません。」	レコーダーが対応していない形式で時刻を設定した。	指定できる時刻の形式をレコーダーの取扱説明書で確認します。	—
「録画機器の予約時間と重複するため、設定できません。」	レコーダー側の予約と、本機からの予約時間が重なっている。	レコーダーで予約している時間帯は、本機からの予約はできない場合があります。	—
「録画機器に時刻が設定されていません。」	レコーダーの時刻設定をしていない。	レコーダーの時刻設定をします。	—
「予約を設定できませんでした。」 または 「録画を設定できませんでした。」	レコーダーの電源プラグが抜けている。	レコーダーの電源プラグをコンセントに差し込みます。	—
	レコーダーが正しく接続されていない。	本機とレコーダーを正しく接続します。HDMIケーブルは、規格に合ったケーブルを使用してください。	72 73

LAN端子を使った通信に関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「サーバーと通信できませんでした。詳しくは取扱説明書をご覧ください。」	サーバーからのソフトウェア・ダウンロードに失敗した。	接続・設定の状態を確認します。	84頁 87頁
	回線が混みあっている。	しばらくたってから、もう一度操作します。	—
「本機にルート証明書が設定されていないため、サーバーに接続できません。」	本機にルート証明書が設定されていない。	ルート証明書番号を確認し、東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	107頁
「現在設定されているルート証明書ではサーバーの安全性を確認できないため、接続できません。」	ルート証明書は本機内に設定されているが、接続先のサーバー証明書との検証ができない。	ルート証明書番号を確認し、正しいルート証明書であるかを東芝テレビご相談センター(裏表紙参照)にお問い合わせください。	107頁
「現在設定されているルート証明書の有効期限が切れているため、サーバーに接続できません。」	ルート証明書の有効期限が切れている。		
「サーバーの証明書の有効期限が切れているため、接続できません。」	接続先の証明書が有効期限切れになっている。	接続先の安全性に問題があります。本機は、一部の接続先については、安全性の確認ができない場合、接続は行われません。(本機の動作は正常です)	—
「サーバーの証明書には表示するページの名前が含まれていないため、接続できません。」	サーバー証明書に表示しようとしているページの名前がない。		
「サーバーの証明書の不正が検出されたため、接続を中断します。」	接続先の証明書が改ざんされている。		
「サーバーの証明書に問題があるため、接続を中断します。」	認証エラーが発生した。		

インターネットに関するエラー表示

画面に出るエラー表示	考えられる原因など	対処のしかた・その他	ページ
「アドレスが正しくありません。」	<ul style="list-style-type: none"> 処理できないスキーム(ftp, mailto, fileなど)を開こうとした。 	<ul style="list-style-type: none"> URLを確認します。正しいURLを入力しても同様のメッセージが表示される場合、このページを見ることはできません。 	—
「サーバが見つかりません。」	<ul style="list-style-type: none"> HTTPリクエスト、リゾルブ中にDNSサーバーが見つからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク設定」の「DNS設定」が正しく設定されているか確認します。 	85頁
「サーバからの応答に含まれている認証パラメータが正しくありません。」	<ul style="list-style-type: none"> 認証の際にHTTPヘッダが不正である。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の原因でこのページを表示できません。(もう一度接続しても同様の場合は、このページを見ることはできません) 	—
「サーバからの応答が正しくありません。リダイレクトできません。」	<ul style="list-style-type: none"> リダイレクトの際にHTTPヘッダが不正である。 		
「ページの安全性を確認できません。サーバが証明書をサポートしていません。接続しますか?」	<ul style="list-style-type: none"> 証明書認証時にブラウザの証明DBに発行元のルートCA証明書がない。 	<ul style="list-style-type: none"> このページが安全であることを確認できませんでした。問題があるかわからない場合は、「キャンセル」を選びます。「OK」を選んだ場合は、そのままページが表示されます。 	—
「ページの安全性を確認できません。ルートCA 証明書の有効期限が切れています。接続しますか?」	<ul style="list-style-type: none"> ルートCA証明書の有効期限が切れている。 		
「ページの安全性を確認できません。サーバ証明書のCN(一般名)がホスト名と一致しません。接続しますか?」	<ul style="list-style-type: none"> サーバ証明書のCN(一般名)がホスト名と一致しない。 		
「ページの安全性を確認できません。サーバ証明書の有効期限が切れています。接続しますか?」	<ul style="list-style-type: none"> サーバ証明書の有効期限が切れている。 		
「メモリ不足のため、コンテンツを表示できませんでした。」	<ul style="list-style-type: none"> 極度のメモリ不足状態から強制復帰した。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のウィンドウを閉じて「再読み込み」をします。「再読み込み」をしても同様のメッセージが出る場合は、このページを見ることはできません。 	—
「ページがありません。」	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツが見つからなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> このページを見ることはできません。 	—

これらの症状で訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアの更新機能について

- 本機は、内部に組み込まれたソフトウェア(制御プログラム)で動作するようになっています。
- お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、ソフトウェアを更新する場合があります。
- 更新用のソフトウェアはBSデジタルや地上デジタルの放送電波で送られてきます。本機は、放送電波で送られてくる更新用のソフトウェアを自動的にダウンロードし、内部ソフトウェアを自動的に更新する機能を備えています。
- ソフトウェアダウンロード情報をホームページ(<http://www.toshiba.co.jp/regza/support/>)でお知らせしています。
 - ・ 放送電波を利用したソフトウェアのダウンロードは、都度、限られた日時に行われます。
- 電源プラグが抜かれていたなどの事情で自動ダウンロードができなかった場合は、都合のよいときにインターネットを利用して東芝サーバーから更新用のソフトウェアを入手することができます。

放送電波で送信されるソフトウェアをダウンロードする

自動ダウンロードの設定をする

- 「自動ダウンロード」の設定を「ダウンロードする」(お買い上げ時の設定)にしておき、日常的にデジタル放送を視聴し、視聴しないときにも電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておけば、特別に意識する必要はありません。常に最新のソフトウェアで使うことができます。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「放送からのダウンロード」⇒「自動ダウンロード」の順に進む

2 ▲・▼で「ダウンロードする」または「ダウンロードしない」を選び、**決定** を押し

- **青** を押せば、自動ダウンロードの日時を一覧で確認することができます。

用語

- **ダウンロード**
放送波やインターネットを使って、ソフトウェアなどを端末(この場合は本機)に転送することです。

お知らせ

- 更新用のソフトウェアがある場合は、ダウンロード情報が放送電波で送られます。本機は、BSデジタル放送または地上デジタル放送を視聴しているときにダウンロード情報を取得します。(情報を確認する操作はありません)
- 更新用ソフトウェアの自動ダウンロードと自動更新は、本機の電源が「待機」(リモコンで電源を切った状態)のときに行われます。
- 電源プラグがコンセントから抜かれていると、自動ダウンロードができないため、ソフトウェアの自動更新は行われません。
- ダウンロードによって、一部の設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったり、予約やお知らせが削除されたりする場合があります。
- 悪天候などでダウンロードが取り消された場合は、「本機に関するお知らせ」でお知らせします。

東芝サーバーからダウンロードする

- インターネットを利用して東芝サーバーからソフトウェアをダウンロードし、本機内部のソフトウェアを更新することができます。
- インターネットへの接続と設定(**84**頁～**87**頁)が必要です。

1 **設定** を押し、▲・▼と **決定** で「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「サーバーからのダウンロード開始」の順に進む

- ソフトウェア更新が始まります。
- ソフトウェアの更新中は操作できません。そのまま終了するまでお待ちください。

2 「ソフトウェアを更新しました。」のメッセージが表示されたら、**決定** を押し

- 電源が「待機」になってから再び「入」になり、通常の視聴ができるようになります。

ソフトウェアのバージョンを確認するには

1 **サブメニュー** を押し、▲・▼と **決定** で「その他の操作」⇒「ソフトウェアバージョン」の順に進む

- **設定** 「初期設定」⇒「ソフトウェアのダウンロード」⇒「ソフトウェアバージョン」でも確認できます。
- ソフトウェアのバージョンが表示されます。



お知らせ

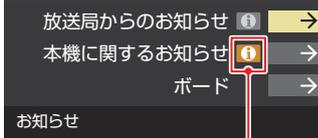
- **東芝サーバーからのダウンロードについて**
 - 回線の速度が遅いと正しくダウンロードできないことがあります。このとき、「通信エラー」が表示されます。サーバーが一時的に停止していることもありますので、インターネットへの接続や設定を確認し、しばらくたってからもう一度ダウンロードしてみてください。

お知らせを見る

- お知らせには、「放送局からのお知らせ」、「本機に関するお知らせ」、「ボード」の3種類があります。
- 未読のお知らせ（「ボード」を除きます）があると、チャンネル切替時や画面表示を押したときに、画面に「お知らせアイコン」が表示されます。**134**

1 サブメニューを押し、▲・▼と(決定)で「その他の操作」⇒「お知らせ」の順に進む

2 ▲・▼でお知らせの種類を選び、(決定)を押す



未読のお知らせはオレンジ色で表示されます。

- 放送局からのお知らせ…デジタル放送局からのお知らせです。
- 本機に関するお知らせ…本機が発行したお知らせです。
- ボード……………110度CSデジタル放送の視聴者に向けたお知らせです。

3 読みたいお知らせを▲・▼で選び、(決定)を押す

- 選択したお知らせの内容が表示されます。

画面に「本機のお知らせを確認」が表示されたときは



1 を押す

- 「本機に関するお知らせ」が表示されます。
- お知らせが複数件ある場合は、「本機に関するお知らせ」一覧が表示されます。▲・▼で確認するお知らせを選び、(決定)を押して表示させます。

「本機に関するお知らせ」を削除するには

※ 削除できるのは「本機に関するお知らせ」のみです。

1 「本機に関するお知らせ」の画面で、を押す

2 ◀・▶で「はい」を選び、(決定)を押す

※ 本機に関するお知らせがすべて削除されます。



■ 「お知らせ」について

- 「放送局からのお知らせ」は、地上デジタル放送が7通まで記憶され、BSデジタル放送と110度CSデジタル放送は、合わせて24通まで記憶されます。放送局の運用によっては、それより少ない場合もあります。記憶できる数を超えて受信した場合は、古いものから順に削除されます。
- 「本機に関するお知らせ」は、既読の古いものから順に削除される場合があります。
- 「ボード」は110度CSデジタル放送のそれぞれに対し、今送信されているものが50通まで表示されます。
- 「お知らせアイコン」は、未読のお知らせが1件でも残っていると表示されます。

お手入れについて



注意

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。



お手入れの際のご注意

ベンジン・アルコールなどは使わない

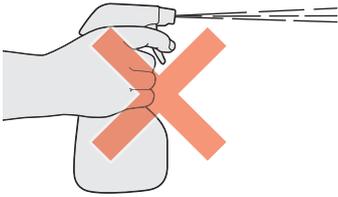
- ベンジン・アルコールなどの揮発性のもののほか、アセトンなどケトン類やキシレン、トルエンなどの溶剤は使わないでください。キャビネットや画面(液晶パネル)が溶けたり、破損したりするおそれがあります。
- クレンザーなど、研磨剤が含まれた洗剤は使わないでください。表面が傷つきます。

化学ぞうきんやウェットタイプのクリーニングクロス/クリーニングペーパーなどは使わない

- 含まれている成分によっては、キャビネットや画面の表面が溶けたり、破損したりするおそれがあります。

水やスプレータイプの洗剤などを直接かけない

- 洗剤などの液体がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



ぬれた手でお手入れをしない

- ぬらした布などを絞ってお手入れをするときは、手についた水滴をよくふき取ってください。水滴がテレビの内部に垂れたり、しみこんだりすると、故障の原因になります。



画面のお手入れは特にやさしく

- 画面の表面は樹脂でできています。固い布や紙でふいたり、強くこすったりすると表面が傷つき、映像の品位が低下します。やさしくふくようにしてください。
- 画面の内面はガラスでできています。たたいたり、押ししたりして力を加えると、画面が割れてテレビが見られなくなってしまいます。やさしく取り扱ってください。
- ※ ふだん、小さなお子様などが画面に触れたり、たたいたりしないようご注意ください。

キャビネットと画面のお手入れ

1 キャビネットや画面に付着しているゴミ、ホコリを払う

- 柄つきの柔らかいモップなどで、やさしく払ってください。
- ※ ゴミやホコリがついたままでふいたり、こすったりすると、表面が傷ついてしまいます。

2 乾いた脱脂綿または柔らかい布(綿、ガーゼなど)でやさしくふき取る

よごれが落ちにくいときは

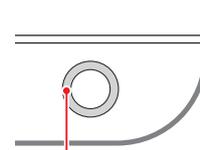
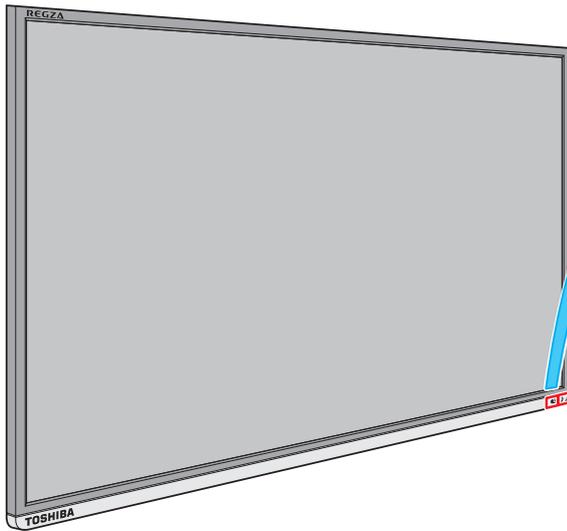
- 水で1000倍程度に薄めた中性洗剤(中性洗剤1ミリリットルあたり1リットルの水で薄める)に脱脂綿または柔らかい布を浸してから固く絞る、よごれをやさしくふき取ってください。そのあと、乾いた脱脂綿または柔らかい布で水分をふき取ってください。



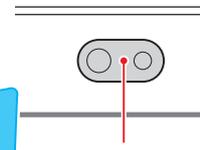
- ※ 手に水滴がついているときは、テレビに触れる前にふき取ってください。
- ※ 洗剤が濃いと画面などに残ってしまいます。その場合は、水だけで固く絞った脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。
- ※ 画面をぬらしたまま放置しないでください。吸湿劣化やシミの原因になることがあります。水分が残っているときは、乾いた脱脂綿または柔らかい布でやさしくふき取ってください。

Basic Operations

[TV Front Panel]



Power on (Green) / Standby (Red)

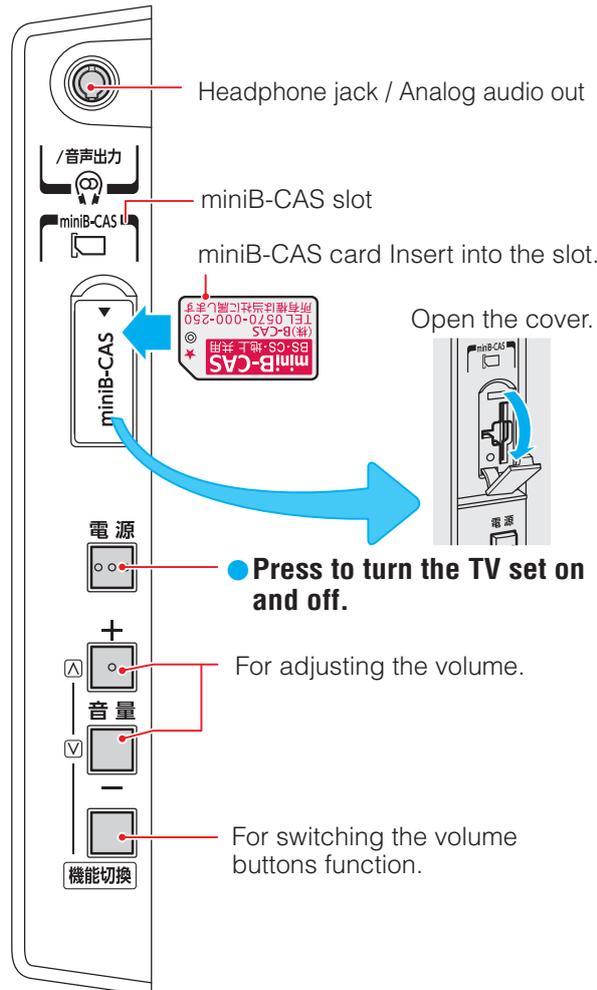
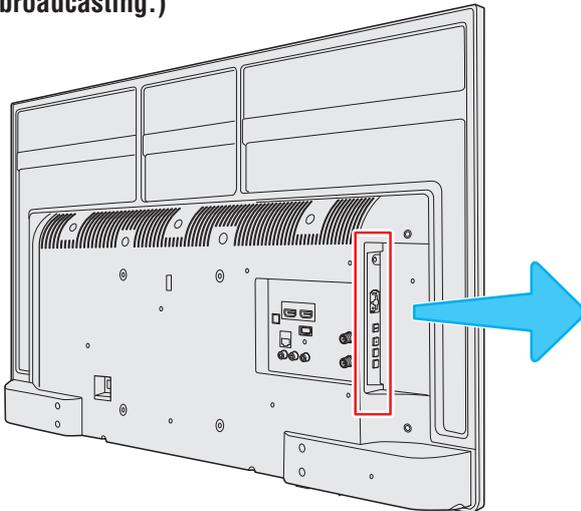


Remote Control sensor

- For optimum performance, aim the remote control DIRECTLY at the TV remote sensor. (within 16 ft from the TV set)

[TV Rear Panel]

- To view digital broadcasting programs, insert the miniB-CAS cards into the card slots. (Without miniB-CAS cards, you CANNOT receive digital broadcasting.)



Headphone jack / Analog audio out

/音声出力

miniB-CAS slot

miniB-CAS

miniB-CAS card Insert into the slot.



Open the cover.



- Press to turn the TV set on and off.

For adjusting the volume.

For switching the volume buttons function.

● For more information on operations, safety instructions, maintenance, etc, please contact your local dealer.

[Remote controller]

Input selection button — 入力切換

Power button (ON/STANDBY) — 電源

● For selecting Digital terrestrial broadcasting programs. — デジ

● For selecting Digital satellite broadcasting programs. — BS CS

● For selecting program channels. — 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

Channels sequential access button (Up / Down) — 入力

Sound volume adjustment button — 音量

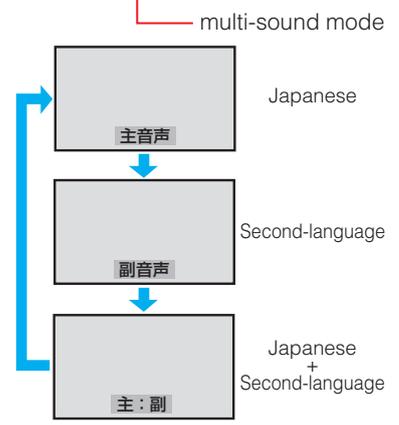
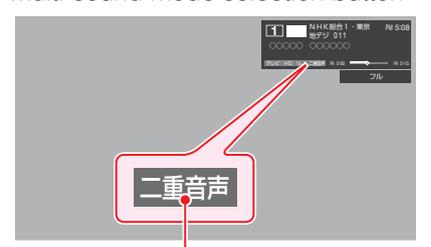
● For exiting menus or EPG mode. — 決定

● For returning to the previous screen when in menu or EPG mode. — 戻る

EPG button — EPG button

● For accessing to the Electronic Program Guide (EPG). EPG provides you with a chart of the schedule of all available digital channels. — 番組表

Multi-sound mode selection button — 二重音声



その他

仕様

種 類	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ			
形 名	32G9	40G9	50G9	
受信機型サイズ	32V	40V	50V	
電 源	AC 100V 50/60Hz共用			
消費電力	70W 電源「待機」時 0.3W、 電源「切」時 0.3W、 (機能動作時 15W) ^{※1}	82W 電源「待機」時 0.3W、 電源「切」時 0.3W、 (機能動作時 16W) ^{※1}	103W 電源「待機」時 0.3W、 電源「切」時 0.3W、 (機能動作時 16W) ^{※1}	
年間消費電力量 [標準] 時	55kWh/年	63kWh/年	73kWh/年	
区 分 名	DN1 (FHD以外、液晶ノーマル、 付加機能1)	DF1 (FHD、液晶ノーマル、付加機能1)		
スタンドを含む 外形寸法 ()は本体のみ	幅	73.4(73.4)cm	92.7(92.7)cm	112.2(112.2)cm
	高さ	48.9(43.8)cm	58.8(54.9)cm	70.1(66.1)cm
	奥行	18.0(8.4)cm	19.4(6.8)cm	21.6(7.3)cm
スタンドを含む質量 ()は本体のみ	7.0(6.0)kg	10.0(9.5)kg	16.5(16.0)kg	
液晶画面	画面寸法	幅69.8cm、高さ39.2cm、 対角80.0cm	幅88.6cm、高さ49.8cm、 対角101.6cm	幅109.6cm、高さ61.6cm、 対角125.7cm
	駆動方式	TFTアクティブマトリクス		
	画素数	水平1366×垂直768	水平1920×垂直1080	
受信チャンネル	地上デジタル：VHF(1~12)、UHF(13~62)、CATV(C13~C63) BSデジタル：BS000~BS999、110度CSデジタル：CS000~CS999			
スピーカー	4.0cm×12.0cm 2個			
音声出力	実用最大出力 7W+7W (総合音声出力 14W)(JEITA)			
入力・出力端子	HDMI 1 / 2 入力	HDMI (Lip Sync、ARC) ^{※2}		
	ビデオ入力	映像(ピンジャック)：1V(p-p)、75Ω、同期負 音声(ピンジャック)：200mV(rms)、22kΩ以上		
	USB(録画専用)端子	USB2.0		
	光デジタル音声出力	トスリンク		
	ヘッドホン/音声出力端子	口径3.5mmステレオミニジャック、音声出力：最大2V (rms)、10kΩ以上		
	LAN 端子	RJ-45		
MHL 端子	MHL1 (HDMI入力2兼用)			
使用環境条件	温度：0℃~35℃、相対湿度：20%~80% (結露のないこと)			
付属品	「付属品を確認する」() をご覧ください。			

※1：電源「待機」時または電源「切」時に以下の動作をしているときの消費電力です。

- ・番組情報などを取得しているとき

※2：ARC機能はHDMI入力1端子のみ対応しています。

インターネットブラウザの仕様

記述言語	HTML5.01, XHTML1.1, XHTML Basic
動作記述言語	ECMAScript (ECMA-262 3rd Edition)
DOM	DOM1.0, DOM2.0
Ajax	XMLHttpRequest
スタイルシート	CSS1.0, CSS2.0
セキュア通信	SSL3.0, TLS1.0, TLS1.1, TLS1.2
プラグイン	なし

- 意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更することがあります。
- 受信機型サイズ(40Vなど)は、有効画面の対角寸法を基準とした大きさの目安です。
- このテレビを使用できるのは日本国内だけで、外国では放送方式、電源電圧が異なるため使用できません。
(This television set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.)
- 本商品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材質名表示をしています。
- 本商品の改造は感電、火災などのおそれがありますので行わないでください。
- イラスト、画面表示などは、見やすくするために誇張や省略などで実際とは多少異なります。
- 省エネルギーのため長時間テレビを見ないときは電源プラグを抜いてください。
- 区分名：「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」では、テレビの画素数、表示素子、動画表示および付加機能の有無等に基づいた区分を行っています。その区分名称をいいます。
- 年間消費電力量：年間消費電力量とは、省エネ法に基づいて、1日あたり4.5時間の動作時間/19.5時間の待機時間(電子番組表取得時間を含む)で算出した、1年間に使用する電力量です。
- 「JIS C 61000-3-2 適合品」 - JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。
- 液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られており、微細な画素の集合で表示しています。99.99%以上の有効画素があり、ごく一部(0.01%以下)に光らない画素や、常時点灯する画素などがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。
- 静止画をしばらく表示したあとで映像内容が変わった時に、前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。(故障ではありません。)
- ※ 国外で本品を使用し、有料放送サービスを受用することは有料放送契約上禁止されています。
(It is strictly prohibited, as outlined in the subscription contract, for any party to receive the services of scrambled broadcasting through use of this television set in any country other than Japan and its geographic territory as defined by international Law.)



グリーンマークは、「JIS C 0950電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法」(通称J-Moss)での、特定の化学物質の含有率が基準値以下であることを表すマークです。

USBハードディスクに録画できる時間の目安

- USBハードディスクで録画できる時間の目安は以下ようになります。
- ※ 「自動削除設定」が「する」に設定されている場合、約2時間分の録画領域を確保するために、録画できる時間が下表よりも少なくなることがあります。

例 500GBのハードディスクの場合

放送番組の種類	録画できる時間の目安
地上デジタルハイビジョン放送番組(HD 最大17Mbps)だけを録画する場合	約62時間
BS/110度CSデジタルハイビジョン放送番組(HD 最大24Mbps)だけを録画する場合	約44時間

- 放送番組の種類は、**[サブメニュー]** を押し、**▲・▼** で「番組説明」を選び、**[決定]** を押し表示される番組説明画面上のアイコンで確認することができます。**[34]**
- ハードディスクの残量(録画設定画面に表示される「録画可能時間」および、録画リストのサブメニューの「ハードディスク残量表示」**[68]**)は、BSデジタルハイビジョン放送(24Mbps)を基準に算出しています。そのため、地上デジタルハイビジョン放送(約17Mbps)の録画番組などを削除した場合、残量の増加分は削除した番組の時間よりも少なくなります。

対応機器について

- 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。(www.toshiba.co.jp/regza/)

対応フォーマット

本機で対応しているHDMI入力信号フォーマット

- [VESA規格]の欄に「○」が記載されている信号フォーマットは、本機のHDMI入力端子ではVESA規格に準拠する信号フォーマットにのみ対応しています。機器によっては本機の画面に映像が表示されないか、または正しく表示されないことがあります。その場合は下表に示した入力信号のどれかに合うようにパソコンや映像機器の設定を変更してください。一部のパソコンでは有効画面領域を「解像度」と表記する場合があります、その場合は本機が表示する解像度と異なることがあります。
- リフレッシュレートが24Hzの信号は60Hzに変換して表示されます。

フォーマット名	表示解像度	リフレッシュレート	水平周波数	ピクセルクロック	VESA規格
480i	720×480	59.94 / 60Hz	15.734 / 15.750kHz	27.000 / 27.027MHz	
480p	720×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	27.000 / 27.027MHz	
1080i	1920×1080	59.94 / 60Hz	33.716 / 33.750kHz	74.176 / 74.250MHz	
720p	1280×720	59.94 / 60Hz	44.955 / 45.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
1080p	1920×1080	59.94 / 60Hz	67.433 / 67.500kHz	148.352 / 148.500MHz	
		23.98 / 24Hz	26.973 / 27.000kHz	74.176 / 74.250MHz	
VGA	640×480	59.94 / 60Hz	31.469 / 31.500kHz	25.175 / 25.200MHz	○
SVGA	800×600	60Hz	37.879kHz	40.000MHz	○
XGA	1024×768	60Hz	48.363kHz	65.000MHz	○
WXGA	1280×768	60Hz	47.776kHz	79.500MHz	○
	1360×768	60Hz	47.712kHz	85.500MHz	○
SXGA	1280×1024	60Hz	63.981kHz	108.000MHz	○

ライセンスおよび商標などについて

- **ACCESS™ NetFront®** 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browserを搭載しています。ACCESS、NetFrontは、日本国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。© 2009 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
- **HDMI®** HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。
- **MHL** MHL、Mobile High-Definition Link およびMHLロゴは、MHL, LLC の商標または登録商標です。
- この製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- トスリンクは株式会社東芝の登録商標です。
- Blu-ray Disc™(ブルーレイディスク)、Blu-ray™(ブルーレイ)はブルーレイディスク アソシエーションの商標です。
- 本製品の一部分に Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- この製品に含まれているソフトウェアをリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、分解またはその他の方法で解析、及び変更することは禁止されています。

● **AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE**

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)

アイコン一覧

番組についてのアイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	テレビ放送		放送フォーマットが480pのデジタル標準テレビ放送
	ラジオ放送		複数の映像、または音声またはデータがある番組
	データ放送		視聴年齢制限が設定されている番組
	画面の横と縦の比が16:9の番組の放送		録画回数が制限されている番組
	画面の横と縦の比が4:3の番組の放送		デジタル録画ができる番組
	ステレオ音声放送		有料でデジタル録画ができる番組
	サラウンドステレオ放送		デジタル録画ができない番組
	二重音声放送		光デジタル録音ができる番組
	字幕放送		1回のみ光デジタル録音ができる番組
	マルチビューサービス(複数の映像・音声があり、映像・音声が連動して切り換わる番組)		有料で光デジタル録音ができる番組
	デジタルハイビジョン放送		光デジタル録音ができない番組
	放送フォーマットが1080iのデジタルハイビジョン放送		アナログ録画ができる番組
	放送フォーマットが720pのデジタルハイビジョン放送		有料でアナログ録画ができる番組
	デジタル標準テレビ放送		アナログ録画ができない番組
	放送フォーマットが480iのデジタル標準テレビ放送		

● ダビング、コピー関係のアイコンの中には、本機の機能とは無関係に番組の情報として表示されるものがあります。

お知らせ、予約、その他についてのアイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	録画予約		録画番組が「保護」対象
	連ドラ予約		録画番組が「上書き」対象
	視聴予約		未読の「お知らせ」
	録画中		既読の「お知らせ」
	録画準備中または視聴準備中 録画または視聴予約による視聴開始の約1分前に表示されます。		データの取得中です。
	録画確認中 前番組の放送延長などで録画番組の放送時間が変更されたときなどに表示されます。		非リンク型サービス(通信番組)
	連ドラ予約番組の追跡結果や放送時間変更で、予約が重なったときなどに表示されます。		SSLなどの暗号通信をしている場合

東芝デジタルテレビG9で使われるソフトウェアのライセンス情報

東芝デジタルテレビ32/40/50G9 (G9と略して記載します)に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

東芝デジタルテレビG9は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知(以下、「EULA」といいます)に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧ください。よろしくお願いいたします。

ホームページアドレス

www.toshiba.co.jp/regza/LZ1/eula/

また、東芝デジタルテレビG9のソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、東芝の著作権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた東芝デジタルテレビG9は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になれることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、「as is」(現状)の状態、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけず、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます(データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません)。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

東芝デジタルテレビG9に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文(英文)を記載します。

東芝デジタルテレビG9で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文)

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel busybox parted xfsprogs mtd-utils u-boot cryptsetup	Exhibit A
glibc gcc Cairo libwebsockets libpng-error libcrypt LVM2 libcgroup DirectFB	Exhibit B

対応ソフトウェアモジュール	
jquery	Exhibit E
fuse	Exhibit G
FreeType	Exhibit H
OpenSSL	Exhibit J
mongoose	Exhibit K
dtoa	Exhibit M
libuuid	Exhibit N
popt	Exhibit O
pixman	Exhibit P
jQuery UI	Exhibit Q
Backbone.js	Exhibit R
Underscore.js	Exhibit S



● ブラウザで使用しているオープンソースは、「ブラウザの情報を見る」(95頁)で確認することができます。

東芝デジタルテレビG9で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文)

Exhibit A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright © 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/ or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do

not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/ or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program; if necessary, here is a sample; alter the names:

Yoodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

Exhibit B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in nonfree programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each license is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms.

A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- The modified work must itself be a software library.
- You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the

ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address

東芝デジタルテレビG9で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yooyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

Exhibit E

Copyright 2012 jQuery Foundation and other contributors

http://jquery.com/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit G

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed. [This is the first released version of the library GPL. It is numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too. When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things. To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights.

These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it. For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights. Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library. Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's

free use or not licensed at all. Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you". A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables. The "Library", below, refers to any such software library or work (which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library. Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library. You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- The modified work must itself be a software library.
- You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application.

Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.) These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library. In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices. Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange. If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables. When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.) Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a "work that uses the Library" with the

Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications. You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable. It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances. It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice. This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. END OF TERMS AND CONDITIONS

Exhibit H

Portions of this software are copyright (C) <2007> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Exhibit J

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org. OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License -----

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.
This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscape SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word "cryptographic" can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Exhibit K

Copyright (c) 2004-2011 Sergey Lyubka

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit M

Copyright (C) 1998, 1999 by Lucent Technologies

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both the copyright notice and this permission notice and warranty disclaimer appear in supporting documentation, and that the name of Lucent or any of its entities not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

LUCENT DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL LUCENT OR ANY OF ITS ENTITIES BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

東芝デジタルテレビG9で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文(英文) つづき

Exhibit N

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, and the entire permission notice in its entirety, including the disclaimer of warranties.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ALL OF WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit O

Copyright (c) 1998 Red Hat Software

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE X CONSORTIUM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the X Consortium shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the X Consortium.

Exhibit P

Copyright 1987, 1988, 1989, 1998 The Open Group
 Copyright 1987, 1988, 1989 Digital Equipment Corporation
 Copyright 1999, 2004, 2008 Keith Packard
 Copyright 2000 SuSE, Inc.
 Copyright 2000 Keith Packard, member of The XFree86 Project, Inc.
 Copyright 2004, 2005, 2007, 2008, 2009, 2010 Red Hat, Inc.
 Copyright 2004 Nicholas Miell
 Copyright 2005 Lars Knoll & Zack Rusin, Trolltech
 Copyright 2005 Trolltech AS
 Copyright 2007 Luca Barbato
 Copyright 2008 Aaron Plattner, NVIDIA Corporation
 Copyright 2008 Rodrigo Kumpera
 Copyright 2008 André Tupinambá
 Copyright 2008 Mozilla Corporation
 Copyright 2008 Frédéric Plourde
 Copyright 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
 Copyright 2009, 2010 Nokia Corporation

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice (including the next paragraph) shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit Q

Copyright 2012 jQuery Foundation and other contributors, <http://jqueryui.com/>

This software consists of voluntary contributions made by many individuals (AUTHORS.txt, <http://jqueryui.com/about>) For exact contribution history, see the revision history and logs, available at <http://jquery-ui.googlecode.com/svn/>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit R

Copyright (c) 2010-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Exhibit S

Copyright (c) 2009-2012 Jeremy Ashkenas, DocumentCloud

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

さくいん

アルファベット

A	
AVシステム音声連動.....	79
AVシステムのスピーカーで聴く.....	83
AVシステム連動.....	79
B	
Basic Operations.....	128
BS・110度CSアンテナ電源供給.....	103
BS・110度CSアンテナレベル.....	102
D	
DNS設定.....	85
Dot By Dot.....	44
H	
HDMI自動画質モード設定.....	75
HDMI連動機能.....	78
HDMI連動設定.....	79
HDスーパーライブ.....	44
HDズーム.....	44
I	
IPアドレス設定.....	85
M	
MACアドレス.....	85
MHL対応機器を操作する.....	76
miniB-CAS (ミニビーキャスト)カードを挿入する.....	21
R	
RGBレンジ設定.....	75
U	
USBハードディスクが使用できない.....	118
USBハードディスク設定.....	52
USBハードディスクの設定をする.....	52
USBハードディスクを接続する.....	51
USBハードディスクを本機に登録する.....	52

かな

あ	
アートアラームを使う.....	48
アートクロック(アートアラーム)を使う.....	48
アートクロック表示設定.....	49
アートクロックを表示する.....	48
アイコン一覧.....	134
明るさ検出.....	99
明るさセンサー.....	97
明るさ調整.....	97
あざやか.....	96
頭出し再生.....	63
アドレスを入力してページを見る.....	90
暗証番号削除.....	109
暗証番号設定.....	109
アンテナを接続する.....	24
アンテナを調整する.....	102
い	
色あい.....	97
色温度.....	98
色がおかしい.....	116
色の濃さ.....	97
「インターネット」.....	89
インターネットに接続する.....	84

う	
上書き録画.....	59
え	
映画字幕.....	44
映画プロ.....	96
映像、音声、データを切り換える.....	45
映像が出ない.....	115
映像信号切換.....	45
映像メニュー.....	96
映像を静止させる.....	46
閲覧履歴.....	92
エラーメッセージ.....	121, 122
お	
オーディオ機器で聴く.....	83
「お気に入り」.....	91
「お気に入り」を削除する.....	92
お好みの映像に調整する.....	96
お好みの映像メニューを選ぶ.....	96
お好みの音声に調整する.....	100
お知らせアイコンが消えない.....	117
お知らせを見る.....	125
追っかけ再生.....	63
お手入れについて.....	127
音を一時的に消す.....	31
オフタイマーを使う.....	49
おまかせ.....	96
おまかせ録画について.....	62
音が出ない.....	116
音声切換.....	45
音声信号切換.....	45
音声多重番組で聴きたい音声を選ぶ.....	45
音多切換.....	45
音量を調節する.....	31
か	
外部機器を接続する.....	72
外部入力.....	42
外部入力設定.....	75
外部入力の機能を設定する.....	75
外部入力表示設定.....	75
外部連携設定.....	54
各部のなまえ-前面.....	16
各部のなまえ-背面.....	16
各部のなまえ-リモコン.....	18
画面が暗い.....	116
画面サイズ切換.....	44, 45
乾電池を入れる.....	26
ガンマ調整.....	99
く	
クラウドサービスとネットワークサービス.....	88
黒レベル.....	97
け	
ゲイン調整.....	98
ゲーム.....	96
ゲームノーマル.....	44
ゲームフル.....	44
こ	
降雨対応放送.....	45
高音.....	100
コンテンツモード.....	99
こんな場合は故障ではありません.....	114

さくいん つぎ

さ		
再スキャン	104	
再生タイムバー	65	
再生中のリモコン操作	64	
サブメニュー	33	
し		
システムスタンバイ	77	
視聴予約	56	
室内環境設定	99	
指定した日時の番組表を表示させる	36	
自動削除設定	67	
自動スキャン	104	
自動ダウンロード	124	
字幕を表示させる	31	
シャープネス	97	
週間番組表	36	
仕様	130	
省エネ設定	46	
詳細設定	59	
症状で調べる	114	
使用上のお留意とご注意	15	
消費電力	130	
商標	133	
情報を検索する	91	
初期スキャン	104	
親切ヘッドホーン音量	47	
親切モード	47	
す		
スーパーライブ	44	
ズーム	44	
スピーカー切換	83	
せ		
接続ケーブルの種類と画質・音質の関係	73	
設定の初期化	112	
設定メニュー 一覧	113	
節電モードを切り換える	46	
そ		
操作ガイド	32	
操作無効設定	111	
双方向サービス	41	
ソフトウェアのバージョン	124	
ソフトウェアを更新する	124	
た		
対応機器について	131	
ダイナミックガンマ	99	
ち		
地上デジタルアンテナレベル	102	
地上デジタルチャンネルを自動で設定する	104	
地上デジタル放送が映らない	116	
地デジ難視対策衛星放送を受信するとき	29	
チャンネルスキップ設定	106	
チャンネル並び順設定	38	
チャンネルをお好みに手動で設定する	105	
つ		
追跡キーワード	59	
追跡基準	59	
通常モード	47	
て		
低音	100	
データ信号切換	45	
データ放送終了	41	
データ放送の設定をする	107	
データ放送やラジオ放送を楽しむ	41	
データ放送用メモリーの割当画面	108	
デジタル放送の種類と特徴	24	
テレビが操作できなくなったとき	114	
テレビのスピーカーで聴く	83	
テレビ番組を楽しむ	30	
テレビ→連動機器電源オフ	79	
テレビを設置する	22	
電源がはまらない	115	
電源を入れる	27	
転倒・落下防止のしかた(32G9)	22	
転倒・落下防止のしかた(40G9、50G9)	23	
と		
東芝サーバーからダウンロードする	124	
独立データ放送	41	
に		
日時を指定して予約をする	58	
入力切換	42	
入力文字一覧	43	
入力文字種	43	
ね		
ネットワークサービス	88	
ネットワーク情報	86	
ネットワーク設定	85	
年間消費電力量	130	
の		
ノーマル	44	
は		
ハードディスクの残量	68	
「はじめての設定」	28	
「はじめての設定」をやり直すとき	29	
バックライト	97	
早送り再生	64	
早見早聞	64	
早戻し再生	64	
バランス	100	
番組検索	66	
番組検索(番組を探す)	39	
番組情報を見る	34	
番組説明を見る	34	
番組表	35	
番組表-1チャンネル表示とマルチ表示	37	
番組表-更新	36	
番組表-ジャンル色分け	37	
番組表-週間番組表	36	
番組表-地デジ表示設定	38	
番組表-チャンネル並び順設定	38	
番組表で録画・予約をする	55、56	
番組表-日時切換	36	
番組表に内容が表示されない	117	
番組表の文字が小さい	117	
番組表-番組概要表示設定	38	
番組表-番組記号一覧	38	
番組表-番組情報の取得	36	
番組表-表示チャンネル数設定	38	

番組表-放送メディア切換	38
番組表-文字サイズ変更	37
番組表を便利に使う	36
番組を検索して録画・予約をする	58
番組を並べ替える	68
ひ	
光デジタル音声出力	101
ヒストグラムバックライト制御	98
ビデオ音声入力設定	75
標準	96
ふ	
ファインシネマ	98
付属品を確認する	8
ブラウザ制限設定	110
フル	44
プロキシ設定	85
へ	
ヘッドホーンで聴く	47
便利機能	90
ほ	
ポインターを切り換える	93
放送局からのお知らせ	125
放送時間(連動)	59
放送視聴制限設定	109
ボード	125
ほかのグループに移動する	70
ほかのレグザで再生できない(USBハードディスク)	118
本機に関するお知らせ	125
本機の情報	54
本機の特長	2
本機の入出力対応信号	73
本機のリモコンで対応機器を操作する	80, 82
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき	15
ま	
マイフォルダ	59
マイフォルダの変更	70
マイフォルダ別	69
マイフォルダ名の変更	69
み	
ミニ番組表	36
む	
ムーブ	71
め	
メニュー操作手順の表記について	27
免責事項について	15
も	
文字切換	43
文字スーパー表示設定	107
文字入力モード	43
文字を入力する	43
ゆ	
優先スピーカー	79
郵便番号と地域の設定	107
ユニカラー	97

よ

予約の確認	60
予約の動作	61
予約の取消し	60
予約の変更	60
予約・録画の優先順位について	61

ら

ライセンス	133
ライブプロ	96
ラジオ放送	41

り

リピート再生	68
リモコンコード設定	111
リモコン設定	111
リモコンで操作ができない	115
リモコンで番組を選ぶ	30
リモコン動作モード	79
リモコンの準備をする	26
リモコンの使用範囲について	26
履歴から選んでページを見る	92

る

ルート証明書番号	107
----------	-----

れ

レグザAppsコネクト設定	54
レグザ版あんしんねっと設定	110
レグザリンク	77, 78
レジューム再生	63
レゾリューションプラス	98
レゾリューションプラス設定	98
連続ドラマを予約する	57
連動機器→テレビ電源	79
連動機器→テレビ入力切換	79
連動データ放送	41
連ドラグループ名の変更	69
連ドラ予約	68

ろ

録画ができない、または録画されなかった	118
録画再生設定	53, 64
録画先	59
録画した番組が消えた	118
録画した番組を再生する	63, 64
録画できる機器と番組	50
録画できる時間の目安	131
録画番組の修復	65
録画番組を消す	67
録画番組を保護する	67
録画予約	56
録画・予約機能について	50
録画・録音について	15
録画を中止するとき	55

わ

ワンタッチスキップ	64
ワンタッチスキップ設定	64
ワンタッチプレイ	77
ワンタッチリプレイ	64
ワンタッチリプレイ設定	64

保証とアフターサービス

必ずお読みください

① 基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご確認

ホームページの<お客様サポート>に、ご確認いただきたい情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

www.toshiba.co.jp/regza/

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ (www.toshiba.co.jp/) をご参照ください。

② 商品選びのご相談、お買い上げ後の基本的な取扱方法、故障と思われる場合のご相談

「東芝テレビご相談センター」【受付時間】365日/9:00~20:00

メモ 形名 製造番号

形名と製造番号は、保証書および本体背面に表示されています。

【一般回線・PHSからのご利用は】(通話料:無料)

フリーダイヤル
0120-97-9674

●IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用にならない場合は、
03-6830-1048 (通話料:有料)

【携帯電話からのご利用は】(通話料:有料)

0570-05-5100

【FAXからのご利用は】(通信料:有料)
03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する株式会社東芝を含む東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

修理・お取り扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、上記の「東芝テレビご相談センター」にご相談ください。

保証書 (別添)

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
miniB-CASカードは、保証の対象から除きます。

- 保証期間中の故障は、保証書の内容に基づき無料修理となります。無償商品交換ではありません。
- 訪問修理を依頼され、テレビに原因がないと判明した場合は、保証期間中であっても出張料などを申し受けますので、あらかじめご承知おきください。

補修用性能部品の保有期間

- 液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

- 「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

ご連絡いただきたい内容

品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	32G9、40G9、50G9
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等もあわせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入しておくとう便利です。 TEL() -

廃棄時にご注意願います

- 家電リサイクル法では、ご使用済の液晶テレビを廃棄する場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金(リサイクル料金)をお支払いの上、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。



長年ご使用のテレビの点検をぜひ!

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際
このような症状は
ありませんか?

- 電源を入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物がはいつた。

ご使用中

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9

※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。



ちょっとした
心づかいで
テレビの安全

●製品に付属されている取扱説明書は
モノクロ印刷です。

(TD/OT) VX1A00300700

©TOSHIBA LIFESTYLE PRODUCTS & SERVICES CORPORATION 2014